

**学科到達目標**

国際ビジネス学科では、所定の単位を修得して以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定します。

1. 経営学、外国語と異文化理解、情報処理の知識、技能を総合的に身につけ、それらを応用したビジネス活動ができる。
2. 課題発見能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を持ち、他者と協働できる。
3. 豊かな教養と倫理観を身につけ、社会に貢献できる。

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分
					1年				2年				3年				4年				5年					
					前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
					1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4		
一般	選択	保健	履修単位	1	2																		大橋 千里			
一般	選択	体育 I	履修単位	2	2	2																	大橋 千里, 林直人			
一般	選択	書道	履修単位	1			2																山本 有希, 立麻見			
一般	必修	総合英語 I	履修単位	2	2	2																	テイラー K・ダグラス			
一般	選択	英語表現 I	履修単位	2	2	2																	大畑 真也			
一般	選択	英会話 I A	履修単位	2	2	2																	ソルノキーン, ノーバート, リオリガ			
一般	必修	総合国語 I A1	履修単位	1	2																		久保 陽子			
一般	必修	総合国語 I A2	履修単位	1	2																		鈴木 志保子			
一般	必修	総合国語 I B	履修単位	1			2																久保 陽子			
一般	必修	総合国語 I C	履修単位	1			2																岡部 寛子			
一般	選択	地理	履修単位	2	2	2																	大西 宏治			
一般	選択	音楽	履修単位	1			2																石井 哲夫, 山本 有希			
一般	選択	美術	履修単位	1			2																山本 有希, 河合 雅子			
一般	選択	環日本海諸国語 I B(中国語)	履修単位	1			2																星野 朱美			
一般	選択	環日本海諸国語 I B(韓国語)	履修単位	1			2																天坂 仁美			
一般	選択	環日本海諸国語 I B(ロシア語)	履修単位	1			2																山本 有希			
一般	選択	環日本海諸国語 II B(中国語)	履修単位	1			2																星野 朱美			
一般	選択	環日本海諸国語 II B(韓国語)	履修単位	1			2																天坂 仁美			
一般	選択	環日本海諸国語 II B(ロシア語)	履修単位	1			2																山本 有希			
一般	選択	数学 I A	履修単位	1	2																		櫻井 秀人, 新義典			
一般	選択	理科 I A	履修単位	1	2																		寺崎 由紀子	必履修		
一般	選択	数学 I B	履修単位	1			2																櫻井 秀人, 新義典			
一般	選択	理科 I B	履修単位	1			2																寺崎 由紀子	必履修		
一般	選択	環日本海諸国語 I A(ロシア語)	履修単位	1	2																		山本 有希			
一般	選択	環日本海諸国語 I A(韓国語)	履修単位	1	2																		天坂 仁美			
一般	選択	環日本海諸国語 I A(中国語)	履修単位	1	2																		星野 朱美			





富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	保健
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	現代保健体育「大修館書店」				
担当教員	大橋 千里				
<b>到達目標</b>					
①健康に関する知識や状況を全般的に理解できる ②健康の必要性を認識し、実践する態度を身につける ③体力やスポーツパフォーマンスを高めるためのトレーニング方法を理解できる					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	健康に関する知識を全般的に理解し、健康を身近な問題として積極的に捉えることができる。	健康に関する知識を全般的に理解し、健康を身近な問題として捉えることができる。	健康に関する知識を全般的に理解し、健康を身近な問題として捉えることができない。		
評価項目2	生涯にわたる健康づくりの必要性を認識し、健康的な生活を営むための方法や手段を正しく理解できる。	生涯にわたる健康づくりの必要性を認識し、健康的な生活を営むための方法や手段を理解できる。	生涯にわたる健康づくりの必要性を認識し、健康的な生活を営むための方法や手段を理解できない。		
評価項目3	体力やスポーツパフォーマンスを高めるためのトレーニング方法を正しく理解できる。	体力やスポーツパフォーマンスを高めるためのトレーニング方法を理解できる。	体力やスポーツパフォーマンスを高めるためのトレーニング方法を理解できない。		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
ディプロマポリシー 2 ディプロマポリシー 3					
<b>教育方法等</b>					
概要	現代の健康問題（生活習慣病、メンタルヘルス、職業病など）に関する発生要因について理解を深め、それぞれのライフステージに合った健康づくりに関する取り組みを教養として学習する。				
授業の進め方・方法	基本的にはテキストを用いて講義形式で実施するが、授業内容によってはグループディスカッションやグループワーク等のアクティブラーニングも行う。学生の理解度に応じて、授業計画を変更することがある。				
注意点	現代保健体育テキスト、現代保健体育ノートは毎回使用する。また、現代保健体育ノートは定期試験ごとに教員がチェックをする。 授業中における許可の無い「私語」、「携帯電話等の使用」は認めない。 定評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を50点とする。				
<b>授業の属性・履修上の区分</b>					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
<b>授業計画</b>					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 健康について	日本の健康水準や健康問題を把握し、健康観を考えることができる。	
		2週	生活習慣病と健康①	生活習慣病の症状とその予防について学び、自らの生活習慣を考えることができる。	
		3週	生活習慣病と健康②	健康からみた食事・運動・休養と睡眠の意義について正しい理解をすることができる。	
		4週	生活習慣病と健康③	喫煙と飲酒が及ぼす健康影響を学び、社会の取り組みを理解し、自らの対策を考えることができる。	
		5週	感染症について	感染症が及ぼす影響を学び、その予防方法や対策を理解することができる。	
		6週	心身の健康①	欲求にはどのようなものがあり、心の安定をはかる働きがあるのか理解することができる。	
		7週	心身の健康②	心身相関のしくみとストレスについて学び、自らのストレス対処について考えることができる。	
		8週	応急手当	日常的な応急手当について学び、生活の中で役立てる方法を考えることができる。	
前期	2ndQ	9週	運動・スポーツの文化的特徴①	スポーツの文化的内容やスポーツ文化の変容について理解することができる。	
		10週	運動・スポーツの文化的特徴②	スポーツが社会に及ぼす影響を経済や倫理的観点から理解し、将来の発展について考えることができる。	
		11週	体のつくりと働き	骨格系、筋肉系の正しい名称を覚えるとともに、動きのメカニズムについて理解することができる。	
		12週	スポーツの学び方①	技術と技能の違いを学び、戦術・作戦・戦略について集団球技を例に考えることができる。	
		13週	スポーツの学び方②	技能の上達過程について理解し、練習を効果的に進める工夫について考えることができる。	
		14週	スポーツの学び方③	体力トレーニングを支える基礎理論を学び、自らに必要なトレーニングについて考えることができる。	
		15週	期末試験	前期授業範囲全般を検討の上出題する。	
		16週	成績評価・確認 授業評価アンケート	成績評価の確認をする。授業評価アンケートの実施。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	0	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	体育 I
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「Active Sports 総合版」大修館書店				
担当教員	大橋 千里,林 直人				
到達目標					
(1) 生涯スポーツの観点に立てるよう、運動への関心が高くなる。 (2) 集団行動 (公正、協力、責任) を普段から行えるようにする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	準備・活動の場面において、自己および仲間のとるべき行動を判断し、適切に働きかけながら、主体的に活動できる。	準備・活動の場面において、自己のとるべき行動を判断し、仲間と協力しながら活動できる。	準備・活動の場面において、自己のとるべき行動を判断できない。仲間との協力や活動への自主的な参加ができない。		
評価項目2	自己の能力を理解し、適切な運動技能、運動強度を判断し、応用的技能の習得や体力向上をはかることができる。	教員が指示した運動課題に従い、運動の基本技術や体力を身につけることができる。	教員の指示に従わず、運動の基本技術や体力を身につけることができない。		
評価項目3	自己や周囲の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動や、周囲への声かけができる。	自己の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	安全に留意しながら活動することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 2 ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	(1) スポーツの実践を通して、生涯にわたり継続的にスポーツに親しむ資質や能力を育てる。 (2) 健康の増進と体力の向上を図り、協力的で明るく活力のある生活を営む態度を育てる。				
授業の進め方・方法	準備運動・基礎体力トレーニングまでは全員一斉に実施し、それ以降の活動については男女別々に実施する。1年間を通して、基礎体力トレーニングは実施するとともに、4種目のチーム競技である球技種目を実施する。 事前に行う準備学習：前回の実技の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておくこと。 (授業外学習・事後) 授業内容の復習を行うこと。				
注意点	(授業改善策) 安全に対する態度を促す。 ※本科目では、50点以上の評価で単位を認定する。 評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を50点とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 集団行動訓練①	ガイダンスを通じて、日常生活における時間管理、健康管理などができるようになる。集合隊形、号令を中心とした集団行動ができるようになる。	
		2週	集団行動訓練② 体力診断テスト①	整列と隊列変換を中心とした集団行動を通じて、周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。 正しい測定方法を理解する。新体力テストの測定をし、自らの体力レベルを知る。	
		3週	体力診断テスト②	正しい測定方法を理解する。新体力テストの測定をし、自らの体力レベルを知る。	
		4週	バレーボール①	オーバーハンドパス、アンダーハンドパスを知り、パスゲームができる。	
		5週	バレーボール②	サーブを知り、サーブレシーブからパスをつなげ相手に返すことができる。	
		6週	バレーボール③	スパイクについて学び、三段攻撃ができる。簡易なルールのゲームを通じて、円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる。	
		7週	バレーボール④	ルールを理解し、仲間と楽しめる簡易ルールを話し合い、ゲームを実施することができる。	
		8週	バレーボール⑤	ゲームのプレイおよび審判を行う中で、法令やルールを遵守した行動をとれる。	
	2ndQ	9週	バレーボール⑥	個人技能テストをし、リーグ戦によるゲームを実施することができる。	
		10週	アルティメット①	フライングディスクの特徴をつかみ、パス、キャッチの個人技能を習得できる。	
		11週	アルティメット②	2対2や3対3のミニゲームで個人技能を活用できる。	
		12週	アルティメット③	簡易なルールのゲームで、仲間と協力してゲームを楽しむことができる。	
		13週	アルティメット④	ルールを理解し、仲間と楽しめる簡易ルールを話し合い、ゲームを実施することができる。	

		14週	アルティメット⑤	ゲームのプレイおよび審判を行う中で、法令やルールを遵守した行動をとれる。
		15週	アルティメット⑥	試合計画に従って、仲間と協力してリーグ戦によるゲームを運営することにより、他者の意見を聞き合意形成することができる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	体力診断テスト①	正しい測定方法を理解する。新体力テストの測定をし、自らの体力レベルを知る。
		2週	体力診断テスト②	正しい測定方法を理解する。新体力テストの測定をし、自らの体力レベルを知る。
		3週	バスケットボール①	パス、ドリブル、シュートの個人技能を習得できる。
		4週	バスケットボール②	1対1や2対1のゲームで個人技能を活用できる。
		5週	バスケットボール③	簡易なルールのゲームで、仲間と協力してゲームを楽しむ中で、合意形成のために会話を成立させることができる。
		6週	バスケットボール④	ルールを理解し、仲間と楽しめる簡易ルールを話し合い、ゲームを実施することができる。
		7週	バスケットボール⑤	ゲームのプレイおよび審判を行う中で、法令やルールを遵守した行動をとれる。
		8週	バスケットボール⑥	個人技能テストをし、リーグ戦によるゲームを実施することができる。
	4thQ	9週	タグラグビー①	平パス、スクリューパース、ポップ、ガットを理解し、実施できる。
		10週	タグラグビー②	アタック、ディフェンスを理解し、実施できる。
		11週	タグラグビー③	ルールを知り、チームでスペースを使った攻撃ができる。
		12週	タグラグビー④	チームで組織的な守備ができる。
		13週	タグラグビー⑤	チームで協調・共同することの意義・効果を認識し、リーグ戦によるゲームを通じてゲームの評価と練習課題をチームごとに考えることができる。
		14週	タグラグビー⑥	試合計画に従って、仲間と協力してリーグ戦によるゲームを運営することにより、他者の意見を聞き合意形成することができる。
		15週	授業振り返り	これまでの体育での取り組みを自己評価、相互評価する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	0	0	20	50	0	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	0	30
専門的能力	0	0	0	0	50	0	50
分野横断的能力	0	0	0	20	0	0	20

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	書道
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	書道 I (光村図書)				
担当教員	山本 有希,立田 麻見				
到達目標					
古典を臨書することで技術を習得し、更に多様な書美を追求し『習字』と『書道』の違いを認識させる。創作作品の制作により、自分自身と向き合い、素直に表現する心を養う。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	臨書	原本(手本)を忠実に模写し、尚且つ線質に深みと勢いが有ること。	原本(手本)を模写し、臨書の特徴をとらえることができる。	原本(手本)の特徴がとらえられない。	
評価項目2	創作	言葉の持つ意味を表現でき、自分の思いを線にのせることができる。	言葉の意味の表現が不足しているが、まとめることができる。	自分の思いを表現できる言葉が選ぶことができない。	
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	学習目標(授業のねらい) 古典の臨書で技術を身に付けさせる。筆の理(角度によって線質が変わること)を理解できるよう指導する。創作作品の素材は、自分自身と向き合い、素直に表現できる語句を選べるよう導く。臨書を基に、更に語句に合った表現が出来るように指導する。				
授業の進め方・方法	講義・実習 事前に行う準備学習: 前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。				
注意点	授業計画は、学生の理解度に応じて変更する場合がある。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 楷書の古典とその書風	古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。孔子廟堂碑『天河』の臨書。	
		2週	楷書の古典とその書風	古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。九成宮醴泉銘『清泉』の臨書。	
		3週	楷書の古典とその書風	古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。雁塔聖教序『春光』の臨書。	
		4週	楷書の古典とその書風	古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。顔氏家廟碑『守道』の臨書。	
		5週	楷書の古典とその書風	古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。牛欄造像記『妙楽』の臨書。	
		6週	行書の古典とその書風	古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。蘭亭序『清風』の臨書。	
		7週	行書の古典とその書風	古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。蘭亭序の臨書。	
		8週	行書の古典とその書風	古典の特徴と用筆を説明し、模範を示す。風信帖『惠風』の臨書。	
	4thQ	9週	行書の古典とその書風	蘭亭序または風信帖から自由に選んだ文字の臨書。	
		10週	漢字仮名交じりの書	構成や線質によって変化することを示し、歌の一節などを書かせる。	
		11週	漢字仮名交じりの書	構成や線質によって変化することを示し、歌の一節などを書かせる。	
		12週	色紙作品	自身で選んだ語句の漢字を辞書で調べ、構成し自分なりに表現し書かせる。	
		13週	色紙作品	アドバイス、または教員が参考手本を書き、ひたすら書き込ませる。	
		14週	色紙作品	色紙に清書し、押印し、作品を完成させる。	
		15週	鑑賞とまとめ	出来上がった色紙作品の鑑賞会。作品についての制作意図を述べ、また他の生徒の作品について感じたことを述べる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ
					その他
					合計

総合評価割合	0	30	0	20	50	0	100
基礎的能力	0	30	0	20	50	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合英語 I
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	New Rays English Communication I New Edition, 英単語クリティカル+				
担当教員	テイラー K・ダグラス				
到達目標					
1. Read basic English passages about various topics as well as exchange their opinions in English. 2. Understand how basic grammar works in English. 3. Be able to summarize and and explain content in English.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	英検準2級レベルの英文を読み、素早く内容把握でき、自分の意見を英語で豊かに表現できる。		英検準2級レベルの英文を読み、内容理解ができ、自分の意見を英語で表現できる。		英検準2級レベルの英文を読むことが困難である。また自分の意見を英語で表現できない。
	Be able to read, with understanding, Eiken Pre-2 level English, quickly grasp the content, and express opinions richly in English.		Be able to read, with understanding, Eiken Pre-2 level English, and express one's opinions adequately in English.		Read English at the Eiken Pre-2 level with difficulty and some misunderstandings. Inability to adequately express opinions in English.
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	This course aims to develop students' reading proficiency in English. The textbook for this course is organized around reading passages about various topics as well as key grammatical features that are essential for reading comprehension. Therefore, the instructional emphasis is placed on reading skills such as reading for the main idea and reading for details. Throughout the course, students are encouraged to engage with communication in English.				
授業の進め方・方法	The class will be conducted in English. When introducing new materials or understanding the main idea, English will be the main vehicle for communication. 60% of the assessment is based on the regular paper-based exams and 20% is based on class participation and weekly homework assignments and 20% is based on weekly vocabulary quizzes. 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。				
注意点	Students are encouraged to study for the vocabulary test every week. Students should score more than 60 on average in order to pass the course. If they fail the course, students are eligible to retake the exam.				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Lesson 1: The Future is Yours	Introduction to the course objectives and assessment criteria.	
		2週	Lesson 1: The Future is Yours	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.	
		3週	Lesson 1: The Future is Yours	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.	
		4週	Lesson 2: The Power of Design	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.	
		5週	Lesson 2: The Power of Design	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.	
		6週	Lesson 3: Plastic is Everywhere	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.	
		7週	Lesson 3: Plastic is Everywhere	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.	
		8週	Midterm Test	Test covering contents from class.	
	2ndQ	9週	Lesson 4: OriHime, A Vehicle of Your Heart	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.	
		10週	Lesson 4: OriHime, A Vehicle of Your Heart	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.	
		11週	Lesson 4: OriHime, A Vehicle of Your Heart	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.	
		12週	Lesson 5: Satoko and Nada	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.	
		13週	Lesson 5: Satoko and Nada	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.	
		14週	Lesson 5: Satoko and Nada	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.	
		15週	FINAL TEST	Test covering contents from class.	
		16週	Evaluation and Feedback	Review of contents from class.	

後期	3rdQ	1週	Lesson 6: The Voice of Children	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.
		2週	Lesson 6: The Voice of Children	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.
		3週	Lesson 7: Human Habitation on Mars	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.
		4週	Lesson 7: Human Habitation on Mars	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.
		5週	Lesson 7: Human Habitation on Mars	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.
		6週	Lesson 8: A Loving Story	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.
		7週	Lesson 8: A Loving Story	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.
		8週	MIDTERM	Test covering contents from class.
	4thQ	9週	Lesson 9: Edo, The Resilient City	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.
		10週	Lesson 9: Edo, The Resilient City	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.
		11週	Lesson 9: Edo, The Resilient City	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.
		12週	Lesson 10: A Quality Education for All	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.
		13週	Lesson 10: A Quality Education for All	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.
		14週	Lesson 10: A Quality Education for All	Students are able to listen to and read the main main text with adequate understanding.
		15週	FINAL	Test covering contents from class.
		16週	Evaluation and Feedback	Review of contents from class. Perhaps Reading Passage?

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	中間試験 1	中間試験 2	期末試験 1	期末試験 2	宿題・授業参加	単語のテスト	合計
総合評価割合	15	15	15	15	20	20	100
基礎的能力	15	15	15	15	20	20	100

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語表現 I
科目基礎情報					
科目番号	0005		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	『英文法・語法 Swing』(学研), 『総合英語One』(アルク)				
担当教員	大畑 真也				
到達目標					
基本的な英文の構造と意味を理解することができる。また、それらの理解を基盤として英語で基礎的な表現をすることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	英検準2級レベルの語彙や文構造を用いた英文を聞いたり読んだりして、その内容を正確に理解することができる。		英検準2級レベルの語彙や文構造を用いた英文を聞いたり読んだりして、その内容をだいたい理解することができる。		英検準2級レベルの語彙や文構造を用いた英文を聞いたり読んだりして、その内容をほとんど理解することができない。
評価項目2	英検準2級レベルの言語材料を用いて、自分の考えや身のまわりのことについて、十分に相手に伝わるように話す(発表・やりとり)ことができる。		英検準2級レベルの言語材料を用いて、自分の考えや身のまわりのことについて、だいたい相手に伝わるように話す(発表・やりとり)ことができる。		英検準2級レベルの言語材料を用いて、自分の考えや身のまわりのことについて、あまり話す(発表・やりとり)ことができない。
評価項目3	英検準2級レベルの言語材料を用いて、自分の考えや身のまわりのことについて、十分に相手に伝わるように書くことができる。		英検準2級レベルの言語材料を用いて、自分の考えや身のまわりのことについて、だいたい相手に伝わるように書くことができる。		英検準2級レベルの言語材料を用いて、自分の考えや身のまわりのことについて、ほとんど書くことができない。
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	(1)目標: 英検準2級~2級レベルの語法の理解を目標とし、身近な事象に対して自分の考えを表現することができる。 (2)概要: 音読や自己表現を積極的に行い、演習を通して正しい語法に慣れる。				
授業の進め方・方法	教員単独による講義並びに演習を基本とする。また、適宜学生どうしの学び合いも取り入れつつ進めていく予定である。				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスはあくまで予定であり、授業スケジュールをは変更する可能性があります。</li> <li>・授業には英和辞典、和英辞典を持参する。</li> <li>・口頭発表、レポート等の提出を実施する。</li> <li>・評価が50点に満たないものは、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められたものは、その評価を50点とする。</li> </ul>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の概要や目的について理解する。自己紹介などを行う。	
		2週	品詞・文型・動詞①	英文法の基本概念を理解し、問題を解くことができる。	
		3週	品詞・文型・動詞②	英文法の基本概念を理解し、問題を解くことができる。	
		4週	時制①	時制についての基本概念を理解し、問題を解くことができる。	
		5週	時制②	時制についての基本概念を理解し、問題を解くことができる。	
		6週	助動詞①	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	助動詞②	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		8週	中間試験	成績評価・確認	
	2ndQ	9週	答案の返却態	解答と解説等能動態と受動態について理解し、問題を解くことができる。	
		10週	仮定法①	仮定法の概念を理解し、問題を解くことができる。	
		11週	仮定法②	仮定法の概念を理解し、問題を解くことができる。	
		12週	不定詞・動名詞・分詞①	不定詞・動名詞・分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		13週	不定詞・動名詞・分詞②	不定詞・動名詞・分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		14週	不定詞・動名詞・分詞③	不定詞・動名詞・分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		15週	期末試験	成績評価・確認	
		16週	答案の返却等	成績評価・確認等	
後期	3rdQ	1週	疑問詞①	疑問詞や疑問文について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	疑問詞②	疑問詞や疑問文について理解し、問題を解くことができる。	

4thQ	3週	疑問詞③	疑問詞や疑問文について理解し、問題を解くことができる。
	4週	接続詞・関係詞①	接続詞や関係詞について理解し、問題を解くことができる。
	5週	接続詞・関係詞②	接続詞や関係詞について理解し、問題を解くことができる。
	6週	接続詞・関係詞③	接続詞や関係詞について理解し、問題を解くことができる。
	7週	これまでの復習	これまでに学習してきた内容を踏まえ、自分についてや様々な意見を書くことができる。
	8週	中間試験	成績評価・確認
	9週	答案の返却	解答と解説等
	10週	比較①	英語の比較について理解し、問題を解くことができる。
	11週	比較②	英語の比較について理解し、問題を解くことができる。
	12週	前置詞	英語の前置詞について理解し、問題を解くことができる。
	13週	動詞の語法①	動詞の語法について理解し、問題を解くことができる。
	14週	動詞の語法②	動詞の語法について理解し、問題を解くことができる。
	15週	学年末試験	成績評価・確認
	16週	答案の返却	解答と解説等

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

### 評価割合

	試験	小テスト	提出物	発表	相互評価	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英会話 I A
科目基礎情報					
科目番号	0006		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	American Headway 1A (3rd edition); Communication Spotlight: Business 1				
担当教員	ソルノキー ノーバート,リ オリガ				
到達目標					
1. To develop strategies and methods to improve English communication through targeted speaking activities. 2. To promote Leaner Agency in the classroom. 3. To develop Motivation and Confidence to communicate in English through meaningful and relevant teaching materials and course content. 4. To increase vocabulary, word chunks and useful expressions. 5. To improve reading, writing and listening skills (to lesser degree) through targeted activities in the textbook.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安 Ideal level of achievement (80%)	標準的な到達レベルの目安 Standard Level of Achievement (50%)	未到達レベルの目安 Unacceptable Level of Achievement <50%		
評価項目1 English: Pronunciation, intonation, rhythm, stress, linking	Student clearly displays a high level of control of English.	Student partially displays moderate control of English.	Student displays a low control of English.		
評価項目2 Communication and Conversation	Student clearly displays a high level to communicate ideas/opinions clearly and effectively. Actively engages in conversation and makes efforts to move the conversation forward.	Student displays a moderate level to communicate ideas/opinions clearly and effectively. Occasionally, engages in conversation and makes some effort to move the conversation forward.	Student displays a low level to communicate ideas/opinions clearly and effectively. Seldom engages in conversation and makes little effort to move the conversation forward.		
評価項目3 Grammar in Conversation	Student produces language with a high level of accuracy of grammatical and lexical structures.	Student produces language with a moderate level of accuracy of grammatical and lexical structures.	Student produces language with a low level of accuracy of grammatical and lexical structures.		
Delivery: Confidence, Memory, Eye-contact, Physical Message	Student displays a high level of control and effectively executes all items of Delivery.	Student displays a moderate level of control and effectively executes all items of Delivery.	Student displays a low level of control and effectively executes all items of Delivery.		
Textbook Contents: grammar, listening, reading, and computer exercises	Student clearly displays a high level of understanding of the textbook contents and computer assisted exercises	Student displays a moderate level of understanding of the textbook contents and computer assisted exercises	Student displays a low level of understanding of the textbook contents and computer assisted exercises		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	Introduction of useful vocabulary and expressions including word chunks to conduct basic English conversations in everyday life and business settings on a variety of targeted Topics and Issues. Targeted speaking and presentation activities will be conducted in conjunction with the contents of the textbook.				
授業の進め方・方法	teacher-student lecture form, pair-work, group-workによるtask-based learning, group-based learning.				
注意点	Assignments must be turned in by the specified deadline (if any). Students not present in class should inform the teacher. Make up exams or missed deadlines should be discussed with the teacher. This syllabus is subject to change. If the student didn't meet the overall minimal level of achievement for a grade (50%) at the end of the school year, then the student can take a make-up exam at the beginning of the next school year to reach the minimal level.				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1週	Guidance Introductions	Explanation of syllabus. Introduction activities.		
	2週	Unit 1 You and Me	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure. HW: textbook grammar activities		
	3週	Unit 1 Expansion	grammar check; reading, listening, speaking activities HW: Everyday English		
	4週	Unit 1 Expansion - video	Unit's video lesson: video + worksheet HW: prepare discussion questions; writing		
	5週	Unit 1 Expansion - speaking	Speaking: Video lesson discussion		
	6週	Unit 2 A Good Job.	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure. HW: textbook grammar activities		
	7週	Unit 2 Expansion	grammar check; reading, listening, speaking activities HW: Everyday English		

2ndQ	8週	中間試験	Unit 1 - grammar and writing	
	9週	Unit 2 Expansion - video	Unit's video lesson: video + worksheet HW: prepare discussion questions; writing	
	10週	Unit 2 Expansion - speaking	Speaking: Video lesson discussion	
	11週	Unit 3 Work hard play hard	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure. HW: textbook grammar activities	
	12週	Unit 3 Expansion	grammar check; reading, listening, speaking activities HW: Everyday English	
	13週	Interview Test 1. (Prep)	Topics: Hometown, Studies, Work, Family, Future Dreams, Politics.	
	14週	Interview Test 1.	cont.; Practice for Final Test	
	15週	期末試験	Units 1-3 - speaking	
	16週	成績確認	成績の評価。既習事項の定着と確認。 授業評価アンケートの実施	
後期	3rdQ	1週	Unit 4 Somewhere to live	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure. HW: textbook grammar activities
		2週	Unit 4 Expansion	grammar check; reading, listening, speaking activities HW: Everyday English
		3週	Unit 4 Expansion - video	Unit's video lesson: video + worksheet HW: prepare discussion questions; writing
		4週	Unit 4 Expansion - speaking activity	Speaking: Video lesson discussion
		5週	Unit 5 Super Me.	Explaining my home (emphasis on prepositions of place)
		6週	Unit 5 Expansion	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure.
		7週	Unit 5 Expansion - video	speaking and listening activities.
		8週	中間試験	Unit 4 - grammar and writing
	4thQ	9週	Unit 5 Expansion - speaking	reading and writing activities.
		10週	Unit 6 Life's Ups and Downs	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure. HW: textbook grammar activities
		11週	Unit 6 Expansion	grammar check; reading, listening, speaking activities HW: Everyday English
		12週	Unit 6 Expansion - video	Unit's video lesson: video + worksheet HW: prepare discussion questions; writing
		13週	Interview Test 2. (Prep)	Topics: Travel, internet, Sports, Festivals, Music, Cellular Phones.
		14週	Interview Test 2.	cont.; Practice for Final Test
		15週	期末試験	Units 4 - 6 - Speaking
		16週	成績確認	成績の評価。既習事項の定着と確認。 授業評価アンケートの実施

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	中間試験 1	期末試験 1	中間試験 2	期末試験 2	宿題・発表・授業参加	
総合評価割合	25	25	25	25	0	合計
リーディング	25	0	25	0	0	100
リスニング	0	0	0	0	0	50
スピーキング	0	25	0	25	0	0
						50

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合国語 I A1
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「現代の国語」「言語文化」(大修館書店)				
担当教員	久保 陽子				
到達目標					
調べる、整理する、思考する、書く、といった学習に必要な基本を学習する。必要に応じて文献を調査し、正しく引用し、自分の意見を論理的に話したり、書いたりできるようにする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	実用的な文章を、適切な形式や語句を用いて効果的に作成できる。	実用的な文章を、適切な形式や語句を用いて作成できる。	実用的な文章を、適切な形式や語句を用いて作成できない。		
評価項目2	常用漢字の音訓を正しく使える。常用漢字が8割以上書ける。	常用漢字の音訓を正しく使える。常用漢字が8割書ける。	常用漢字の音訓を正しく使える。常用漢字が書けない。		
評価項目3	文学的な文章に描かれた人物やものの見方を理解し、根拠に基づき自分の意見を述べるができる。	文学的な文章に描かれた人物やものの見方を理解し、自分の意見を述べるができる。	文学的な文章に描かれた人物やものの見方を理解し、自分の意見を述べるができない。		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	学校生活、または社会に出てからも役立つよう、言葉の使い方、情報の調査の仕方、メールの書き方など、基本的な知識やマナーを身につける。文学的な文章に描かれる登場人物の心情やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べたり、他者の意見を理解することで、国語の総合力を養っていく。作品の読解を通して、自分の生きる社会や文化について考えを深めていく。				
授業の進め方・方法	義務教育レベルの漢字については、毎時、小テストを実施し、読み・書きの定着を図る。教科書の内容については基本的には講義形式だが、調べ学習や発表等、受講生から積極的な参加をうながしたい。 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。				
注意点	受け身ではなく、積極的に授業に参加してほしい。授業内容については、状況に応じて受講生と相談のうえ変更する可能性もあるのでご了承ください。 本科目では、50点以上の評価で単位を認定する。評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を50点とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 自己紹介	国語を学ぶ意義について自分の言葉で説明できる。	
		2週	論理的な文章の読解 1-1 -的確に伝える	文章の構成や筆者の主張を理解できる。	
		3週	論理的な文章の読解 1-2 -的確に伝える	口頭発表を工夫して行える。	
		4週	図書館の使い方・情報の調べ方	OPACや図書館の使い方を理解し、適切に利用できる。	
		5週	辞書の使い方	電子辞書の使い方を理解し、適切に利用できる。	
		6週	論理的な文章の読解 2-1 -要点をつかむ	各段落の細部を検証し、語句や論旨を捉えることができる。	
		7週	論理的な文章の読解 2-2 -要点をつかむ	全体の構造を理解し、作品に対する自分の意見を表現できる。	
		8週	前期中間試験	これまでの知識の定着をはかる。	
	2ndQ	9週	文学的な文章の読解 1-1 -言葉の紡ぐ世界	全体を音読し、段落分けをすることができる。	
		10週	文学的な文章の読解 1-2 -言葉の紡ぐ世界	各段落の細部を検証し、語句や論旨を捉えることができる。	
		11週	文学的な文章の読解 1-3 -言葉の紡ぐ世界	作家や作品の時代背景について整理し、説明できる。	
		12週	文学的な文章の読解 1-4 -言葉の紡ぐ世界	表現される登場人物の心境や状況について、文章から読み取ることができる。	
		13週	文学的な文章の読解 1-5 -言葉の紡ぐ世界	作品の下敷きになった先行作品との比較から、相対的に作品についての理解を深めることができる。	
		14週	文学的な文章の読解のまとめ	全体の構造を理解し、作品に対する自分の意見を表現できる。	
		15週	後前期期末試験	これまでの知識の定着をはかる。	
		16週	期末試験の解答・復習	答案返却。これまでの復習と定着を図る。自己の学習到達度を知る。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合国語 I A2
科目基礎情報					
科目番号	0009		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「現代の国語」「言語文化」(大修館書店)				
担当教員	鈴木 志保子				
到達目標					
調べる、整理する、思考する、書く、といった学習に必要となる基本を学習する。必要に応じて文献を調査し、正しく引用し、自分の意見を論理的に話したり、書いたりできるようにする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	実用的な文章を、適切な形式や語句を用いて効果的に作成できる。	実用的な文章を、適切な形式や語句を用いて作成できる。	実用的な文章を、適切な形式や語句を用いて作成できない。		
評価項目2	常用漢字の音訓を正しく使える。常用漢字が8割以上書ける。	常用漢字の音訓を正しく使える。常用漢字が8割書ける。	常用漢字の音訓を正しく使える。常用漢字が書けない。		
評価項目3	文学的な文章に描かれた人物やものの見方を理解し、根拠に基づき自分の意見を述べるができる。	文学的な文章に描かれた人物やものの見方を理解し、自分の意見を述べるができる。	文学的な文章に描かれた人物やものの見方を理解し、自分の意見を述べるができない。		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	文学的な文章に描かれる登場人物の心情やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べたり、他者の意見を理解することで、国語の総合力を養っていく。作品の読解を通して、自分の生きる社会や文化について考えを深めていく。また論理的な文章の読解を通して、言葉で書かれた情報を的確に整理、理解し、読解・発信する力を養う。				
授業の進め方・方法	義務教育レベルの漢字については、毎時、小テストを実施し、読み・書きの定着を図る。教科書の内容については基本的には講義形式だが、調べ学習や発表等、受講生から積極的な参加をうながしたい。事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。(授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。(授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。				
注意点	受け身ではなく、積極的に授業に参加してほしい。授業内容については、状況に応じて受講生と相談のうえ変更する可能性もあるのでご了承ください。本科目では、50点以上の評価で単位を認定する。評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を50点とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 自己紹介	国語を学ぶ意義について自分の言葉で説明できる。	
		2週	文学的な文章の読解 1-1 - 短歌・俳句・詩	伝統的な表現を味わい、表現形式や歴史について説明できる。	
		3週	文学的な文章の読解 1-2 - 短歌・俳句・詩	作家や作品の時代背景について整理し、説明できる。	
		4週	文学的な文章の読解 1-3 - 短歌・俳句・詩	語句、リズム、レトリックなど、作品の表現を味わいながら、作品を読解することができる。	
		5週	文学的な文章の読解 1-4 - 短歌・俳句・詩	創作や意見の発表を工夫して行える。	
		6週	論理的な文章の読解 1-1 - 他者と交流する	各段落の細部を検証し、語句や論旨を捉えることができる。	
		7週	論理的な文章の読解 1-2 - 他者と交流する	全体の構造を理解し、作品に対する自分の意見を表現できる。	
		8週	前期中間試験	これまでの知識の定着をはかる。	
	2ndQ	9週	論理的な文章の読解 2-1 - 主張を吟味する	全体を音読し、段落分けをすることができる。	
		10週	論理的な文章の読解 2-2 - 主張を吟味する	各段落の細部を検証し、語句や論旨を捉えることができる。	
		11週	論理的な文章の読解 2-3 - 主張を吟味する	文章の構成や筆者の主張を理解できる。	
		12週	論理的な文章の読解 3-1 - 考えを発信する	全体を音読し、段落分けをすることができる。	
		13週	論理的な文章の読解 3-1 - 考えを発信する	各段落の細部を検証し、語句や論旨を捉えることができる。	
		14週	論理的な文章の読解 3-1 - 考えを発信する	口頭発表を工夫して行える。	
		15週	後前期末試験	これまでの知識の定着をはかる。	
		16週	期末試験の解答・復習	答案返却。これまでの復習と定着を図る。自己の学習到達度を知る。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	85	0	0	0	0	15	100
基礎的能力	65	0	0	0	0	15	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合国語 I B
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「言語文化」(大修館書店)				
担当教員	久保 陽子				
到達目標					
内容・構成・展開など叙述に即して的確に捉える。作品に表れるものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈する。古文や漢文の表現に触れ、日本文化・文学への理解を深めるとともに、言語文化について自分自身の考えを持ち、論理的に発表したり、書いたりすることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	義務教育レベルの漢字を読み書きできる。	義務教育レベルの漢字を8割以上読み書きできる。	義務教育レベルの漢字を8割以上読み書きできない。		
評価項目2	古文・漢文を含め文学作品を読解することができる。	古文・漢文を含め文学作品を読解することができる程度である。	古文・漢文を含め文学作品を読解することができない。		
評価項目3	作品に対する考察が十分にでき、それを自分の言葉できちんと表現できる。	作品に対する考察ができ、それを自分の言葉で表現できる。	作品に対する考察ができず、それを自分の言葉で表現できない。		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	古典を含む文学的な文章を扱いながら、国語の総合力を養っていく。作品の読解を通して、自分の生きる社会や文化について考えを深めていく。また古典を含む文学作品に親しみ、解説・解釈するだけでなく、自らの考察をレポートに書いたり、発表したりできるようにする。				
授業の進め方・方法	義務教育レベルの漢字については、毎時、小テストを実施し、読み・書きの定着を図る。教科書の内容については基本的には講義形式だが、音読や調べ学習、発表等、受講生から積極的な参加をうながしたい。 (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。				
注意点	受け身ではなく、積極的に授業に参加してほしい。授業内容については、状況に応じて受講生と相談のうえ変更する可能性もあるのでご了承ください。 本科目では、50点以上の評価で単位を認定する。評価が50点に満たない者は、願出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を50点とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	古典における音読の重要性を確認し、実際に音読してみる。	
		2週	古文1-1 一見のそら寝	音読を通して、作品の大意を理解し、説明できる。	
		3週	古文1-2 一見のそら寝	内容・構成・展開などを叙述に即して的確にとらえる。	
		4週	古文1-4 一見のそら寝	古文の文法や発音や単語の意味を理解できる。	
		5週	古文1-1 一古文に親しむ(絵仏師良秀/阿蘇の史、盗人にあひてのがるること)	音読を通して、作品の大意を理解し、説明できる。	
		6週	古文1-2 一古文に親しむ(絵仏師良秀/阿蘇の史、盗人にあひてのがるること)	内容・構成・展開などを叙述に即して的確にとらえる。	
		7週	古文1-3 一古文に親しむ(絵仏師良秀/阿蘇の史、盗人にあひてのがるること)	言語文化について自分の考えをもち、表現する。	
		8週	後期中間試験	既習事項の確認と定着を図る。 自身の学習の仕方を点検する。	
	4thQ	9週	漢文1-1 一論語・孟子	返り点や送り仮名などの基礎を確認する。	
		10週	漢文1-2 一論語・孟子	再読文字などの基礎を確認する。	
		11週	漢文1-3 一論語・孟子	主な助字の種類と用法について理解し、説明できる。	
		12週	漢文2-1 一蛇足	内容・構成・展開などを叙述に即して的確にとらえる。	
		13週	漢文2-2 一蛇足	漢文の作品読解を通して、故事成語の成り立ちを理解し、説明できる。	
		14週	漢文2-3 一蛇足	言語文化について自分の考えをもち、表現する。	
		15週	期末試験	これまでの復習と定着を図る。	
		16週	期末試験の解答・復習	答案返却。自己の学習到達度を知る。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合国語 I C
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0011		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	自主教材				
担当教員	岡部 寛子				
<b>到達目標</b>					
義務教育レベルの国語力の復習と定着を目指すとともに、論理的文章および文学的文章を根拠に基づき論理的に理解する能力を育てる。漢字や語句についても、まずは義務教育レベルの復習と定着を目指す。日本人が古来愛読してきた古典を読み理解することで、日本人としての基礎的教養と多様なものの見方を身につける。					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的文章や文学的文章を論理的に理解し、自分の言葉で説明することができる。	論理的文章や文学的文章を論理的に理解し、説明することができる。	論理的文章や文学的文章を論理的に理解し、説明することができない。		
評価項目2	古文の歴史的仮名遣いを理解し、音読して、内容を把握し自分の言葉で説明することができる。	古文の歴史的仮名遣いを理解し、音読して、内容を把握し説明することができる。	古文の歴史的仮名遣いを理解し、音読して、内容を把握し説明することができない。		
評価項目3	漢文の規則を理解し、音読し書き下し文に改め、内容を自分の言葉で説明することができる。	漢文の規則を理解し、音読し書き下し文に改め、内容を説明することができる。	漢文の規則を理解し、音読し書き下し文に改め、内容を説明することができない。		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
ディプロマポリシー 3					
<b>教育方法等</b>					
概要	義務教育レベルの国語力の復習と定着を目指すとともに、論理的文章を論理を把握し、理解する。文学的文章を登場人物の心情を理解し、テーマを考える。また、日本人が古来愛読してきた古典を読み理解することで、基礎的教養と多様なものの見方を身につける。古典を通して広がりや深みのある語彙力を身につける。作品についての調査や考察を文章にまとめ、発表する。				
授業の進め方・方法	講義形式で行うが、音読等による授業参加を加えて理解を深める。 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 関連科目 内容の関連：総合国語IA・総合国語IB（後期） コミュニケーション能力：外国語・保健体育 人間の探求と複眼的思考：歴史・政治経済</li> <li>◆ 受講する皆さんへのメッセージ： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生の積極的な参加、発言、介入を期待している。</li> <li>・ 双方向のやりとりを増やし、理解の定着を目指す。</li> <li>・ 理解度を確認し進めるため、シラバスの若干の変更はあり得る。</li> <li>・ 的確な板書を心がけ、ノートをとる時間を確保する。</li> <li>・ 評価が60%に満たない学生には、追認試験を行うことがある。</li> </ul> </li> </ul>				
<b>授業の属性・履修上の区分</b>					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
<b>授業計画</b>					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	なめとこ山の熊	全文を音読し、テーマを考え、文章にしてみる。	
		2週	なめとこ山の熊	小十郎の人物像を読み取り、小十郎となめとこ山の熊との関係を考える。	
		3週	なめとこ山の熊	町の旦那と小十郎の関係を読み取る。小十郎が熊との出会いを通してどのように変化していくかを読み取る。	
		4週	なめとこ山の熊 永訣の朝	小十郎の死の場面から、テーマを掘り下げる。 宮沢賢治の代表作である妹の死を詠んだ詩を味わう。	
		5週	方丈記	冒頭「ゆく川の流れ」を音読し、内容を理解する。「方丈記」のテーマを理解する。	
		6週	方丈記	冒頭「ゆく川の流れ」を音読し、内容を理解する。「方丈記」のテーマを理解する。	
		7週	方丈記	冒頭「ゆく川の流れ」を音読し、内容を理解する。「方丈記」のテーマを理解する。	
		8週	後期中間試験	既習事項の確認と定着を図る。 自身の学習の仕方を点検する。	
	4thQ	9週	ミロのヴィーナス	全文を音読し、全体の構成を読み取る。 抽象的な語句の意味を理解する。	
		10週	ミロのヴィーナス	ヴィーナスの両腕の復元案について考察する。	
		11週	ミロのヴィーナス	失われたものが「手」である意味を考え、この文章のテーマについて掘り下げる。	
		12週	四面楚歌	歴史の背景と作者司馬遷について理解する。 全文を音読し、書き下し文に直してみる。	

		13週	四面楚歌	全文を音読し、書き下し文に直してみる。 書き下し文を見ながら、解釈をする。漢文の重要語句と構文を理解する。
		14週	四面楚歌	全文を音読し、書き下し文に直してみる。 書き下し文を見ながら、解釈をする。
		15週	期末試験	既習事項の確認と定着を図る。
		16週	答案返却	答案を返却し、学習を確認する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3		
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3			
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3			
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3			
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3			
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3			
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3			
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3			
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3			
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3		
			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3			
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3			
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3			
			円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3			
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3			
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	3			
			合意形成のために会話を成立させることができる。	3			
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3			
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3			
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3			
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3			
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3			
			情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3			
			目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3			
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	3			
			複数の情報を整理・構造化できる。	3			
			特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3			
	課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3					
	グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3					
	どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3					
	適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3					
	事実をもとに論理や考察を展開できる。	3					
	結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3					
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3		
				目標の実現に向けて計画ができる。	3		
目標の実現に向けて自らを律して行動できる。				3			
日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。				3			

			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
			自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	
			その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	
			キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	
			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	3	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	
			コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	地理
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0012		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	二宮書店『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』、二宮書店『詳解現代地図』、第一学習社『最新地理図表 GEO』。				
担当教員	大西 宏治				
<b>到達目標</b>					
①学習している対象地域を常に地図帳上で確認できる。 ②人間の諸活動と自然との関わりを感得できる。 ③日本と周辺諸国との間に存在する地域構造を知り、自分たちの生活がその構造の上に成立していることを自覚をする。					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	地図帳を活用して、世界に関する様々な地域の課題を調べたり理解したりできる。	地図帳を活用して、世界に生起する様々な地域の課題について、一部の地域であれば調べたり理解したりできる。	地図帳を活用して、世界で生起する様々な地域の問題を課題について、ほとんど調べたり理解できない。		
評価項目2	人間の諸活動と自然との関わりについて十分に理解できる。	人間の諸活動と自然との関わりについておおむね理解できる。	人間の諸活動と自然との関わりについて不十分な理解しかない。		
評価項目3	日本と周辺諸国との地域構造について十分に理解できる。	日本と周辺諸国との地域構造についておおむね理解できる。	日本と周辺諸国との地域構造についてほとんど理解できない。		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
ディプロマポリシー 3					
<b>教育方法等</b>					
概要	前期から後期半ばまでは地図活用や自然地理を中心に、後期半ばから人文地理を中心に授業を行う。我々が暮らす地球上では、地域によって異なった景観を見せ、異なった生活様式が営まれている。その差異は全て背景があり、科学的に検証することによって「地域構造」というかたちが浮かび上がってくる。その「地域構造」という概念を学生に知らせることが最終的目標である。				
授業の進め方・方法	教員単独による講義 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。				
注意点	①白地図等による作業を適時入れる。 ②評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を50点とする。評価方法および評価基準は本試験に準じる。				
<b>授業の属性・履修上の区分</b>					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
<b>授業計画</b>					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	球面上の世界	ガイダンス (目的・内容・方法・評価など授業計画の説明)。地球上の位置と時差、世界観について理解する	
		2週	世界から見た日本の位置と領域	地図投影法や国家の領域について理解する	
		3週	グローバルにみる国家と領域	さまざまな資源をめぐる領有権やかかわりのある国々の間の関係性について理解する	
		4週	国家間の結びつき	国際組織や通信、交通、物流、観光による国家間の結びつきを理解する	
		5週	主題図・グラフ・GIS	統計地図とGISの仕組みを理解する	
		6週	身近な地図とGIS	GISならびに地理院地図の体験と身近な地図の機能について理解する	
		7週	GISを使った身近な地図の作成	GISを使って身近な地域の分析法を理解する	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	世界の地形 (1)	内的営力と外的営力を理解する	
		10週	世界の地形 (2)	外的営力の地形を理解する	
		11週	世界の気候 (1)	気候の成り立ち① 気候要素・気候因子、② 気候の変化と地球温暖化、を理解する	
		12週	世界の気候 (2)	世界の気候区分① ケッペンの気候区分、熱帯	
		13週	世界の気候 (3)	世界の気候区分② 乾燥帯、温帯	
		14週	世界の気候 (4)	世界の気候区分③ 亜寒帯、寒帯	
		15週	期末試験	実施する	
		16週	成績評価・確認		
後期	3rdQ	1週	産業と生活文化 (1)	世界の農業、工業、サービス業について理解する	
		2週	産業と生活文化 (2)	世界の農業、工業、サービス業について理解する	
		3週	宗教・言語と生活文化 (1)	宗教、言語、生活文化の多様性を理解する	
		4週	宗教・言語と生活文化	宗教、言語、生活文化の多様性を理解する	
		5週	世界各地の生活文化 (1)	東アジアの研究	
		6週	世界各地の生活文化 (2)	東南アジア・南アジアの研究	

4thQ	7週	中間試験	
	8週	世界各地の生活文化 (3)	イスラーム世界の研究
	9週	世界各地の生活文化 (4)	アフリカ諸国の研究
	10週	世界各地の生活文化 (5)	EUとロシアの研究
	11週	世界各地の生活文化 (5)	南北アメリカの研究
	12週	世界各地の生活文化 (6)	オセアニアの研究
	13週	地球的課題と国際協力	持続可能な社会についての理解を深める
	14週	日本の自然災害	日本の自然災害について理解する
	15週	期末試験	実施する
	16週	成績評価・確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	音楽		
<b>科目基礎情報</b>							
科目番号	0013	科目区分	一般 / 選択				
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	国際ビジネス学科	対象学年	1				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	高校生の音楽 I (教育芸術社)						
担当教員	石井 哲夫,山本 有希						
<b>到達目標</b>							
藝術としての音楽表現を理解する。音楽文化の歴史的な流れを理解する。総合科学としての芸術の位置づけを理解する。							
<b>ルーブリック</b>							
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)				
評価項目 1 音楽実技と表現	楽曲の成り立ち(構造・作詞者・作曲家の意図)を理解して表現方法が考えられるようになること	周囲のメンバーの音・声を聴きながら合わせて演奏できるようになること	合唱・合奏の練習に参加しようという姿勢がみられない場合				
評価項目 2 観賞と音楽文化	その時代、その地域などの社会的背景と音楽文化との関りが考えられるようになること	音楽を聴いて、楽曲の特徴がわかるようになること	芸術作品を鑑賞しようという姿勢が見られない場合				
<b>学科の到達目標項目との関係</b>							
ディプロマポリシー 3							
<b>教育方法等</b>							
概要	歌唱・合唱(新型コロナウイルス感染防止のため、中止になる可能性有り)、器楽(リコーダー演奏)、あるいは音楽作品の鑑賞を実施する。						
授業の進め方・方法	実技及び鑑賞を実施する 事前に行う準備学習: 前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する復習をする。						
注意点	準備するノートは普通のノートでよい。(音楽用五線譜ノートは不要)						
<b>授業の属性・履修上の区分</b>							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
<b>授業計画</b>							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	授業の進め方、芸術表現とは、総合科学としての芸術音楽について理解する			
		2週	ヨーロッパの芸術歌曲	野ばら(シューベルト)を原語で歌う。詩の構造・特徴を生かした表現			
		3週	日本の歌曲(1)	夏の思い出(中田喜直)を二部合唱で歌う。合唱による音楽表現について学ぶ			
		4週	日本の歌曲(2)	荒城の月(滝廉太郎)を三部合唱で歌う。作詞者の思いを生かした音楽表現を学ぶ			
		5週	バロックの音楽	J.S.バッハのオルガン曲を題材にバロック時代の社会的背景と音楽様式を理解する			
		6週	古典派の音楽	ベートーヴェンの交響曲第6番「田園」を題材に音楽が民衆文化となってゆく過程を理解する			
		7週	器楽の基礎	音楽の構造・特徴を分析し、使用する楽器の演奏を性能を考慮し、アーティキュレーションを考える			
		8週	リコーダー合奏(1)	メッツガーのアンダンティーノを題材にバロック音楽をバロックの様式で演奏する			
	4thQ	9週	リコーダー合奏(2)	現代におけるリコーダーの使われ方を様々な音楽を通して学ぶ			
		10週	ロマン派の音楽	ショパンのマズルカ(Op.7-5)を通してロマン派音楽における民族的素材の取り入れられ方を学ぶ			
		11週	国民楽派の音楽	チャイコフスキーのくるみ割り人形を通して、音楽が益々民衆文化になってゆく過程を学ぶ			
		12週	近代の音楽	ドビュッシーの「海」を題材に音楽が他の分野の芸術と融合してゆく過程を学ぶ			
		13週	現代の音楽	ジャズなどの娯楽音楽と芸術音楽とのボータレス化が進む過程を学ぶ			
		14週	音楽づくり	音楽は創作芸術としての面だけでなく再生芸術としての側面があることを自由曲の演習を通して学ぶ			
		15週	期末試験	演習発表			
		16週	民族音楽	民族音楽・民族文化がその土地の地理・歴史・生活文化等の関連が深いことを学ぶ			
<b>モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標</b>							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
<b>評価割合</b>							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	20	20	0	30	0	30	100

基礎的能力	20	20	0	30	0	30	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	美術
科目基礎情報					
科目番号	0014		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	高校生の美術1、各種画集、技法書、デザイン集など				
担当教員	山本 有希,河合 雅子				
到達目標					
美的判断力、審美眼、人間理解、研究心などを育てる体験。 想像力を働かせ、感性豊かなイメージを創出する力。 創造的・独創的な発想能力、表現しながら練り上げていく能力、材料や形式に挑戦や工夫をしていく能力を伸ばす。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	知識・技能	各題材を深く観察、理解し、表現の工夫をしている。	各題材を理解し、表現している。	各題材の理解が浅く、表現に工夫がない。	
評価項目2	思考・判断・表現	各題材を深く観察、理解し、独創的な表現をしている。	各題材を理解し、的確な表現をしている。	各題材の理解が浅く、独創的な表現がない。	
評価項目3	主体的に取り組む態度	各題材を深く観察、理解し、主体的に制作している。	各題材を理解し、主体的に制作している。	各題材の理解が浅く、主体的に制作していない。	
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	美術の幅広い創作活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。				
授業の進め方・方法	表現が中心であるが、一般的基礎知識として最低限の美術史的知識は必要であり、美術史全体を俯瞰できることが表現や鑑賞に役立つ事を知る。 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。				
注意点	上手下手にとらわれず、自己の個性に基づいた考えや心を形、色、材料などによって表現する。自分にしか表現できない作品、世界で唯一の作品を制作する。道具は正しい使い方をし、自身の物、貸し出しの物の隔てなく丁寧に扱い片付けを行うこと。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	・ガイダンス ・鉛筆によるデッサン 「手を描く」	・「美術とは何か」について考える。 ・自分の手の持つ表情をとらえ、観察しながら表し方を工夫する。	
		2週	・鉛筆によるデッサン 「手を描く」	・対象を深く観察し、形態、明暗、量感、質感等をつかんで表現する。 ・完成後、講評を行う。	
		3週	・観賞 「作家探求①」	・作品を通して造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情と創造的な表現の工夫について考える。	
		4週	・鉛筆によるデッサン 「自画像」	・自己を外面と内面の両方から見つめ「何を描くか」を設定する。 ・完成後、講評を行う。	
		5週	・生活の中のデザイン ・色彩構成の基礎	・「飾る・伝える・使う・環境」など生活の中のデザインの役割を理解する。 ・色彩の性質や構図の効果について学ぶ。	
		6週	・文字のデザイン	・レタリングの基礎について学ぶ。 ・漢字を一文字選び、構図や配色のアイデアを練る。	
		7週	・文字のデザイン	・アクリル絵の具で着彩し完成させる。 ・完成後、講評を行う。	
		8週	・観賞 「立体表現の魅力」	・立体表現のよさや特性について考え、彫刻への理解を深める。	
	4thQ	9週	・粘土による仮面制作	・自己の内面を見つめ、制作のテーマを設定する。	
		10週	・粘土による仮面制作	・顔の特徴を生かした独自の表現を追求し、表情豊かな仮面を構想する。	
		11週	・粘土による仮面制作	・表情が生きる効果的な配色を考え、着彩する。 ・完成後、講評を行う。	
		12週	・観賞 「作家探求②」	・作品を通して造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情と創造的な表現の工夫について考える。	
		13週	・イラストレーション	・与えられたテーマに沿って構図や配色を工夫し、アイデアスケッチを完成させる。	
		14週	・イラストレーション	・アクリル絵の具等の描画材料を用い制作する。コラージュ等のモダンテクニックも可とする。	

		15週	・イラストレーション	・完成後、講評を行う。
		16週	・制作作品の講評会 ・成績評価・確認	・自作作品を自己評価する。 ・出欠の確認、作品提出の確認をする。

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

### 評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	30	20	0	100
基礎的能力	0	50	0	30	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	環日本海諸国語 I B(中国語)		
科目基礎情報							
科目番号	0015		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	「LL中国語入門」大修館書店, 「中国語はじめの一步」白水社						
担当教員	星野 朱美						
到達目標							
(1) 目標							
①子音, 母音と簡単な単語の発音ができ, ピンインを見て発音ができるようになることを目指す。							
②発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れるようになることを目指す。							
③簡単な会話を聞き取れ, かつ, 正確に答えられるようになることを目指す。							
(2) 概要							
中国語に興味を持つような授業を行う。中国の文化, 習慣などを紹介する。中国語ピンインの習得を目的として, ピンインと漢字の書き方, 聞き取りの練習などを行う。各課終了ごとに, 理解度を把握するために小テストを実施する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	正確に発音記号 (ピンイン) を読める		発音記号 (ピンイン) を見て, 大体発音ができる。		発音記号 (ピンイン) を見て, 発音ができない。		
評価項目2	発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れる。		発音を聞いて, 大体発音記号を書き取れる。		発音を聞いて発音記号を書き取れない。		
評価項目3	基本的な文法構造を理解し, 正確に和文中訳ができる。		基本的な文法構造を理解し, 大体和文中訳ができる。		基本的な文法構造を理解でない, 殆ど和文中訳もできない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1) 目標 子音, 母音と簡単な単語の発音ができ, ピンインを見て発音ができるようになることを目指す。 (2) 概要 中国語に興味を持つような授業を行う。中国の文化, 習慣などを紹介する。中国語ピンインの習得を目的として, ピンインと漢字の書き方, 聞き取りの練習などを行う。各課終了ごとに, 理解度を把握するために小テストを実施する。						
授業の進め方・方法	・ 予習, 復習, 課題を前提とし, 講義を中心に進める。 ・ 1人1人の学生の発音を確認しながら講義を進める。						
注意点	<追認試験> 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果, 単位の修得が認められた者については, その評価を50点とする。評価方法および評価基準は本試験と同じとする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	第10課 (1)	・ 複合母音4の発音ができるようにする。			
		2週	第10課 (3)	・ 舌歯音の発音ができるようにする。 ・ 復習と確認テスト			
		3週	第11課 (1)	・ そり舌音1の発音ができるようにする。			
		4週	第1課 (1)	"是"の文法は理解ができるようにする。			
		5週	第2課 (1)	指示代名詞の文を理解ができるようにする。 ・ 確認テスト			
		6週	第2課 (2)	・ 答え合わせ			
		7週	総合復習	総合復習			
		8週	後期中間試験	1回から6回までの講義内容について, 筆記試験を実施する。			
	4thQ	9週	成績評価・確認	期末試験の成績確認			
		10週	第3課 (1)	動詞の文を理解ができるようにする。			
		11週	第4課 (1)	形容詞の文を理解ができるようにする。			
		12週	第4課 (3)	・ 答え合わせ ・ 復習と確認テスト			
		13週	第5課 (1)	日付の表現の文を理解ができるようにする。			
		14週	第5課 (1)	時刻の表現の文を理解ができるようにする。			
		15週	期末試験	9回から14回までの講義内容について, 筆記試験を実施する。			
		16週	成績評価・確認	期末試験の成績確認			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計

総合評価割合	90	0	0	0	0	10	100
基礎的能力	90	0	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	環日本海諸国語 I B(韓国語)		
科目基礎情報							
科目番号	0016		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	「GANADA KOREAN 初級1」、カナタ韓国語学院						
担当教員	天坂 仁美						
到達目標							
GANADA KOREAN 初級1を13課分終える。 (1)尊敬語の習得 (2)過去形 (3)否定形 (4)語尾の応用							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	ハングルを正確に読み書き出来る。発音の変化などを充分理解して読める。		ハングルを殆ど読み書き出来る。発音の変化などを殆ど理解して読める。		ハングルをあまり読み書きが出来ない。発音の変化などを理解出来ない。		
評価項目2	自己紹介など基本的文章が正確に表現出来る。		自己紹介など基本的文章が殆ど表現出来る。		自己紹介など基本的文章が表現出来ない。		
評価項目3	尊敬語・過去形・否定形・語尾の応用が正確に出来る。		尊敬語・過去形・否定形・語尾の応用が殆ど出来る。		尊敬語・過去形・否定形・語尾の応用が出来ない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一番近い国である韓国を簡単な歴史、文化、風習の違いから日本と比較する。予習形の学習。						
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。						
注意点	評価が50点に満たない者は、願出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者に対しては、その評価を50点とする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標			
		1週	第8課	尊敬語、命令形			
		2週	第9課	場所と動作を連結して表現			
		3週	第10課	電話番号、価額、日付			
		4週	第11課	位置の説明			
		5週	第12課	過去形			
		6週	第13課	事実の羅列			
		7週	第14課	物の数え方、単位			
	8週	中間試験	1回～7回の講義内容を試験する				
	4thQ	9週	第15課	名詞の羅列			
		10週	第16課	時間の表現			
		11週	第17課	期間の表現			
		12週	第18課	動詞後の予定表現			
		13週	第19課	否定文			
		14週	第20課	好きの表現 9回～14回までの復習			
		15週	期末試験	9回～14回の講義内容を試験する			
16週		成績確認	(1)期末試験の成績確認 (2)授業評価アンケートの実施				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	課題・授業準備	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	70	10	0	0	0	20	100
基礎的能力	70	10	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	環日本海諸国語 I B(ロシア語)
科目基礎情報					
科目番号	0017	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科	対象学年	1		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	"ПОЕХАЛИ!" ("Let's go!") 1-1、その他、別途指示する				
担当教員	山本 有希				
到達目標					
(1)アルファベットの読み書きを修得する (2)名詞等の性数変化の概念、動詞人称変化を理解する (3)単位認定には50点以上を必要とする					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	名詞の性別、格変化の概念及び動詞の活用が8割以上理解できる。	名詞の性別、格変化の概念及び動詞の活用が6割以上理解できる。	名詞の性別、格変化の概念及び動詞の活用における理解度が6割に達しない。		
評価項目2	上記文法事項を活用した作文及び文章読解がスムーズにできる。	上記文法事項を活用した作文及び文章読解ができる。	上記文法事項を活用した作文及び文章読解が満足にできない。		
評価項目3	ペアワークやグループワークにおいて、積極的に表現を考え、発表することが良くできる。	ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができる。	ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	【授業の目標と概要】 (目標) ロシア語の音読や会話を中心に、広くロシア社会・文化等への関心を養う。 (概要) ロシア文字の発音、名詞・形容詞等の性数変化、動詞の現在人称変化を用いた表現を修得する				
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習すること。				
注意点	(授業改善策) 学生の理解度を確認しながら授業を進めるよう努める。 評価が50点に満たない者は、願出により追認試験を受験することができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を50点とする。 (備考) 1)遅刻3回で欠課1時間とする 2)授業計画は、学生の理解度に応じて変更することがある 3)定期試験(中間試験及び期末試験)を80点、その他(発表、課題、小テストなど)を20点として評価する				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	1)ガイダンス 2)オリエンテーション	環日本海諸国語についての概説(1)	
		2週	オリエンテーション	環日本海諸国語についての概説(2)	
		3週	オリエンテーション	環日本海諸国語についての概説(3)	
		4週	オリエンテーション	環日本海諸国語についての概説(4)	
		5週	オリエンテーション	環日本海諸国語についての概説(5)	
		6週	第1、2、12課	アルファベットの発音を学び、挨拶表現ができる	
		7週	第3課	場所を尋ねる表現ができる。 人称代名詞を用いた表現ができる	
		8週	中間試験	中間試験は実施しない	
	4thQ	9週	第8課	名詞の複数形を学び、所有代名詞の性別と数の概念を理解し、表現できる	
		10週	第10課	所有代名詞の性別と数の概念を理解し、表現できる	
		11週	第4課～5課	動詞第1人称変化の活用形を覚え、主語述語の文章を作成できる。	
		12週	第4課～5課	動詞第2人称変化を覚え、特に「～語で話す」と話すことができる	
		13週	第4課～5課	動詞の人称変化を理解し、作文できる。	
		14週	第6、7、9課	人称代名詞の対格を用いて、自己紹介や「～が好き」といった表現をすることができる	
		15週	期末試験	既習事項を確認する	
		16週	成績確認	1)試験返却・解説及び成績確認 2)夏休みの課題の確認	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	環日本海諸国語ⅡB(中国語)
科目基礎情報					
科目番号	0018		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「LL中国語入門」大修館書店, 「中国語はじめの一歩」白水社				
担当教員	星野 朱美				
到達目標					
(1) 子音, 母音と簡単な単語の発音ができ, ピンインを見て発音ができるようになることを目指す。					
(2) 発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れるようになることを目指す。					
(3) 簡単な会話を聞き取れ, かつ, 正確に答えられるようになることを目指す。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	発音記号 (ピンイン) を見て, 正確に発音ができる。	発音記号 (ピンイン) を見て, 大体発音ができる。	発音記号 (ピンイン) を見て, 発音ができない。		
評価項目2	発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れる。	発音を聞いて, 大体発音記号を書き取れる。	発音を聞いて発音記号を書き取れない。		
評価項目3	正確に簡単な会話を聞き取れ, かつ, 正確に答えることができる。	簡単な会話を聞き取れ, かつ, 大体答えることができる。	簡単な会話を聞き取れなく, かつ, 殆ど答えることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 目標 ①子音, 母音と簡単な単語の発音ができ, ピンインを見て発音ができるようになることを目指す。 ②発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れるようになることを目指す。 ③簡単な会話を聞き取れ, かつ, 正確に答えられるようになることを目指す。  (2) 概要 中国語に興味を持つような授業を行う。中国の文化, 習慣などを紹介する。中国語ピンインの習得を目的として, ピンインと漢字の書き方, 聞き取りの練習などを行う。各課終了ごとに, 理解度を把握するために小テストを実施する。				
授業の進め方・方法	・ 予習, 復習, 課題を前提とし, 講義を中心に進める。 ・ 学生の発音を確認しながら講義を進める。				
注意点	<授業改善策> 学生の理解度を確認しながら, 発音の練習時間と課題を増やしたり, さらに中国語に興味を持つように工夫して, 学生の意欲を維持して行きたい。 <追認試験> 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果, 単位の修得が認められた者に対しては, その評価を50点とする。評価方法および評価基準は本試験と同じとする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	第10課 (2)	舌歯音ができるように目指す。	
		2週	第11課 (1)	・ 子音と捲舌母音ができるように目指す。	
		3週	第1課	"是"の文は理解できるようにする。	
		4週	第2課 (1)	指示代名詞を用いて簡単な会話を話せるようにする。	
		5週	第2課 (2)	疑問詞を用いて, 簡単な会話を話せるようにする。 ・ 復習と確認テスト	
		6週	総合復習	総合復習	
		7週	口述試験	1回から6回までの講義内容について, 口述試験を実施する。	
		8週	後期中間試験	筆記試験を実施する。	
	4thQ	9週	成績評価・確認	期末試験の成績確認	
		10週	第3課	動詞を用いて簡単な会話を話せるようにする。	
		11週	第4課 (2)	量詞の用いて, 簡単な会話を話せるようにする。	
		12週	第4課 (2)	形容詞の文用いて, 簡単な会話を話せるようにする。	
		13週	第5課 (1)	時刻の表現を用いて, 簡単な会話を話せるようにする。	
		14週	第5課 (2)	日付の表現を用いて, 簡単な会話を話せるようにする。	
		15週	口述試験	9回から14回までの講義内容について, 口述試験を実施する。	
		16週	成績評価・確認	期末試験の成績確認	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	筆記試験	口述試験	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	環日本海諸国語ⅡB(韓国語)		
科目基礎情報							
科目番号	0019		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	「GANADA KOREAN 初級1」、カナタ韓国語学院						
担当教員	天坂 仁美						
到達目標							
GANADA KOREAN 初級1を13課分終える。 (1)尊敬語の習得 (2)過去形 (3)否定形 (4)語尾の応用							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	ハングル文字で日本の固有名詞の表記が正確に出来る。		ハングル文字で日本の固有名詞の表記が殆ど出来る。		ハングル文字で日本の固有名詞の表記が出来ない。		
評価項目2	韓国と日本の発音を比較出来、韓国特有な発音出来る。		韓国と日本の発音を比較出来、韓国特有な発音が殆ど出来る。		韓国と日本の発音を比較出来ない。		
評価項目3	教科書の聞き取り、読みの内容が説明を聞くと理解出来る。		教科書の聞き取り、読みの内容が説明を聞くと殆ど理解出来る。		教科書の聞き取り、読みの内容が説明を聞いても理解出来ない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一番近い国である韓国を簡単な歴史、文化、風習の違いから日本と比較する。予習形の学習。						
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。						
注意点	評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を50点とする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 第8課	シラバスの説明 尊敬語、命令形			
		2週	第9課	場所と動作を連結して表現			
		3週	第10課	電話番号、価額、日付			
		4週	第11課	位置の説明			
		5週	第12課	過去形			
		6週	第13課	事実の羅列			
		7週	第14課	物の数え方、単位			
		8週	中間試験	1回～7回の講義内容を試験する			
	4thQ	9週	第15課	名詞の羅列			
		10週	第16課	時間の表現			
		11週	第17課	期間の表現			
		12週	第18課	動詞後の予定表現			
		13週	第19課	否定文			
		14週	第20課	好きの表現 9回～14回までの復習			
		15週	期末試験	9回～14回の講義内容を試験する			
		16週	成績確認	(1)期末試験の成績確認 (2)授業評価アンケートの実施			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題・授業準備	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	70	10	0	0	0	20	100
基礎的能力	70	10	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	環日本海諸国語ⅡB(ロシア語)
科目基礎情報					
科目番号	0020		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	"ПОЕХАЛИ!" ("Let's go!") 1-1、その他別途指示する				
担当教員	山本 有希				
到達目標					
(1)アルファベットの読み書きを修得する (2)名詞等の性数変化の概念、動詞人称変化を理解する (3)単位認定には50点以上を必要とする					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	名詞の性別、格変化の概念及び動詞人称変化などの項目を活用した口頭表現がスムーズにできる。		名詞の性別、格変化の概念及び動詞人称変化などの項目を活用した口頭表現ができる。		名詞の性別、格変化の概念及び動詞人称変化などの項目を活用した口頭表現が満足にできない。
評価項目2	上記文法事項を活用した口頭表現の発表がスムーズにできる。		上記文法事項を活用した口頭表現の発表ができる。		上記文法事項を活用した口頭表現の発表が満足にできない。
評価項目3	ペアワークやグループワークにおいて、積極的に表現を考え、発表することが良くできる。		ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができる。		ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	【授業の目標と概要】 (目標) ロシア語の音読や会話を中心に、広くロシア社会・文化等への関心を養う。 (概要) ロシア文字の発音、名詞・形容詞等の性数変化、動詞の現在人称変化を用いた表現を修得する				
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習すること。				
注意点	<授業改善策> ・学生の理解度を質問等で確認しながら講義を行うよう努める。 ・評価が50点に満たない者は願い出により追認試験を受験することができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を50点とする <備考> 1)遅刻3回で欠課1時間とする 2)授業計画や評価項目及び評価割合は変更することがある 3)定期試験(中間試験及び期末試験)を70点、その他(発表、課題、小テストなど)を30点として評価する				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	第9～11課		名詞の前置格の用法を理解し、「～の上に」「～の中に」及び「私はモスクワに住んでいる」と話すことができる
		2週	第12課		述語表現と動詞過去形を学習し、「昨日、～した」と話すことができる
		3週	第13課		場所の表現及び、「(球技)をする」、「(楽器)を弾く」を学習し、話すことができる
		4週	第14課		対格を用いた目的語の用法を学習し、「～したい」と話すことができる
		5週	第15、16課		数詞、季節、天候、時間、時刻の表現方法を学習し、表現することができる
		6週	第17～19課		1日の行動(起床～就寝)の表現及び形容詞の原級、最上級の用法を学習し、表現できる
		7週	中間試験		既習事項の確認を行う
		8週	試験返却 第20、21課		試験の返却および解説 述語と副詞の用法を理解し、必要、禁止、許可の表現を修得する
	4thQ	9週	第23課		話題やテーマの表現を修得する 「～について書く、話す」
		10週	第24～26課		対格表現を覚え、目的語を表現できる
		11週	第27、28課		形容詞の前置格を学習し、場所の表現に用いることができる
		12週	第29課		運動の動詞を覚え、移動の様子を表現できる
		13週	第30課		運動の動詞を覚え、移動の様子を表現できる
		14週	まとめ		学習事項のまとめを行う
		15週	期末試験		既習事項の確認を行う

		16週	成績確認		1)成績評価・確認 2)授業評価アンケートの実施		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	0	0	0	10	100
基礎的能力	70	20	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学 I A
科目基礎情報					
科目番号	0022		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	新基礎数学 改訂版 大日本図書, 新基礎数学 問題集 大日本図書, はぎ取り式練習ドリル 数学 I 数学 II 数研出版				
担当教員	櫻井 秀人, 新夕 義典				
到達目標					
多項式の和差積が計算できる。 基本的な因数分解ができる。 絶対値・平方根の基本的な計算ができる。 2次方程式を解くことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	整式・有理式の四則演算 (因数分解, 商と余りを求めることを含む) の問題を解くことができる。		整式・有理式の四則演算 (因数分解, 商と余りを求めることを含む) の基本的な問題を解くことができる。		整式・有理式の四則演算 (因数分解, 商と余りを求めることを含む) の基本的な問題を解くことができない。
評価項目2	公式を用いて多項式の因数分解の問題を解くことができる。		公式を用いて多項式の因数分解の基本的な問題を解くことができる。		公式を用いた因数分解ができない。
評価項目3	因数定理を用いて, 高次式の因数分解の問題を解くことができる。		因数定理を用いて, 高次式の因数分解の基本的な問題を解くことができる。		高次式の因数分解の基本的な問題を解くことができない。
評価項目4	2次方程式の解を求めることができる。		基本的な問題において2次方程式の解を求めることができる。		2次方程式の解を求めることができない。
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	整式 (多項式) の演算等を通して文字式の取り扱いに慣れることにより, 対象を抽象的に扱う方法を学ぶ。また, 数の基礎になる実数の概念を学び, 絶対値・平方根の取り扱いに習熟する。2次方程式の解について学ぶ。				
授業の進め方・方法	教員単独による講義及び演習 事前に行う準備学習: 前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。				
注意点	本科目では, 50点以上の評価で単位を認定する。 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果, 単位の修得が認められた者については, その評価を50点とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 整式の加法, 減法,	等式の性質を確認する。単項式, 多項式の加法, 減法ができる。	
		2週	整式の乗法	整式の積を分配法則を用いて展開することができる。公式を用いて展開することができる。	
		3週	整式の乗法, 因数分解	公式を用いて因数分解をすることができる	
		4週	整式の乗法, 因数分解	公式を用いて因数分解をすることができる	
		5週	因数分解, 整式の除法	いろいろな整式の因数分解ができる。	
		6週	整式の除法	整式の除法で, 商と余りを求めることができる。	
		7週	剰余の定理, 因数定理	剰余の定理, 因数定理を理解し整式の計算に応用することができる。	
		8週	中間試験	1回から7回までの講義内容について, 中間試験を実施する。	
	2ndQ	9週	高次式の因数分解	因数定理を用いて, 高次式の因数分解ができる。	
		10週	分数式	分数式の四則演算ができる。	
		11週	実数	実数の定義を理解できる。絶対値を含む式の計算ができる。	
		12週	平方根, 複素数	平方根, 根号について学び, 根号を含む式を計算できる。複素数の概念を理解し, 四則演算ができる。	
		13週	複素数	複素数の概念を理解し, 四則演算ができる。	
		14週	2次方程式	2次方程式を公式を用いて解くことができる。	
		15週	期末試験	第9回以降の講義内容の理解度を測るため, 期末試験を行う。	
		16週	復習	期末試験の結果を受けて, 定着度の低い事項について復習する。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	演習・提出物	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	理科 I A
科目基礎情報					
科目番号	0023		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	化学基礎(実教出版), フォローアップ化学基礎(数研出版), ベストフィット化学基礎(実教出版), フォトサイエンス化学図録(数研出版)				
担当教員	寺崎 由紀子				
到達目標					
1. 日常生活と化学の関わりについて知る。 2. 物質の構成や構成粒子について理解し、だいたいの化学式が書ける。また、物質を構成している結合について理解できる。 3. 物質量について理解し、基本的な問題が解ける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
物質の成り立ち	純物質と混合物, 単体と化合物の違いについて説明できる。混合物を分離する方法について、物質によって使い分けができる。		純物質と混合物, 単体と化合物の違いについて理解している。混合物を分離する方法について理解している。		純物質と混合物, 単体と化合物の違いについて理解していない。混合物を分離する方法がわからない。
物質の構成と化学結合	物質の構成や構成粒子について理解し、実際の物質から予想することができる。ほとんどの化学式を書くことができる。さまざまな結合について理解し、説明することができる。結晶の特徴や性質を理解し、実際の物質から説明することができる。		物質の構成や構成粒子について理解している。だいたいの化学式が書ける。物質を構成している結合について理解している。いろいろな結晶について特徴や性質を理解している。		構成粒子に関する基本的事項を理解していない。化学式が書けない。いろいろな結合について理解していない。結晶の特徴を理解していない。
物質量	物質量について理解し、いろいろな組み合わせた問題が解ける。		物質量について理解し、基本的な問題が解ける。		物質量について理解していない。
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	この授業では、これから学ぶ化学の基礎となる事項を学習する。まず、物質を微視的な立場から見たときに、原子・分子・イオンから成り立っていることを学習する。その後、マクロ的な立場から見た化学反応が微視的な分子やイオンの変化であることや、その量的な関係を捉えるために基本的事項を学習する。				
授業の進め方・方法	教員単独による講義, 演習, 実験を行う。 学生の理解度により、授業計画を変更することがある。 授業外学習・事前: 授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後: 復習を兼ねて課題に取り組むこと。				
注意点	内容の定着のため、小テスト、課題(宿題)などを課す。これらは提出物点として評価する。 実験や視聴覚教材を取り入れることがある。 評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。 追認試験を受けるにあたって課題を課すことがある。 課題への取り組みが教員の求める水準に到達していない場合は追認試験の受験を認めない。 追認試験の結果、単位の修得が認められた者には、その評価を50点とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
必履修					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 実験を安全に行うために	シラバスに基づき、授業の方針や計画等について説明をする。その後、実験に関する注意事項を説明する。	
		2週	物質の分離と精製	物質は純物質と混合物に分類できることを理解する。また、混合物から純物質を得る方法のいくつかを知る。	
		3週	物質の成り立ち 原子の構造	物質の構成や物質の基本成分である元素について学習する。その後、物質の構成粒子の中で最小の粒子である原子の構造について学ぶ。	
		4週	電子配置 元素の周期表	電子配置と価電子について理解する。また、価電子と元素の性質の関係について学ぶ。その後、元素の周期表の歴史を学び、周期表から原子のある程度の性質が予測できることを学ぶ。	
		5週	イオンの生成 イオン結合 組成式	イオンと電子配置の関係について学習する。その後、多原子イオンや化学式の表し方を学ぶ。その後、イオンが集まったときの特徴、表し方について学習する。	
		6週	【実験】混合物の分離	蒸留、ろ過について実験を行う。	
		7週	共有結合 分子	共有結合の仕方、共有結合によってできる分子について学ぶ。	
		8週	中間試験	原子・分子・イオンの構造などに関する基本的事項について出題する。	

2ndQ	9週	試験の解答・解説 物質の三態と熱運動	中間試験の答案を返却し、解答・解説することで理解できていないところを確認する。その後、物質には3つの状態があり、それぞれ粒子の熱運動の仕方が違うことを学習する。
	10週	分子の極性と分子間力	原子の電子の引きつけやすさの違いによって電子のかたよりが生じることについて学ぶ。また、分子の形によって極性が生じること、その結果物質の性質に影響が及ぶことについて学習する。
	11週	共有結合の結晶 金属結合	結合の仕方の違いによるそれぞれの結晶の特徴について学習する。
	12週	原子量・分子量・式量	極小である原子の質量が、原子量という相対質量を取り入れることによって扱いやすくなることを学ぶ。
	13週	物質量と質量・数・体積の関係	物質はたくさんの粒子の集合体であるが、モルという単位で表すことによって質量や体積が扱いやすくなることを学習する。
	14週	溶液の濃度 【演習】物質量	溶液の濃度の表し方について学習し、実際に溶液の調整ができるようにする。また、量的関係に関する演習をする。
	15週	期末試験	結合の種類とそれによる性質の違いについて問う。また、物質の量をいろいろな単位で表すことができるかどうかを確認する。
	16週	成績評価・確認	期末試験の成績確認 授業評価アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学 I B
科目基礎情報					
科目番号	0024		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	新基礎数学 改訂版 大日本図書, 新基礎数学 問題集 大日本図書, はぎ取り式練習ドリル 数学 I 数学 II 数研出版				
担当教員	櫻井 秀人, 新夕 義典				
到達目標					
高次方程式, 連立1次方程式を解くことができる。 2次関数の一般形を標準形に直し, グラフの概形を書くことができる。 グラフを利用して, 最大値, 最小値, 2次不等式の問題を解くことができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	任意の2次関数を標準形に直し, グラフをかくことができる。	任意の2次関数を標準形に直すことができる。	任意の2次関数を標準形に直すことができない。		
評価項目2	2次関数の最大値, 最小値を求めることができる。	標準形で表される2次関数の最大値, 最小値を求めることができる。	標準形で表される2次関数の最大値, 最小値を求めることができない。		
評価項目3	2次不等式の問題を解くことができる。	2次不等式の基本的な問題を解くことができる。	2次不等式の基本的な問題を解くことができない。		
評価項目4	因数定理を用いて, 高次方程式の問題を解くことができる。	因数定理を用いて, 高次方程式の基本的な問題を解くことができる。	高次方程式の基本的な問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	高次方程式, 連立1次方程式の解法を講義する。2次関数の講義を行い, 2次関数に関連する問題の解法について講義する。				
授業の進め方・方法	教員単独による講義及び演習 事前に行う準備学習: 前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。				
注意点	本科目では, 50点以上の評価で単位を認定する。 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果, 単位の修得が認められた者については, その評価を50点とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	解と判別式	2次方程式の解と判別式に関する基本的な問題を解くことができる。	
		2週	解と係数の関係	2次方程式の解と係数の関係を理解できる。それを用いて基本的な対称式の問題に応用できる。	
		3週	高次方程式, 連立1次方程式	高次方程式と連立1次方程式の解法を学び, 基本的な問題を解くことができる。	
		4週	1次不等式, 連立1次不等式	1次不等式, 連立1次不等式に関する基本的な問題を解くことができる。	
		5週	関数とグラフ	基本的なグラフの知識を理解する。	
		6週	2次関数のグラフ	基本的な2次関数のグラフとそれを平行移動したグラフを書くことができる。	
		7週	2次関数のグラフ	標準形で与えられた関数のグラフをかくことができる。	
		8週	中間試験	第1回から第7回までの内容の理解度を測るため中間試験を行う。	
	4thQ	9週	2次関数のグラフ	2次関数の一般形を, 平方完成を用いて標準形に直すことができる。	
		10週	2次関数の決定	与えられた条件を満たす2次関数の方程式を求めることができる。	
		11週	2次関数の最大・最小	2次関数のグラフを用いて, 最大値・最小値を求めることができる。	
		12週	2次関数のグラフと2次方程式	2次関数と2次方程式の関係を理解できる。	
		13週	2次関数のグラフと2次不等式	2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができる。	
		14週	2次関数のグラフと2次不等式	2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができる。	
		15週	期末試験	第9回以降の講義内容の理解度を測るため, 期末試験を行う。	
		16週	復習	期末試験の結果を受けて, 定着度の低い事項について復習する。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	演習・提出物	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	理科 I B
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0025	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科	対象学年	1		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	化学基礎(実教出版), フォローアップ化学基礎(数研出版), ベストフィット化学基礎(実教出版), フォトサイエンス化学図録(数研出版)				
担当教員	寺崎 由紀子				
<b>到達目標</b>					
1. 物質量について理解し, 化学反応式が書ける。また, 物質量と化学反応式の関係について理解し, 基本的な問題が解ける。 2. 酸・塩基の定義, pHについて基本的事項, 中和のときの量的な関係を理解し, 基本的な問題を解くことができる。 3. 酸化・還元反応の定義を説明することができ, 酸化剤・還元剤のはたらきについて理解できる。また, 酸化還元反応について理解し, 基本的な問題を解くことができる。酸化還元反応の応用である電池について, 基本的な事項を理解している。					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
物質量と化学反応式	いろいろな化学反応式が書ける 物質量と化学反応式の関係について理解し, 少し複雑な問題が解ける	基本的な反応の化学反応式が書ける 物質量と化学反応式の関係について理解し, 基本的な問題が解ける	化学反応式が書けない 物質量と化学反応式の関係について理解していない		
酸・塩基	酸・塩基の定義を理解し, 説明することができる pHについて理解し, pHを求めることができる 中和のときの量的関係を理解し, 応用的な問題を解くことができる 塩について理解している。	酸・塩基の定義を理解している pHについて基本的事項を理解している 中和のときの量的な関係を理解し, 基本的な問題を解くことができる	酸・塩基の定義が説明できない pHについて理解していない 中和のときの量的関係を理解していない		
酸化・還元	化学反応の多くが酸化還元反応であることを理解している。 酸化剤と還元剤のはたらきについて, 半反応式を用いて説明することができる。 酸化還元反応の量的関係についての問題を解くことができる。 酸化還元反応の応用である電池や電気分解について, 基本的な事項を理解し, 量的な関係についての問題を解くことができる。	酸化・還元反応の定義を説明することができる 酸化剤・還元剤のはたらきについて理解している 酸化還元反応について理解し, 基本的な問題を解くことができる また, 酸化還元反応の応用である電池や電気分解について, 基本的な事項を理解している。	酸化・還元反応の定義を説明できない 酸化剤・還元剤が何であるかを理解していない 電池や電気分解の仕組みについて, 基本的な事項を理解していない		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
<b>教育方法等</b>					
概要	マクロ的な立場から見た化学反応が微視的な分子やイオンの変化であることや, その量的な関係を捉えるために基本的な事項を学習する。また, 基本的な化学反応である中和反応, 酸化・還元反応について, 概念や法則などを学び, 量的なとらえ方もできるようにする。				
授業の進め方・方法	教員単独による講義, 演習, 実験を行う。 学生の理解度により, 授業計画を変更することがある。 授業外学習・事前: 授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後: 復習を兼ねて課題に取り組むこと。				
注意点	内容の定着のため, 小テスト, 課題(宿題)などを課す。これらは提出物点として評価する。 実験や視聴覚教材を取り入れることがある。 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認試験を受けることができる。 追認試験を受けるにあたって課題を課すことがある。 課題への取り組みが教員の求める水準に到達していない場合は追認試験の受験を認めない。 追認試験の結果, 単位の修得が認められた者には, その評価を50点とする。				
<b>授業の属性・履修上の区分</b>					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
必履修					
<b>授業計画</b>					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	物質量と体積の関係 溶液の濃度	物質の量を物質量という単位で表したときの体積との関係を学ぶ。 溶液の濃度の表し方について学習し, 実際に溶液の調整ができるようにする。	
		2週	化学反応式・イオン反応式 化学反応式の表す意味	様々な化学反応を式で表すことができるようになるための基礎を学ぶ。また, 化学反応式は反応を表すだけでなく, 反応の量的な関係も表していることを学習する。	
		3週	化学反応の量的関係	化学反応によって変化する物質の質量や体積を測定値と化学反応式から求め, 反応の量的関係を習得する。また, 演習を行う。	
		4週	酸・塩基の基本事項	酸・塩基の定義, 強弱, 価数と電離度について学ぶ。	
		5週	水素イオン濃度 pH	酸・塩基の度合いを測る尺度としてのpHの求め方について学ぶ。また, 身近な物質のpHがどれくらいかを知る。	
		6週	中和 中和滴定	中和反応と, 中和滴定の実験の仕方・計算について学習する。	
		7週	【実験】中和滴定	中和滴定の実験を行い, 溶液の濃度を求める。また, 器具の使い方, 薬品の取り扱い方も習得する。	

4thQ	8週	塩加水分解	中和によって生じる塩の種類と、塩を加水分解したときの反応について学ぶ。
	9週	中間試験	化学反応と量的関係について、また、酸・塩基に関する事項について理解できているかを問う。
	10週	中間試験の解答	中間試験の答案を返却し、解答・解説することで、今までの復習と理解できていなかったことを確認する。
	11週	酸化と還元 酸化数と酸化・還元	化学変化の主反応である酸化・還元反応の定義を学ぶ。その後、酸化・還元反応を知る上で有効な酸化数の求め方を学習する。また、酸化数の変化によって、酸化・還元反応がわかることを学ぶ。
	12週	酸化剤・還元剤	酸化剤・還元剤について学習する。また、酸化還元反応の量的関係を学ぶ。
	13週	金属のイオン化傾向	金属のイオン化傾向の違いによって反応の仕方が異なることを学ぶ。
	14週	電池	基本的な電池のしくみを学び、電池は酸化還元反応を利用していることを学習する。
	15週	期末試験	さまざまな酸化還元反応について、その現象と量的な関係が理解できているかどうかを問う。
	16週	成績評価・確認	期末試験の成績確認 授業評価アンケート

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0 20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0 20	100
専門的能力	0	0	0	0	0 0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0 0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	環日本海諸国語 I A(ロシア語)
科目基礎情報					
科目番号	0026	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科	対象学年	1		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	"ПОЕХАЛИ!" ("Let's go!") 1-1、その他、別途指示する				
担当教員	山本 有希				
到達目標					
(1)アルファベットの読み書きを修得する (2)名詞等の性数変化の概念、動詞人称変化を理解する (3)単位認定には50点以上を必要とする					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	名詞の性別、格変化の概念及び動詞の活用が8割以上理解できる。	名詞の性別、格変化の概念及び動詞の活用が6割以上理解できる。	名詞の性別、格変化の概念及び動詞の活用における理解度が6割に達しない。		
評価項目2	上記文法事項を活用した作文及び文章読解がスムーズにできる。	上記文法事項を活用した作文及び文章読解ができる。	上記文法事項を活用した作文及び文章読解が満足にできない。		
評価項目3	ペアワークやグループワークにおいて、積極的に表現を考え、発表することが良くできる。	ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができる。	ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	【授業の目標と概要】 (目標) ロシア語の音読や会話を中心に、広くロシア社会・文化等への関心を養う。 (概要) ロシア文字の発音、名詞・形容詞等の性数変化、動詞の現在人称変化を用いた表現を修得する				
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習すること。				
注意点	(授業改善策) 学生の理解度を確認しながら授業を進めるよう努める。 評価が50点に満たない者は、願出により追認試験を受験することができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を50点とする。 (備考) 1)遅刻3回で欠課1時間とする 2)授業計画は、学生の理解度に応じて変更することがある 3)定期試験(中間試験及び期末試験)を70点、その他(発表、課題、小テストなど)を30点として評価する				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1)ガイダンス 2)オリエンテーション	環日本海諸国語についての概説(1)	
		2週	オリエンテーション	環日本海諸国語についての概説(2)	
		3週	オリエンテーション	環日本海諸国語についての概説(3)	
		4週	オリエンテーション	環日本海諸国語についての概説(4)	
		5週	オリエンテーション	環日本海諸国語についての概説(5)	
		6週	第1、2、12課	アルファベットの発音を学び、挨拶表現ができる	
		7週	第3課	場所を尋ねる表現ができる。 人称代名詞を用いた表現ができる	
		8週	第4課	動詞第1人称変化を覚え、「～している、～する」という動作を表現できる	
	2ndQ	9週	第4課	動詞第1人称変化を覚え、「～している、～する」という動作を表現できる	
		10週	中間試験	中間試験は実施しない	
		11週	第5課	動詞第2人称変化を覚え、特に「～語で話す」と話すことができる	
		12週	第5課	動詞第2人称変化を覚え、特に「～語で話す」と話すことができる	
		13週	第6、7、9課	人称代名詞の対格を用いて、自己紹介や「～が好き」といった表現をする子ができる	
		14週	第8、10課	名詞の複数形を学び、所有代名詞の性別と数の概念を理解し、表現できる	
		15週	期末試験	既習事項を確認する	
		16週	成績確認	1)試験返却・解説及び成績確認 2)夏休みの課題の確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	環日本海諸国語 I A(韓国語)		
科目基礎情報							
科目番号	0027		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	「GANADA KOREAN 初級1」、カナタ韓国語学院						
担当教員	天坂 仁美						
到達目標							
GANADA KOREAN 初級1を7課分終える。 (1)ハングル文字の習得 (2)挨拶 (3)基本文形の習得							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	ハングルを正確に読み書き出来る。発音の変化などを充分理解して読める。		ハングルを殆ど読み書き出来る。発音の変化などを殆ど理解して読める。		ハングルをあまり読み書きが出来ない。発音の変化などを理解出来ない。		
評価項目2	自己紹介など基本的文章が正確に表現出来る。		自己紹介など基本的文章が殆ど表現出来る。		自己紹介など基本的文章が表現出来ない。		
評価項目3	叙述文・疑問文・命令文・勧誘文の4文形が正確に出来る。		叙述文・疑問文・命令文・勧誘文の4文形が殆ど出来る。		叙述文・疑問文・命令文・勧誘文の4文形が出来ない。		
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 3							
教育方法等							
概要	一番近い国である韓国を簡単な歴史、文化、風習の違いから日本と比較する。予習形の学習。						
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。						
注意点	評価が50点に満たない者は、願出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者に対しては、その評価を50点とする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス 韓国語と韓国文化	シラバスの説明 韓国語：挨拶 韓国文化：気候と風土			
		2週	韓国語と韓国文化	韓国語：自己紹介 韓国文化：文字と漢字			
		3週	韓国語と韓国文化	韓国語：意思表現 韓国文化：対人関係表現			
		4週	韓国語と韓国文化	韓国語：頼む時の表現 韓国文化：民族性			
		5週	第1課	子音と母音			
		6週	第2課	濃音と複母音、単語			
		7週	第3課	パッチム、単語			
		8週	第4課	挨拶。			
	2ndQ	9週	"	"			
		10週	第5課	所有格			
		11週	"	"			
		12週	第6課	動詞の終結語尾、 動詞4種類の練習			
		13週	第7課	"			
		14週	まとめ	1回～13回までの復習			
		15週	期末試験	1回～14回の講義内容を試験する。			
		16週	成績確認	(1)期末試験の成績確認 (2)授業評価アンケートの実施			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題・授業準備	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	70	10	0	0	0	20	100
基礎的能力	70	10	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	環日本海諸国語 I A(中国語)
科目基礎情報					
科目番号	0028		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「LL中国語入門」大修館書店, 「中国語はじめの一步」白水社				
担当教員	星野 朱美				
到達目標					
(1) 目標					
①子音, 母音と簡単な単語の発音ができ, ピンインを見て発音ができるようになることを目指す。					
②発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れるようになることを目指す。					
③簡単な会話を聞き取れ, かつ, 正確に答えられるようになることを目指す。					
(2) 概要					
中国語に興味を持つような授業を行う。中国の文化, 習慣などを紹介する。中国語ピンインの習得を目的として, ピンインと漢字の書き方, 聞き取りの練習などを行う。各課終了ごとに, 理解度を把握するために小テストを実施する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	正確に発音記号 (ピンイン) を読める		発音記号 (ピンイン) を見て, 大体発音ができる。		発音記号 (ピンイン) を見て, 発音ができない。
評価項目2	発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れる。		発音を聞いて, 大体発音記号を書き取れる。		発音を聞いて発音記号を書き取れない。
評価項目3	基本的な文法構造を理解し, 正確に和文中訳ができる。		基本的な文法構造を理解し, 大体和文中訳ができる。		基本的な文法構造を理解でない, 殆ど和文中訳もできない。
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	1) 目標 子音, 母音と簡単な単語の発音ができ, ピンインを見て発音ができるようになることを目指す。 (2) 概要 中国語に興味を持つような授業を行う。中国の文化, 習慣などを紹介する。中国語ピンインの習得を目的として, ピンインと漢字の書き方, 聞き取りの練習などを行う。各課終了ごとに, 理解度を把握するために小テストを実施する。				
授業の進め方・方法	・ 予習, 復習, 課題を前提とし, 講義を中心に進める。 ・ 1人1人の学生の発音を確認しながら講義を進める。				
注意点	<追認試験> 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果, 単位の修得が認められた者については, その評価を50点とする。評価方法および評価基準は本試験と同じとする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	環日本海諸国語 (中国語) のオリエンテーション 1		
		2週	環日本海諸国語 (中国語) のオリエンテーション 1		
		3週	環日本海諸国語 (中国語) のオリエンテーション 1		
		4週	第1課 (1)	・ シラバスの説明 ・ 母音(a,o,e)と子音(l,u)と音節の発音ができるようにする。	
		5週	第2課 (1)	母音(a,o,e), 子音(l,u, m)と音節の発音ができるようにする。	
		6週	第3課(1)	・ 母音(i,u), 子音(n,f)と音節の発音ができるようにする	
		7週	第5課 (1)	複合母音 1, 有気音と無気音の発音ができるようにする 復習と確認テスト	
		8週	第6課 (1)	複合母音 2の発音ができるようにする。	
	2ndQ	9週	第6課 (3)	復習と確認テスト	
		10週	第7課 (1)	複合母音 3の発音ができるようにする。 テスト	
		11週	第7課 (3)	復習と確認テスト	
		12週	第9課 (1)	複合母音4の発音できるようにする。	
		13週	第9課 (3)	複合母音5の発音ができるようにする。	
		14週		総合復習	
		15週	期末試験	4週から14週までの講義内容について, 筆記試験及び口述試験を実施する。	
		16週	成績評価・確認	期末試験の成績確認	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	90	0	0	0	0	10	100
基礎的能力	90	0	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英会話 I B
科目基礎情報					
科目番号	0029		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Communication Spotlight: Business 1; American Headway 1A (3rd edition)				
担当教員	ソルノキー ノーバート, 大場 エリザベス				
到達目標					
1. To develop strategies and methods to improve English communication through targeted speaking activities. 2. To develop Motivation and Confidence to communicate in English through meaningful and relevant teaching materials and course content. 3. To increase vocabulary, useful phrases and expressions. 4. To improve reading, writing and listening skills through targeted activities in the textbook.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安 Ideal Level of Achievement (Very Good) 80%	標準的な到達レベルの目安 Standard Level of Achievement (Good) 50%	未到達レベルの目安 Poor Level of Achievement (Fail) <50%		
評価項目1 English: Pronunciation, intonation, rhythm, stress, linking	Student clearly displays a high level of control of English.	Student partially displays moderate control of English.	Student displays a low control of English.		
評価項目2 Communication and Conversation	Student clearly displays a high level to communicate ideas/opinions clearly and effectively. Actively engages in conversation and makes efforts to move the conversation forward.	Student displays a moderate level to communicate ideas/opinions clearly and effectively. Occasionally, engages in conversation and makes some effort to move the conversation forward.	Student displays a low level to communicate ideas/opinions clearly and effectively. Seldom engages in conversation and makes little effort to move the conversation forward.		
評価項目3 Grammar in Conversation	Student produces language with a high level of accuracy of grammatical and lexical structures.	Student produces language with a moderate level of accuracy of grammatical and lexical structures.	Student produces language with a low level of accuracy of grammatical and lexical structures.		
Delivery: Confidence, Memory, Eye-contact, Physical Message	Student displays a high level of control and effectively executes all items of Delivery.	Student displays a moderate level of control and effectively executes all items of Delivery.	Student displays a low level of control and effectively executes all items of Delivery.		
Textbook Contents: grammar, listening, reading, and computer exercises	Student clearly displays a high level of understanding of the textbook contents and computer assisted exercises	Student displays a moderate level of understanding of the textbook contents and computer assisted exercises	Student displays a low level of understanding of the textbook contents and computer assisted exercises		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	Introduction of useful vocabulary and expressions including word chunks to conduct basic English conversations in everyday life and business settings on a variety of targeted Topics and Issues. Targeted speaking and presentation activities will be conducted in conjunction with the contents of the textbook and additional online materials.				
授業の進め方・方法	teacher-student lecture form, pair-work, group-workによるtask-based learning, group-based learning.				
注意点	Assignments must be turned in by the specified deadline (if any). Students not present in class should inform the teacher. Make up exams or missed deadlines should be discussed with the teacher. This syllabus is subject to change. If the student didn't meet the overall minimal level of achievement for a grade (50%) at the end of the school year, then the student can take a make-up exam at the beginning of the next school year to reach the minimal level.				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Introduction and orientation	Personal Introductions; Outline of class and expectation of students	
		2週	Unit 1: Nice to meet you	Introducing people; weak vowels	
		3週	Unit 1: Nice to meet you	Stop and ask; Names Online homework	
		4週	Unit 2: Where do you work?	Describing companies; linking sounds	
		5週	Unit 2: Where do you work?	Building conversations, The handshake Online homework	
		6週	Unit 3: Can I have your name, please?	Telephone conversations; sentence stress	
		7週	Unit 3: Can I have your name, please?	Repeating key information, cell phone talk Online homework	
		8週	MIDTERM	Unit 1-3 writing test	
	2ndQ	9週	Unit 4: I am a sales rep	Describing occupations; weak vowels	
		10週	Unit 4: I am a sales rep	Using examples, eye contact Online homework	

後期	3rdQ	11週	Unit 5: They work in shifts	Describing time and schedules; linking sounds
		12週	Unit 5: They work in shifts	Asking about meaning, smoking Online homework
		13週	Unit 6: How's business?	Making small talk; disappearing sounds
		14週	Unit 6: How's business?	Building conversations, small talk Online homework
		15週	FINAL	Unit 4-6 writing test
		16週	Explanation of grade assessment	Review Final test with students
	4thQ	1週	Summer vacation report; games	fun activities
		2週	Unit 7: How many employees are there?	Working with large numbers; weak vowels
		3週	Unit 7: How many employees are there?	Asking questions, lucky numbers Online homework
		4週	Unit 8: It was a long day	Describing past work; blended sounds
		5週	Unit 8: It was a long day	Paraphrasing, business meetings Online homework
		6週	Unit 9: Can you send me that file?	Explaining procedures; sentence stress
		7週	Unit 9: Can you send me that file?	Shadowing, Turn-talking Online homework
		8週	MIDTERM	Unit 7-9 writing test
		9週	Unit 10: It's in the filing cabinet	Describing location; linking sounds
		10週	Unit 10: It's in the filing cabinet	Repeating key information, gestures Online homework
11週	Unit 11: This is good! What is it?	Describing food; weak vowels		
12週	Unit 11: This is good! What is it?	Talking around words, politeness Online homework		
13週	Unit 12: She's going to give a presentation	Describing future plans; casual English: gonna		
14週	Unit 12: She's going to give a presentation	Asking questions, outfits Online homework		
15週	FINAL	Unit 10-12 writing test		
16週	Explanation of grade assessment	Review Final test with students		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	中間試験 1	期末試験 1	中間試験 2	期末試験 2	その他	合計
総合評価割合	25	25	25	25	0	100
基礎的能力; writing test	20	20	20	20	0	80

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度(2023年度)	授業科目	環日本海諸国語ⅡA(中国語)	
科目基礎情報						
科目番号	0030		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	「LL中国語入門」大修館書店, 「中国語はじめの一歩」白水社					
担当教員	星野 朱美					
到達目標						
(1) 子音, 母音と簡単な単語の発音ができ, ピンインを見て発音ができるようになることを目指す。						
(2) 発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れるようになることを目指す。						
(3) 簡単な会話を聞き取れ, かつ, 正確に答えられるようになることを目指す。						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	発音記号(ピンイン)を見て, 正確に発音ができる。	発音記号(ピンイン)を見て, 大体発音ができる。	発音記号(ピンイン)を見て, 発音ができない。			
評価項目2	発音を聞いて, 正確に発音記号を書き取れる。	発音を聞いて, 大体発音記号を書き取れる。	発音を聞いて発音記号を書き取れない。			
評価項目3	正確に簡単な会話を聞き取れ, かつ, 正確に答えることができる。	簡単な会話を聞き取れ, かつ, 大体答えることができる。	簡単な会話を聞き取れなく, かつ, 殆ど答えることができない。			
学科の到達目標項目との関係						
ディプロマポリシー 3						
教育方法等						
概要	(1) 目標 ①子音, 母音と簡単な単語の発音ができ, ピンインを見て発音ができるようになることを目指す。 を聞いて, 正確に発音記号を書き取れるようになることを目指す。 を聞き取れ, かつ, 正確に答えられるようになることを目指す。		②発音 ③簡単な会話			
授業の進め方・方法	(2) 概要 中国語に興味を持つような授業を行う。中国の文化, 習慣などを紹介する。中国語ピンインの習得を目的として, ピンインと漢字の書き方, 聞き取りの練習などを行う。各課終了ごとに, 理解度を把握するために小テストを実施する。 ・予習, 復習, 課題を前提とし, 講義を中心に進める。 ・各学生の発音を確認しながら講義を進める。					
注意点	<授業改善策> 学生の理解度を確認しながら, 発音の練習時間と課題を増やしたり, さらに中国語に興味を持つように工夫して, 学生の意欲を維持して行きたい。 <追認試験> 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果, 単位の修得が認められた者については, その評価を50点とする。評価方法および評価基準は本試験と同じとする。					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1週	環日本海諸国語(中国語)のオリエンテーション1	講義の進め方や成績評価の方法を説明する。			
	2週	環日本海諸国語(中国語)のオリエンテーション1	中国語の子音と単母音を紹介する。			
	3週	環日本海諸国語(中国語)のオリエンテーション1	複合母音と簡単な文法構成などを紹介する。			
	4週	第1課(2)	母音(a)と子音(m)の学習 ・母音(a,o,e), 子音(l,u)と音節の学習			
	5週	第2課(2)	・母音(a)と子音(m)の学習 ・母音(a,o,e), 子音(l,u)と音節の学習			
	6週	第3課(2)	・母音(i,u), 子音(n,f)と音節の学習 ・復習と確認テスト			
	7週	第5課(2)	複合母音1, 有気音と無気音の学習			
	8週	第6課(1)	・複合母音2, 確認テスト			
	2ndQ	9週	第6課(3)	復習と確認テスト		
		10週	第7課(1)	複合母音3, テスト		
		11週	第7課(3)	復習と確認テスト		
		12週	第9課(1)	・複合母音4		
		13週	第9課(3)	復習と確認テスト		
		14週		総合復習		
		15週	期末試験	4週から14週までの講義内容について, 筆記試験及び口述試験を実施する。		
		16週	成績評価・確認	期末試験の成績確認		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	筆記試験	口述試験	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	環日本海諸国語ⅡA(韓国語)		
科目基礎情報							
科目番号	0031		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	「GANADA KOREAN 初級1」、カナタ韓国語学院						
担当教員	天坂 仁美						
到達目標							
GANADA KOREAN 初級1を7課分終える。 (1)ハングル文字の習得 (2)挨拶 (3)基本文形の習得							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	ハングル文字で日本の固有名詞の表記が正確に出来る。		ハングル文字で日本の固有名詞の表記が殆ど出来る。		ハングル文字で日本の固有名詞の表記が出来ない。		
評価項目2	韓国と日本の発音を比較出来、韓国特有な発音が出る。		韓国と日本の発音を比較出来、韓国特有な発音が出来ない。		韓国と日本の発音を比較出来ない。		
評価項目3	教科書の聞き取り、読みの内容が説明を聞くと理解出来る。		教科書の聞き取り、読みの内容が説明を聞くと殆ど理解出来る。		教科書の聞き取り、読みの内容が説明を聞いても理解出来ない。		
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 3							
教育方法等							
概要	一番近い国である韓国を簡単な歴史、文化、風習の違いから日本と比較する。予習形の学習。						
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。						
注意点	評価が50点に満たない者は、願出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を50点とする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 韓国語と韓国文化		シラバスの説明 韓国語：挨拶 韓国文化：気候と風土		
		2週	韓国語と韓国文化		韓国語：自己紹介 韓国文化：文字と漢字		
		3週	韓国語と韓国文化		韓国語：意思表示 韓国文化：対人関係表現		
		4週	韓国語と韓国文化		韓国語：頼む時の表現 韓国文化：民族性		
		5週	第1課		子音と母音		
		6週	第2課		濃音と複母音、単語		
		7週	第3課		パッチム、単語		
		8週	第4課		挨拶。		
	2ndQ	9週	"		"		
		10週	第5課		所有格		
		11週	"		"		
		12週	第6課		動詞の終結語尾、 動詞4種類の練習		
		13週	第7課		"		
		14週	まとめ		1回～13回までの復習		
		15週	期末試験		1回～14回の講義内容を試験する。		
		16週	成績確認		(1)期末試験の成績確認 (2)授業評価アンケートの実施		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題・授業準備	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	70	10	0	0	0	20	100
基礎的能力	70	10	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	環日本海諸国語ⅡA(ロシア語)
科目基礎情報					
科目番号	0032		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	"ПОЕХАЛИ!" ("Let's go!") 1-1、その他、別途指示する				
担当教員	山本 有希				
到達目標					
(1)アルファベットの読み書きを修得する (2)名詞等の性数変化の概念、動詞人称変化を理解する (3)単位認定には50点以上を必要とする					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	名詞の性別、格変化の概念及び動詞人称変化などの項目を活用した口頭表現がスムーズにできる。		名詞の性別、格変化の概念及び動詞人称変化などの項目を活用した口頭表現ができる。		名詞の性別、格変化の概念及び動詞人称変化などの項目を活用した口頭表現が満足にできない。
評価項目2	上記文法事項を活用した口頭表現の発表がスムーズにできる。		上記文法事項を活用した口頭表現の発表ができる。		上記文法事項を活用した口頭表現の発表が満足にできない。
評価項目3	ペアワークやグループワークにおいて、積極的に表現を考え、発表することが良くできる。		ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができる。		ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができない。
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	【授業の目標と概要】 (目標) ロシア語の音読や会話を中心に、広くロシア社会・文化等への関心を養う。 (概要) ロシア文字の発音、名詞・形容詞等の性数変化、動詞の現在人称変化を用いた表現を修得する				
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習すること。				
注意点	<授業改善策> ・学生の理解度を質問等で確認しながら講義を行うよう努める。 ・評価が50点に満たない者は願出により追認試験を受験することができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を50点とする <備考> 1)遅刻3回で欠課1時間とする 2)授業計画や評価項目及び評価割合は変更することがある 3)定期試験(中間試験及び期末試験)を70点、その他(発表、課題、小テストなど)を30点として評価する				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1)ガイダンス 2)オリエンテーション	環日本海諸国語についての概説(1)	
		2週	オリエンテーション	環日本海諸国語についての概説(2)	
		3週	オリエンテーション	環日本海諸国語についての概説(3)	
		4週	オリエンテーション	環日本海諸国語についての概説(4)	
		5週	オリエンテーション	環日本海諸国語についての概説(5)	
		6週	第1、2、12課	アルファベットの発音を学び、挨拶表現ができる	
		7週	第3課	場所を尋ねる表現ができる。 人称代名詞を用いた表現ができる	
		8週	第4課	動詞第1人称変化を覚え、「～している、～する」という動作を表現できる	
	2ndQ	9週	第4課	動詞第1人称変化を覚え、「～している、～する」という動作を表現できる	
		10週	中間試験	中間試験は実施しない	
		11週	第5課	動詞第2人称変化を覚え、特に「～語で話す」と話すことができる	
		12週	第5課	動詞第2人称変化を覚え、特に「～語で話す」と話すことができる	
		13週	第6、7、9課	人称代名詞の対格を用いて、自己紹介や「～が好き」といった表現をする子ができる	
		14週	第8、10課	名詞の複数形を学び、所有代名詞の性別と数の概念を理解し、表現できる	
		15週	期末試験	既習事項を確認する	
		16週	成績確認	1)試験返却・解説及び成績確認 2)夏休みの課題の確認	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	0	0	0	10	100
基礎的能力	70	20	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	データサイエンス I
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0007		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材					
担当教員	宮崎 衣澄,岡本 勝規,村山 雅子,塩見 浩介,宮重 徹也,萩原 信吾,田嶋 雄太,邢 雪歌				
<b>到達目標</b>					
<p>数理データサイエンス・AI, 情報リテラシー, セキュリティ等を学修し, 今後の情報化社会での日常生活や仕事等の場面で活用することができる基礎的素養を身につけること.  社会情勢や社会での実例学ぶことにより, 人間中心の適切な判断ができ, 学修した知識やスキル等を説明, 活用できるようになること.</p> <p>(1) 数理データサイエンス・AIと社会の関わり  (2) 情報リテラシー  (3) セキュリティ  (4) オフィススイート活用</p>					
<b>ループリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (数理データサイエンス・AIと社会の関わり)	数理データサイエンス・AIが社会変化および自らの生活に密接に結びつき, 広範にわたる課題解決に有用であることを実例を挙げて詳細に説明できる.	数理データサイエンス・AIが社会変化および自らの生活に密接に結びつき, 広範にわたる課題解決に有用であることを説明できる.	数理データサイエンス・AIが社会変化および自らの生活に密接に結びつき, 広範にわたる課題解決に有用であることを説明できない.		
評価項目2 (情報リテラシー)	コンピュータやネットワークについての基礎技術およびその役割を理解し, 詳細を説明できる.	コンピュータやネットワークについての基礎技術およびその役割を説明できる.	コンピュータやネットワークについての基礎技術およびその役割を説明できない.		
評価項目3 (セキュリティ)	セキュリティの重要性を理解し, 基礎技術について詳細に説明できる.	セキュリティの重要性, 基礎技術について説明できる.	セキュリティの重要性, 基礎技術について説明できない.		
評価項目4 (オフィススイート活用)	プレゼンテーションソフトを自在に使用することができる.	プレゼンテーションソフトを使用することができる.	プレゼンテーションソフトを使用することができない.		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
ディプロマポリシー 1					
<b>教育方法等</b>					
概要	「データサイエンス I」「データサイエンス II」を通して, 文理問わず高専生が学修すべき情報技術に関するリテラシー, 数理データサイエンス・AIやセキュリティを学ぶ. 知識だけではなく, 社会における重要性を実例を通して学んだり, 実データを用いた演習を実践することで, 現実社会の課題発見・解決力と適切な活用法の修得のための基礎素養を身につける.				
授業の進め方・方法	<p>講義および実データを用いた演習を中心に授業を進める.  なお事前に行う準備学習として, 以下の前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと.  (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておくこと  (授業外学習・事後) 授業内容の復習を行うこと</p> <p>学修した知識の社会における重要性や利活用を学ぶ際には, 自らの考え等をまとめ, 他者と議論するため, グループワーク等を実施する.</p>				
注意点	<p>&lt;評価&gt;  レポート, 試験等を総合的に評価する. 単位認定には50点以上の評価が必要である.</p> <p>&lt;追認試験&gt;  評価が50点に満たない者は, 願い出により追認のための課題を受けることができる. 追認課題の結果, 単位の修得が認められた者にあつては, その評価を50点とする.</p> <p>&lt;授業計画&gt;  授業計画は, 学生の理解度等に応じて変更する場合がある.</p>				
<b>授業の属性・履修上の区分</b>					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
<b>授業計画</b>					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 情報システム利用	授業の進め方を理解できる. 情報システム利用の設定ができる.	
		2週	情報システム設定	パソコンやネットワークの設定ができる.	
		3週	社会情勢	情報化社会での数理データサイエンス・AIの学修の重要性について理解できる.	
		4週	数理データサイエンス・AIと社会	数理データサイエンス・AIと社会の変化の関わりについて理解できる.	
		5週	数理データサイエンス・AIの活用技術, ビジネスの関係(実社会での活用例)	数理データサイエンス・AIを実社会で活用する際の基礎技術について理解できる. またビジネスとの関わりを学び, 実社会での活用について理解できる.	
		6週	情報リテラシー(1) - フローチャート, アルゴリズム -	フローチャートやアルゴリズムについて理解できる.	
		7週	情報リテラシー(2) - コンピュータの動作原理 -	コンピュータの動作原理, 構成, ハードウェアとソフトウェアの役割を理解できる. コンピュータの情報表現について理解できる.	
		8週	情報モラルとセキュリティ(1) - 情報の扱い, ポリシー, マナー -	セキュリティの重要性や情報の取り扱い, 規則やポリシーを理解できる. インターネット利用の危険性やマナーを理解できる.	

2ndQ	9週	情報モラルとセキュリティ(2) - サイバー攻撃, セキュリティ技術, マネジメント -	サイバー攻撃と防御技術を学び, セキュリティの要素技術について理解できる. リスク管理やマネジメント法について理解できる.
	10週	情報リテラシー(3) - ネットワーク基礎 -	情報ネットワークの役割, 構成や仕組みについて理解できる.
	11週	情報リテラシー(4) - 法と情報化社会 -	情報に関わる基本的な法律に関して理解ができる.
	12週	情報リテラシー(5) - 法と情報化社会 -	情報に関わる基本的な法律に関して理解ができる.
	13週	Office Suite活用(1)	Office Suiteの実習を通して活用法を理解できる.
	14週	Office Suite活用(2)	Office Suiteの実習を通して活用法を理解できる.
	15週	Office Suite活用(3)	Office Suiteの実習を通して活用法を理解できる.
	16週	授業評価アンケート	

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

### 評価割合

	試験	課題	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	60	0	0	0	40	100
基礎的能力	0	30	0	0	0	20	50
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	30	0	0	0	20	50

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	データサイエンスⅡ
科目基礎情報					
科目番号	0021	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科	対象学年	1		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材					
担当教員	村山 雅子, 萩原 信吾				
到達目標					
<p>数理データサイエンス・AI, 情報リテラシー, セキュリティ等を学修し, 今後の情報化社会での日常生活や仕事等の場面で活用することができる基礎的素養を身につけること.  社会情勢や社会での実例学ぶことにより, 人間中心の適切な判断ができ, 学修した知識やスキル等を説明, 活用できるようになること.  自らの専門学科以外の学生との協同学習により, 多角的な視点で物事を考える力を身につけること.</p> <p>(1) データの取り扱い  (2) データの分析  (3) 企業活動と数理データサイエンス・AIとの関わり</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (データの取り扱い)	データを適切に扱うことができ, 利用法の詳細について説明できる.	データを適切に扱うことができる.	データを適切に扱うことができない.		
評価項目2 (データの分析)	実データを適切に分析でき, 結果を正しく説明できる.	実データを分析し, 結果を説明できる.	実データを分析できず, 結果を説明できない.		
評価項目3 (企業活動と数理データサイエンス・AIとの関わり)	担当企業を十分に調査し, 適切な取材に基づきレポートをまとめ, 企業活動と数理データサイエンス・AIとの関わりについて多角的な視点から十分に考察できる.	担当企業を調査し, 取材に基づきレポートをまとめ, 企業活動と数理データサイエンス・AIとの関わりについて多角的な視点から考察できる.	担当企業を調査し, 取材に基づきレポートをまとめることができない. 企業活動と数理データサイエンス・AIとの関わりについて考察できない.		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	「データサイエンスⅠ」「データサイエンスⅡ」を通して, 文理問わず高専生が学修すべき情報技術に関するリテラシー, 数理データサイエンス・AIやセキュリティを学ぶ. 知識だけでなく, 社会における重要性を実例を通して学んだり, 実データを用いた演習を実践することで, 現実社会の課題発見・解決力と適切な活用法の修得のための基礎素養を身につける.				
授業の進め方・方法	講義および実データを用いた演習を中心に授業を進める. なお事前に行う準備学習として, 以下の前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと. (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておくこと (授業外学習・事後) 授業内容の復習を行うこと 産学連携教育では, できるだけ全学科の学生からなるチームを構成し, チームで担当企業を調査, 取材するとともに, データやAI活用との関わりをチームで議論し, レポートとしてまとめる.				
注意点	<評価> 課題を総合的に評価する. 単位認定には50点以上の評価が必要である. <追認試験> 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認のための課題を受けることができる. 追認課題の結果, 単位の修得が認められた者には, その評価を50点とする. <授業計画> 授業計画は, 学生の理解度等に応じて変更する場合がある.				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	データサイエンス(1)	具体的なプログラミング言語の変数が理解できる.	
		2週	データサイエンス(2)	具体的なプログラミング言語の関数ができる.	
		3週	データサイエンス(3)	具体的なプログラミング言語の配列が理解できる.	
		4週	データサイエンス(4)	具体的なプログラミング言語の条件分岐が理解できる.	
		5週	データサイエンス(5)	データを適切に取得し, その取り扱い方法, 留意事項について理解できる.	
		6週	データサイエンス(6)	データの種類を理解し, 適切なグラフを作成できる. また度数分布, ヒストグラムについて理解できる.	
		7週	データサイエンス(7)	実データの演習を通して, データのソート方法について理解でき, データの代表値(平均値, 中央値, 最頻値)について理解できる.	
	8週	データサイエンス(8)	実データの演習を通して, データのばらつき(分散, 標準偏差)について理解できる.		
	4thQ	9週	データサイエンス(9)	実データの演習を通して, 箱ひげ図, 散布図について理解できる.	
		10週	データサイエンス(10)	実データの演習を通して, 最小二乗法について理解できる.	
		11週	データサイエンス(11)	実データの演習を通して, 回帰直線, 相関, 相関係数, 決定係数について理解できる.	
12週		データサイエンス(12)	実データの演習を通して, データの分析や因果関係について理解できる.		

	13週	Teams活用 & 産学連携教育 (1)	Teamsの活用法を理解できる。 企業調査活動の進め方, 留意点を理解できる。
	14週	Teams活用 & 産学連携教育 (2)	企業調査を進め, Teamsを活用し, 打ち合わせを実施する。
	15週	Teams活用 & 産学連携教育 (3)	企業に取材し, その成果およびデータやAI活用との関わりをレポートとしてまとめる。
	16週	授業評価アンケート	

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
<b>評価割合</b>							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	60	0	0	0	40	100
基礎的能力	0	30	0	0	0	20	50
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	30	0	0	0	20	50

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	商学概論 I
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0033	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科	対象学年	1		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	青山矢一ほか編 (2020) 『ビジネス基礎』 実教出版.				
担当教員	田嶋 雄太				
<b>到達目標</b>					
現代社会における経済活動と流通のあり方について、体系的な理解を深める。 身近なモノやサービス、流通について分析し、これに関する自分の見解を述べられるようになる。 「社会に出て働くこと」の価値を自分の言葉で説明でき、他者と意見交換できるようになる。					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	経済活動と流通のあり方について、幅広く説明できる。	経済活動と流通のあり方について、その一部を説明できる。	経済活動と流通のあり方について、説明できない。		
評価項目2	身近なモノやサービス、流通について、自分の見解を十分に述べられる。	身近なモノやサービス、流通について、不十分ながらも自分の見解を述べられる。	身近なモノやサービス、流通について、自分の見解を述べられない。		
評価項目3	「社会に出て働くこと」の価値を自分の言葉で説明でき、他者と意見交換できるようになる。	「社会に出て働くこと」の価値を、拙いながらも自分の言葉で説明できている。他者の意見にも積極的に耳を傾けられている。	「社会に出て働くこと」の価値の理解が不十分で、他者の意見も解釈できていない。		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
ディプロマポリシー 1					
<b>教育方法等</b>					
概要	本講の目的は、現代社会におけるビジネスのあり方を体系的に理解することにある。産業や消費生活の変化に伴う商品の多様化などについて考察する。また、身の回りにあるモノやサービス、流通をビジネス視点で俯瞰する能力を得ることも期待する。 なお、この科目は、民間企業で実務経験があり、様々な業界の企業と関わっていた教員が、その経験を活かし、経済を構成する「企業・家計・政府」の幅広い観点から、講義形式で授業を行うものである。				
授業の進め方・方法	基本的に講義形式で行うが、ビジネス事例研究やグループワークなどのアクティブラーニングも一部実施する。				
注意点	本講では、受講生の積極的な発言や意見交換を期待する。なお、前期末の最終的な成績評価は、前期中間試験の点数を50%、前期末試験の点数を50%で計算し、その合計値を最終評価とする。 評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を50点とする。評価方法と評価基準は、本試験に準じる。				
<b>授業の属性・履修上の区分</b>					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
<b>授業計画</b>					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、商業の学習とビジネス		「商学概論 I」の目的、日常生活とビジネスとの関わりについて、理解できる。
		2週	経済と流通の基礎 (1)		経済の仕組みとビジネスについて、理解できる。
		3週	経済と流通の基礎 (2)		経済活動と流通の役割について、理解できる。
		4週	さまざまなビジネス (1)		主なビジネスの種類について、理解できる。
		5週	さまざまなビジネス (2)		小売業の役割と種類について、理解できる。
		6週	さまざまなビジネス (3)		卸売業の役割と種類について、理解できる。
		7週	ビジネス事例研究 (1)		経済の仕組みとビジネスについて、具体的事例に沿って理解できる。
		8週	中間試験		第1～7回の学習内容
	2ndQ	9週	さまざまなビジネス (4)		物流業の役割と種類について、理解できる。
		10週	さまざまなビジネス (5)		金融業の役割と種類について、理解できる。
		11週	さまざまなビジネス (6)		情報通信業の役割と種類について、理解できる。
		12週	ビジネスとコミュニケーション		ビジネスシーンにおけるコミュニケーションの役割について、理解できる。
		13週	情報の入手と活用		情報の適切な入手方法と活用の仕方について、理解できる。
		14週	ビジネス事例研究 (2)		経済の仕組みとビジネスについて、具体的事例に沿って理解できる。
		15週	期末試験		第9～14回の学習内容
		16週	成績確認		答案返却、解説
<b>モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標</b>					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
<b>評価割合</b>					
	試験	レポート		合計	
総合評価割合	70	30	0	100	
基礎的能力	40	15	0	55	
専門的能力	20	10	0	30	

分野横断的能力	10	5	0	15
---------	----	---	---	----

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	商学概論Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0034		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	青山矢一ほか編 (2020) 『ビジネス基礎』実教出版。				
担当教員	田嶋 雄太				
到達目標					
現代社会における企業活動のあり方について、体系的な理解を深める。 マーケティング、企業の資金調達、売買取引について分析し、これに関する自分の見解を述べられるようになる。 「社会に出て働くこと」の価値を自分の言葉で説明でき、他者と意見交換できるようになる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	企業活動のあり方について、幅広く説明できる。	企業活動のあり方について、その一部を説明できる。	企業活動のあり方について、説明できない。		
評価項目2	マーケティング、企業の資金調達、売買取引について、自分の見解を十分に述べられる。	マーケティング、企業の資金調達、売買取引について、不十分ながらも自分の見解を述べられる。	マーケティング、企業の資金調達、売買取引について、自分の見解を述べられない。		
評価項目3	「社会に出て働くこと」の価値を自分の言葉で説明でき、他者と意見交換できるようになる。	「社会に出て働くこと」の価値を、拙いながらも自分の言葉で説明できている。他者の意見にも積極的に耳を傾けられている。	「社会に出て働くこと」の価値の理解が不十分で、他者の意見も解釈できていない。		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 1					
教育方法等					
概要	本講の目的は、現代社会における企業活動のあり方を体系的に理解することにある。企業の資金調達、雇用、売買取引などについて考察する。また、身近な地域のビジネスにも着目し、地域の現状や課題についても考える。 なお、この科目は、民間企業で実務経験があり、様々な業界の企業と関わっていた教員が、その経験を活かし、経済を構成する「企業・家計・政府」の幅広い観点から、講義形式で授業を行うものである。				
授業の進め方・方法	講義形式で行うが、ビジネス事例研究やグループワークなどのアクティブラーニングも一部実施する。 《事前学習・予習》 教科書等で次回の授業範囲の内容を確認しておく。 《事後学習・復習》 授業中に配布したレジュメや教科書等で学んだ内容を再度確認する。また、隔週で授業後レポート課題に取り組む。				
注意点	本講では、受講生の積極的な発言や意見交換を期待する。グループワークでは、「自らの意見を持っているか」「その意見にたどり着いた理由」「他者との意見交換を経た結論の妥当性」等を評価する。 なお、学年末の最終的な成績評価は、後期中間試験の得点を50%、後期末試験の得点を50%で計算し、その合計値を最終評価とする。 最終評価が50点以上で単位を認定する。評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。 追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を50点とする。評価方法と評価基準は、本試験に準じる。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	さまざまなビジネス (6)	情報通信業の役割と種類について、理解できる。	
		2週	企業活動の基礎 (1)	企業活動の基礎について、理解できる。	
		3週	企業活動の基礎 (2)	経営戦略やマーケティングの重要性について、理解できる。	
		4週	企業活動の基礎 (3)	資金調達の役割と方法について、理解できる。	
		5週	企業活動の基礎 (4)	財務諸表の役割や税の仕組みについて、理解できる。	
		6週	企業活動の基礎 (5)	雇用の意義と特徴について、理解できる。	
		7週	ビジネスに関する事例研究	視聴覚教材を用いて、実際の企業のビジネスについて学び、そのノウハウや成功のポイントについて理解できる。	
		8週	中間試験	第1～7回の学習内容	
後期	4thQ	9週	ビジネスと売買取引 (1)	売買取引の条件、締結、履行について、理解できる。	
		10週	ビジネスと売買取引 (2)	代金決済の仕組みについて、理解できる。	
		11週	身近な地域のビジネス	地域ブランディングや地域ビジネスの動向について、理解できる。	
		12週	グループワーク (1)	研究テーマ (地域ビジネス等) について、情報収集・意見交換ができる。	
		13週	グループワーク (2)	研究テーマ (地域ビジネス等) について、情報収集・意見交換ができる。	
		14週	グループワーク (3)	研究テーマ (地域ビジネス等) について、資料作成・発表ができる。	
		15週	期末試験	第9～14回の学習内容	
		16週	成績確認	答案返却、解説	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合				
	試験	レポート	グループワーク	合計
総合評価割合	70	15	15	100
基礎的能力	40	10	10	60
専門的能力	20	5	0	25
分野横断的能力	10	0	5	15

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	情報基礎 I		
科目基礎情報							
科目番号	0035	科目区分	専門 / 選択				
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	国際ビジネス学科	対象学年	1				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	30時間でマスター-EXCEL, 30時間でマスター-WORD						
担当教員	萩原 信吾						
到達目標							
現代のIT活用能力として、EXCELやWORDの利用は必須ともいえる。WORDの活用については、タイピング、書式の設定のような基本的な機能の利活用などがあげられる。またEXCELについては、EXCELの基本機能にくわえ、関数の応用的な記述能力が求められる。本科目においてはこれら2つのアプリケーションにおいて、基本的な利用が可能な能力の習得を目標とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
タイピング能力	キーボードを見ずに、日本語・英語について円滑なタイピングができる。	キーボードを見るが、日本語について円滑なタイピングができる。	日本語・英語ともにキーボードを見て、かつ円滑なタイピングができない。				
WORDの活用能力	WORDにおいて応用的な書式設定や、操作について理解し、WORDの概念構造を理科している。	WORDにおいて基本的な書式設定や、操作ができる。	WORDにおいて、基本的な書式設定や、操作ができない。				
EXCELの活用能力	EXCELにおいて応用的な機能の利用や、関数の利用ができる。	EXCELにおいて基本的な機能の利用や、関数の利用ができる。	EXCELにおいて基本的な機能の利用や、関数の利用ができない。				
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 1							
教育方法等							
概要	学習目標(授業の狙い) [目標] エンドユーザーとして有効なコンピュータの基礎技能を身につける。 [概要] (1) タッチタイピングを習得する。 (2) WORDの基本機能を習得する。 (3) EXCELの基本機能を習得する。						
授業の進め方・方法	教員単独による講義を実施する。 なお事前に行う準備学習として、以下の前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておくこと (授業外学習・事後) 授業内容の復習を行うこと						
注意点	各学生の評価は、期末試験および課題の点数で決定する。評価が50点以上で単位を認める。評価が50点に満たない場合は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた学生にあっては、その評価を50点とする。追認試験の評価方法および評価基準は本試験に準じる。						
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	授業計画、到達目標、評価方法が理解できる。			
		2週	タッチタイピング (1)	ホームポジションを習得する。			
		3週	タッチタイピング (2)	人差し指でタッチタイピングができる。			
		4週	タッチタイピング (3)	人差し指と中指でタッチタイピングができる。			
		5週	タッチタイピング (4)	人差し指、中指、薬指でタッチタイピングができる。			
		6週	タッチタイピング (5)	すべての指を使ってタッチタイピングができる。			
		7週	タッチタイピング (6)	日本語・英語でタッチタイピングができる。			
		8週	タッチタイピング (7)	タッチタイピングの習得を確認する。			
	2ndQ	9週	WORDの活用 (1)	WORDのデータについて理解する。			
		10週	WORDの活用 (2)	WORDの書式について理解する。			
		11週	WORDの活用 (3)	WORDの基本機能について理解する。			
		12週	EXCELの活用 (1)	EXCELの基本機能について理解する。			
		13週	EXCELの活用 (2)	EXCELの関数について理解する。			
		14週	EXCELの活用 (3)	EXCELの条件分岐について理解する。			
		15週	期末試験	講義した内容について理解度を測るために期末試験を行う。			
		16週	答案返却、解説等	本科目の成績について確認する。			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	情報基礎Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0036		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	ITパスポート合格教本				
担当教員	萩原 信吾				
到達目標					
1. 基本的なアルゴリズムについて理解し、十分に説明することができる。 2. 一般的な計算機と情報理論について理解し、十分に説明することができる。 3. 暗号化技術について理解し、十分に説明することができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	基本的なアルゴリズムについて理解し、十分に説明ができる。		基本的なアルゴリズムについておおよそ理解し、説明ができる。		基本的なアルゴリズムについて理解し、説明ができない。
評価項目2	基本的な計算機の仕組みや情報理論について理解し、十分に説明ができる。		基本的な計算機の仕組みや情報理論についておおよそ理解し、説明ができる。		基本的な計算機の仕組みや情報理論について理解し、説明ができない。
評価項目3	暗号化技術について理解し、十分に説明ができる。		暗号化技術についておおよそ理解し、説明ができる。		暗号化技術について理解し、説明ができない。
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 1					
教育方法等					
概要	現在どのような業種・職種でもITと経営全般に関する総合的知識が不可欠である。事務系・技術系、そして文系・理系を問わず、ITの基礎知識を持ち合わせていなければ、企業の戦力にはならない。そこで基本的なIT知識を学習する。				
授業の進め方・方法	エンドユーザーとして有効なコンピュータの基礎知識を身につける。 なお事前に行う準備学習として、以下の前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておくこと (授業外学習・事後) 授業内容の復習を行うこと 国家試験である情報処理技術者試験のITパスポートに対応する。				
注意点	評価が50点に満たないものは願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められたものにあつては、その評価を50点とする。評価方法及び評価基準は本試験と同じとする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	評価方法などについて説明を行う。またシラバスを用いて授業の内容を説明する。	
		2週	システム開発手法	ソフトウェア開発における管理手法を説明できる。	
		3週	2進数	2進数の計算ができる。	
		4週	集合と論理演算	集合演算と論理演算の関係について理解し、説明ができる。	
		5週	集合と論理演算	集合演算と論理演算の関係について理解し、説明ができる。	
		6週	確率の計算	簡単な確率の計算ができる。	
		7週	確率の計算	簡単な確率の計算ができる。	
		8週	データ構造	ソフトウェアにおける基本的なデータ構造について理解し、説明ができる。	
	4thQ	9週	アルゴリズム	ソフトウェアにおける基本的なアルゴリズムについて理解し、説明ができる。	
		10週	5大機能	コンピューターシステムにおける基本的なハードウェア構造について理解し、説明ができる。	
		11週	OSとファイルシステム	OSの役割と、ファイルシステムについて理解し、説明ができる。	
		12週	企業におけるシステム管理	企業におけるコンピューターシステムと家庭のコンピューターシステムについて違いを理解し、説明ができる。	
		13週	暗号化技術	基本的な暗号化技術について理解ができる。	
		14週	暗号化技術	認証局など実際に暗号化技術が利用されているものを理解し、その構造が説明できる。	
		15週	期末試験	期末試験	
		16週	期末試験の解答	試験返却と成績の確認	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		試験	課題	合計	
総合評価割合		80	20	100	

基礎的能力	50	10	60
專門的能力	30	10	40
分野横断的能力	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	体育Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0037		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「Active Sports 総合版」大修館書店				
担当教員	大橋 千里, 林 直人				
到達目標					
(1) 体力の変化・向上を感じることができる。 (2) 効率良くかつ安全な動きが習得できる。 (3) 技能向上のために自ら行動し、問題を解決することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	準備・活動の場面において、自己および仲間のとるべき行動を判断し、適切に働きかけながら、主体的に活動できる。	準備・活動の場面において、自己のとるべき行動を判断し、仲間と協力しながら活動できる。	準備・活動の場面において、自己のとるべき行動を判断できない。仲間との協力や活動への自主的な参加ができない。		
評価項目2	自己の能力を理解し、適切な運動技能、運動強度を判断し、応用的技能の習得や体力向上をはかることができる。	教員が指示した運動課題に従い、運動の基本技術や体力を身につけることができる。	教員の指示に従わず、運動の基本技術や体力を身につけることができない。		
評価項目3	自己や周囲の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動や、周囲への声かけができる。	自己の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	安全に留意しながら活動することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 2 ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	(1) 基礎体力を向上させるとともに、自己の体調の変化に気づいたり調整できる自己管理能力を養う。 (2) 仲間とともに協調し達成することや気づき合い、配慮できる態度を養う。				
授業の進め方・方法	林・大橋 (体操・ダンス、ソフトボール、サッカー、バドミントン) が授業を担当する。前期は体操・ダンスとソフトボールを行う。後期はサッカーとバドミントンを中心に授業を行う。 事前に行う準備学習：前回の実技の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておくこと。 (授業外学習・事後) 授業内容の復習を行うこと。				
注意点	授業改善策) 安全に対する態度を促す。 ※本科目では、50点以上の評価で単位を認定する。 評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を50点とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 体力診断テスト①	体育Ⅱの授業目標と内容を理解する。新体力テストの測定をし、自らの体力レベルを知る。	
		2週	体力診断テスト②	正しい測定方法を理解する。新体力テストの測定をし、自らの体力レベルを知る。	
		3週	体操・ダンス①	ラジオ体操の正しい動きを学び、実践することができる。3人以上10人以下のダンスのグループを作り、話し合いの中でダンス作品の曲を決める。	
		4週	体操・ダンス②	より美しくラジオ体操を実演することができる。ダンス作品の曲に合わせて振付を考え、実践してみる。	
		5週	体操・ダンス③	ラジオ体操の試験の実施。ダンス作品の振り付けを完成させ、作品の全体構成を考える。	
		6週	体操・ダンス④	器械運動 (マット運動) の種目について学び、実践することができる。ダンスの作品創りでは、チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができるようになる。	
		7週	体操・ダンス⑤	より美しく器械運動を実演することができるようになる。ダンス作品の発表会に向けて、衣装や演出を工夫し、リハーサルを行う。	
		8週	体操・ダンス⑥	器械運動 (マット運動) の試験の実施し、次にダンス作品の発表会を行う。	
	2ndQ	9週	ソフトボール①	近距離からのキャッチボールにおいてオーバースローで確実に投げて確実に捕ることができる。ティーバッティングで確実にボールを打つことができる。	
		10週	ソフトボール②	ボールの来る方向に素早く動いて、両手で確実に捕球することができる。トスバッティングで確実にボールを打つことができる。	
		11週	ソフトボール③	スタンダードモーションによるピッチングができるようになる。内野ゴロの捕球と送球ができるようになる。	

後期	3rdQ	12週	ソフトボール④	ティーボールゲームを実践しながらルールの理解を深める。
		13週	ソフトボール⑤	守備、打順などの戦術をチームで決め、自分たちで試合を組み立てることができるようになる。
		14週	ソフトボール⑥	実技試験を実施する。ゲームを通じて他者の意見を聞き合意形成することができるようになる。
		15週	授業評価	授業の総括、および授業評価アンケートの実施。
		16週		
	4thQ	1週	ガイダンス 体力診断テスト①	正しい測定方法を理解する。新体力テストの測定をし、自らの体力レベルを知る。
		2週	体力診断テスト②	正しい測定方法を理解する。新体力テストの測定をし、自らの体力レベルを知ること、自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができるようになる。
		3週	サッカー①	足のいろいろな部位を使ってボールタッチしながらドリブルをすることができる。
		4週	サッカー②	ボールをトラップし、正確なパスを相手にできるようになる。
		5週	サッカー③	2対1の場面からスペースを生かした攻撃ができるようになる。
		6週	サッカー④	パス・ドリブルを生かして4対4のミニゲームを楽しむことができる。
		7週	サッカー⑤	ダブルスゲームのルールを知り、ダブルスゲームができる。
		8週	サッカー⑥	実技試験を実施する。ゲームを通じて他者の意見を聞き合意形成することができるようになる。
		9週	バドミントン①	ドライブ、ヘアピン、クリアーを理解し、打つことができる。
		10週	バドミントン②	ドライブ、ヘアピン、クリアー、ドロップ、スマッシュ、サーブを理解し、打つことができる。
		11週	バドミントン③	シングルスゲームのルールを知り、通常の半コートでのシングルスゲームが実施できる。
12週	バドミントン④	シングルスゲームを実施し、ゲームの記録ができる。		
13週	バドミントン⑤	ダブルスゲームのルールを知り、ダブルスゲームができる。		
14週	バドミントン⑥	実技試験をし、ダブルスゲームができる。ゲームを通じて他者の意見を聞き合意形成することができるようになる。		
15週	授業評価	授業の総括、および授業評価アンケートの実施。		
16週				

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ その他	合計	
総合評価割合	65	0	0	0	0	35	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	0	30
専門的能力	35	0	0	0	0	35	70
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	英会話ⅡA
科目基礎情報					
科目番号	0045		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	American Headway 2B (3rd edition)				
担当教員	大場 エリザベス				
到達目標					
1. To develop strategies and methods to improve English communication through targeted speaking activities. 2. To promote Learner Agency in the classroom. 3. To develop Motivation and Confidence to communicate in English through meaningful and relevant teaching materials and course content. 4. To increase vocabulary, word chunks and useful expressions. 5. To improve reading, writing and listening skills (to lesser degree) through targeted activities in the textbook.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安 (80%)	標準的な到達レベルの目安 (50%)	未到達レベルの目安 <50%		
評価項目1 English: Pronunciation, intonation, rhythm, stress, linking	Student clearly displays a high level of control of English.	Student partially displays moderate control of English.	Student displays a low control of English.		
評価項目2 Communication and Conversation	Student clearly displays a high level to communicate ideas/opinions clearly and effectively. Actively engages in conversation and makes efforts to move the conversation forward.	Student displays a moderate level to communicate ideas/opinions clearly and effectively. Occasionally, engages in conversation and makes some effort to move the conversation forward.	Student displays a low level to communicate ideas/opinions clearly and effectively. Seldom engages in conversation and makes little effort to move the conversation forward.		
評価項目3 Grammar in Conversation	Student produces language with a high level of accuracy of grammatical and lexical structures.	Student produces language with a moderate level of accuracy of grammatical and lexical structures.	Student produces language with a low level of accuracy of grammatical and lexical structures.		
評価項目4 Delivery: Confidence, Memory, Eye-contact, Physical Message	Student displays a high level of control and effectively executes all items of Delivery.	Student displays a moderate level of control and effectively executes all items of Delivery.	Student displays a low level of control and effectively executes all items of Delivery.		
評価項目5 Textbook Contents: grammar, listening, reading, and computer exercises	Student clearly displays a high level of understanding of the textbook contents and computer assisted exercises	Student displays a moderate level of understanding of the textbook contents and computer assisted exercises	Student displays a low level of understanding of the textbook contents and computer assisted exercises		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	Introduction of useful vocabulary and expressions including word chunks to conduct basic English conversations in everyday life and business settings on a variety of targeted Topics and Issues. Targeted speaking and presentation activities will be conducted in conjunction with the contents of the textbook.				
授業の進め方・方法	teacher-student lecture form, pair-work, group-workによるtask-based learning, group-based learning.				
注意点	Assignments must be turned in by the specified deadline (if any). Students not present in class should inform the teacher. Make up exams or missed deadlines should be discussed with the teacher. This syllabus is subject to change. If the student didn't meet the overall minimal level of achievement for a grade (50%) at the end of the school year, then the student can take a make-up exam at the beginning of the next school year to reach the minimal level.				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Guidance: Syllabus explanation.	Explanation of syllabus, grades and tests.	
		2週	Unit 7	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure.	
		3週	Unit 7 Continued	grammar check; reading, listening, speaking activities	
		4週	Unit 7 Continued	Book activities	
		5週	Unit 7 Continued	Book activities	
		6週	Unit 8 Continued	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure.	
		7週	Unit 8 Continued	grammar check; reading, listening, speaking activities	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	Unit 8 Continued	Book activities	
		10週	Unit 8 Continued	Book activities	
		11週	Unit 9	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure.	

後期	3rdQ	12週	Unit 9 Continued	grammar check; reading, listening, speaking activities
		13週	Unit 9 Continued	Book activities
		14週	Review for Test	Review for Test
		15週	期末試験	
		16週	成績確認	成績の評価。既習事項の定着と確認。 授業評価アンケートの実施
	4thQ	1週	Unit 10	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure.
		2週	Unit 10 Continued	Book activities
		3週	Unit 10 Continued	Book activities
		4週	Unit 10 Continued	Book activities
		5週	Unit 11	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure.
		6週	Unit 11 Continued	Book activities
		7週	Unit 11 Continued	Book activities
		8週	中間試験	
		9週	Unit 11 Continued	Book activities
		10週	Unit 12	Introduction of new words and phrases. Explanation of grammar structure.
		11週	Unit 12 Continued	Book activities
12週	Unit 12 Continued	Book activities		
13週	Unit 12 Continued	Book activities		
14週	Review for Test	Review for Final Test		
15週	期末試験			
16週	成績確認	成績の評価。既習事項の定着と確認。 授業評価アンケートの実施		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	中間試験 1	期末試験 1	中間試験 2	期末試験 2	宿題・発表・授業 参加	合計
総合評価割合	25	25	25	25	0	100
リーディング	25	0	25	0	0	50
リスニング	0	0	0	0	0	0
スピーキング	0	25	0	25	0	50

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	英会話ⅡB
科目基礎情報					
科目番号	0046		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Communication Spotlight: Business 2				
担当教員	大場 エリザベス				
到達目標					
1. To help students improve their English pronunciation in English and also to increase their knowledge of English used in business settings. 2. To improve students' speaking, listening and writing ability through communication-based lessons 3. To improve students' confidence in their own communicative ability					
ルーブリック					
	Ideal Level of Achievement (Very Good)		Standard Level of Achievement (Good)		Unacceptable Level of Achievement (Fail)
Composition	The student clearly displays the ability to compose and communicate their ideas.		The student partially displays the ability to compose and communicate their ideas.		The student is unable to display the ability to compose and communicate their ideas.
Pronunciation	The student clearly displays the ability to listen and pronounce words correctly.		The student partially displays the ability to listen and pronounce words at a suitable level.		The student is unable to display the ability to listen and pronounce words at a suitable level.
Communication	"The student clearly displays the ability to comprehend listening materials and is able to communicate their ideas.		The student partially displays the ability to comprehend listening materials and is able to communicate their ideas.		The student did not display the ability to comprehend listening materials and is able to communicate their ideas.
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	Intermediate-level communication skills with a focus on speaking, listening, composition and pronunciation.				
授業の進め方・方法	This class will be held twice a week with classes in your homeroom.				
注意点	This document is a "living" document and may be revised/altered to meet the aims of the course.				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Introduction and orientation, Task-based lesson (TBL)	Outline of class and expectation of students, first task-based lesson	
		2週	Begin Unit 1 Pleased to meet you.	Book activities	
		3週	Unit 1 Continued	Book activities	
		4週	Unit 1 Continued	Book activities	
		5週	Unit 2 Who do you work for?	Book activities	
		6週	Unit 2 Continued	Book activities	
		7週	Unit 3 What do you do?	Book activities and review for test	
		8週	MIDTERM		
	2ndQ	9週	Unit 3 Continued	Book activities	
		10週	Unit 4 Can I leave a message?	Book activities	
		11週	Unit 4 Continued	Book activities	
		12週	Unit 5 It's touch managing my time	Book activities	
		13週	Unit 5 Continued	Book activities	
		14週	Unit 6 What do you call that thing?	Book activities and review for test	
		15週	FINAL		
		16週	Explanation of grade assessment	Review test with students	
後期	3rdQ	1週	Unit 6 Continued	Book activities	
		2週	Unit 7 How much is that in Korean Won?	Book activities	
		3週	Unit 7 Continued	Book activities	
		4週	Unit 8 You need to download a form	Book activities	
		5週	Unit 8 Continued	Book activities	
		6週	Unit 9 Do you like Indonesian food?	Book activities	
		7週	Unit 9 Continued and Review	Book activities and review for test	
		8週	MIDTERM		
	4thQ	9週	Unit 10 Do you have the sales figures?	Book activities	
		10週	Unit 10 Continued	Book activities	
		11週	Unit 11 Make sure you keep all the receipts	Book activities	
		12週	Unit 11 Continued	Book activities	

	13週	Unit 12 When's the trade fair?	Book activities
	14週	Unit 12 Continued and review	Book activities and review for test
	15週	FINAL	
	16週	Explanation of grade assessment	Review test with students

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	Midterm 1	Final 1	Midterm 2	Final 2	Other	合計
総合評価割合	25	25	25	25	0	100
Basic Ability	25	25	25	25	0	100

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	総合国語ⅡA	
科目基礎情報						
科目番号	0047		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	「言語文化」(大修館書店)「論理国語」(数研出版)					
担当教員	久保 陽子					
到達目標						
義務教育レベルの国語力の復習と定着を目指すとともに、論理的文章および文学的文章を根拠に基づき論理的に理解する能力を育てる。古典・漢文を読み理解することで、日本人としての基礎的教養と多用なものを見方を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	古文や漢文をすらすら音読できると同時に、内容についても理解できる。	古文や漢文を音読できると同時に、内容についてもある程度、理解できる。	古文や漢文を音読することができず、内容についても理解できない。			
評価項目2	評論文や文学作品に対する考察が十分にでき、それを自分の言葉できちんと表現できる。	評論文や文学作品に対する考察ができ、それを自分の言葉で表現できる。	評論文や文学作品に対する考察ができず、自分の言葉で表現できない。			
評価項目3	漢字や語句、文学史などの基礎的な知識を身につけている。	漢字や語句、文学史などの基礎的な知識をある程度、身につけている。	漢字や語句、文学史などの基礎的な知識を身につけていない。			
学科の到達目標項目との関係						
ディプロマポリシー 3						
教育方法等						
概要	論理的文章、文学的文章(現代文・古文・漢文)を扱いながら、より発展的な国語の総合力を養っていく。作品の読解を通して自分の生きる社会や文化について考えを深める。自分の考えを文章にしたり、発表できるようにする。					
授業の進め方・方法	義務教育レベルの漢字については、毎時、小テストを実施し、読み・書きの定着を図る。講義形式だが、調べ学習や発表等、受講生から積極的な参加を促す。(授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。(授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。					
注意点	受け身ではなく、積極的に授業に参加してほしい。授業内容については、状況に応じて受講生と相談のうえ変更する可能性もある。本科目では、50点以上の評価で単位を認定する。評価が50点に満たない者は、願出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を50点とする。					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1週	オリエンテーション	文学を学ぶ意義について自分の言葉で説明できる。			
	2週	現代文を読む1-1 —表現の多様性	作品の成立背景や作者について説明できる。全文を音読することができる。			
	3週	現代文を読む1-2 —表現の多様性	構成や表現に着目しながら、1段落の内容を理解し、整理することができる。			
	4週	現代文を読む1-3 —表現の多様性	構成や表現に着目しながら、2段落の内容を理解し、整理することができる。			
	5週	現代文を読む1-4 —表現の多様性	構成や表現に着目しながら、3段落の内容を理解し、整理することができる。			
	6週	現代文を読む1-まとめ —表現の多様性	作品全体の内容を理解し、自分の考えをまとめ発表することができる。			
	7週	古文を読む1-1 —伊勢物語	作品の成立背景や作者について説明できる。全文を音読することができる。			
	8週	前期中間試験	これまでの知識の定着を図る。			
	2ndQ	9週	古文を読む1-2 —伊勢物語	古文の文法や発音について理解し、物語世界を味わい読解することができる。		
		10週	古文を読む1-3 —伊勢物語	物語の背景となる文化や価値観について理解し、物語世界を味わい読解することができる。		
		11週	古文を読む1-4 —伊勢物語	作品の内容を理解し、自分の考えをまとめ発表することができる。		
		12週	漢文を読む1-1 —漢詩	漢文の基本的なルールを復習し、書き下し文が書ける。		
		13週	漢文を読む1-2 —漢詩	作品の成立背景や作者について説明できる。全文を音読し、内容を理解することができる。		
		14週	漢文を読む1-3 —漢詩	作品の内容や作者の主張を理解した上で、自分の考えをまとめ発表することができる。		
		15週	前期期末試験	これまでの知識の定着を図る。		
		16週	答案返却	これまでの復習と定着を図る。自身の学習到達度を知る。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	30	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	総合英語Ⅱ	
科目基礎情報						
科目番号	0048		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	New Rays English Communication II (いっずな書店), 英単語クリティカル+ (Z会) ラビッド・リーディング改訂版Level 2 (美誠社) 夏季休業中課題					
担当教員	山村 啓人					
到達目標						
(1) 高校中級レベルの様々なトピックに関する英文を読んで、内容を理解することができ、読んだ内容に対して自分の意見や考えをまとまりのある英語で述べることができる。 (2) 高校中級レベルの英文法の知識を有し、それを活用して英文を読むことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
リーディング	英検2級レベルの英文を読み、メイン・アイデアとディテールを区別しながら正確に内容が把握できる。		英文によって多少の差はあるものの、英検2級レベルの英文を読み、メイン・アイデアとディテールを区別しながら内容が把握できる。		英検2級レベルの英文を読み、メイン・アイデアとディテールを区別しながら正確に内容が把握することができない。	
表現力	あるトピックや読んだ内容に対して、自分の意見をまとまりのある英語で表現することができる。		あるトピックや読んだ内容に対して、多少の分かりにくさはあるものの、自分の意見をまとまりのある英語で表現することができる。		あるトピックや読んだ内容に対して、自分の意見をまとまりのある英語で表現することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
ディプロマポリシー 3						
教育方法等						
概要	(1) 目標 本授業の目的は、英検2級程度の英文理解力を高めることである。英語を理解することは、リーディングまたはリスニングを通して行われるが、主として読む力に焦点を当てる。ただし授業の半分ほどは英語で行われるので、リスニング力も高めることになる。英語の理解力を高めるには、主として文法の知識、単語の知識、音声の知識を身に付ける必要があるため、授業ではこの3つの知識を重点的に学んでいく。 (2) 概要 各レッスンをパートごとに読み、概要を把握する。その後、重要語彙、表現、構文等を理解しながら、正確な英文理解に至る道筋を示す。また、本文の音読練習を豊富に行い、英語の音声に十分慣れてもらう。本文の内容について英語で意見交換などを行ったり、サマリーを書いたりすることもある。					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員単独による教科書の本文内容理解、語彙・表現の確認、練習、英語によるコミュニケーション活動などを中心に授業を進める。授業の大部分で英語を使うので、学生も間違いを恐れず、積極的に英語を使うことに慣れていってほしい。また、ペア、グループによる学習も多く取り入れる。必要に応じて、教科書以外の英文も授業で扱うことがある。</li> <li>・学生はテキストの指定された箇所を十分に予習してくる。予習とは、英文を読み(問題を解き)、分からない単語や表現を辞書で丁寧に調べ、問題点を明らかにしておくことである。それによって、授業の理解度、学びの質が各段に上がり、記憶への定着度も高くなる。必ず家庭で予習の時間を確保すること。</li> <li>・定期試験評価のうち、中間試験は筆記試験(60%)、期末試験は対面によるパフォーマンステスト(40%)を実施する。</li> </ul> <p>事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 単語テストの勉強をし、授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 理解した教科書本文の音読を十分に行う。</p>					
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、毎回行う単語テストを20%、定期試験を80%として評価をする。別途課題を出すこともあり得る。</li> <li>・評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることが出来る。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を50点とする。</li> <li>・シラバスは計画であるため、進度や学生の理解度に応じて、柔軟に授業運営を行う。</li> </ul>					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1週	オリエンテーション		授業の基本的な考え方、進め方のガイダンス 自己紹介等		
	2週	Chapter 1: Words that Can Guide You in Life		単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。		
	3週	Chapter 1: Words that Can Guide You in Life		単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。		
	4週	Chapter 1: Words that Can Guide You in Life		単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。		
	5週	Chapter 1: Words that Can Guide You in Life		単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。		
	6週	Chapter 3: Salt: More than Just a Seasoning		単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。		
	7週	Chapter 3: Salt: More than Just a Seasoning		単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。		
	8週	中間試験		既習事項の到達度の確認		
	2ndQ	9週	試験返却 Chapter 4: The Story of Holly Butcher		単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。	
		10週	Chapter 4: The Story of Holly Butcher		単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。	

後期		11週	Chapter 4: The Story of Holly Butcher	単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。		
		12週	Chapter 4: The Story of Holly Butcher	単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。		
		13週	Chapter 5: Welcome to Costa Rica: An Invitation to Ecotourism	単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。		
		14週	Chapter 5: Welcome to Costa Rica: An Invitation to Ecotourism	単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。		
		15週	期末試験	既習事項の到達度の確認		
		16週	試験返却	成績確認、定着度の確認、授業評価アンケート		
	3rdQ		1週	Chapter 6: The World Is Not So Simple	単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。	
			2週	Chapter 6: The World Is Not So Simple	単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。	
			3週	Chapter 6: The World Is Not So Simple	単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。	
			4週	Chapter 6: The World Is Not So Simple	単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。	
			5週	Chapter 7: The Psychology of Everyday Experiences	単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。	
			6週	Chapter 7: The Psychology of Everyday Experiences	単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。	
			7週	Chapter 7: The Psychology of Everyday Experiences	単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。	
			8週	中間試験	既習事項の到達度の確認	
		4thQ		9週	試験返却 Chapter 8: An Ainu Girl Named Yukie	単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。
				10週	Chapter 8: An Ainu Girl Named Yukie	単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。
11週	Chapter 8: An Ainu Girl Named Yukie			単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。		
12週	Chapter 8: An Ainu Girl Named Yukie			単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。		
13週	Chapter 8: An Ainu Girl Named Yukie			単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。		
14週	Supplementary Materials			単語や文法が理解でき、本文の内容を正しく読み取ることができる。自分の意見を英語で言える。		
15週	期末試験			既習事項の到達度の確認		
16週	試験返却		成績確認、定着度の確認、授業評価アンケート			

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	単語テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	英語表現Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0049		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	英文法・語法 SWing				
担当教員	金本 英朗				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で学習する文法事項について、その内容を正確に理解することができる。</li> <li>与えられたテーマについて、自分の考えを十分相手に伝わるよう、話したり書いたりすることができる。</li> </ul>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
文法知識	授業で学習する文法事項について、その内容を正確に理解することができる。	授業で学習する文法事項について、その内容を概ね理解することができる。	授業で学習する文法事項について、その内容をほとんど理解することができない。		
話すこと	与えられたテーマについて、自分の考えを十分に相手に伝わるように話す(発表・やりとり)ことができる。	与えられたテーマについて、自分の考えを概ね相手に伝わるように話す(発表・やりとり)ことができる。	与えられたテーマについて、自分の考えをほとんど話す(発表・やりとり)することができない。		
書くこと	与えられたテーマについて、自分の考えを十分に相手に伝わるように書くことができる。	与えられたテーマについて、自分の考えを概ね相手に伝わるように書くことができる。	与えられたテーマについて、自分の考えをほとんど書くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	この授業では、文法事項について学ぶ。また、文法知識を活用しながら与えられたテーマについて表現する(話す、書く)活動を行う。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>文法の学習は、文法事項について知識を深めるとともに、対話活動もすることで文法知識の定着を図る。</li> <li>与えられたテーマについて表現する活動(プロジェクト学習)では、パソコンを活用して調べたり、辞書を活用して英文を作成したりする。</li> <li>授業外で予習・復習を十分にすることが望まれる。</li> </ul>				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業には必ずパソコンと辞書を持参すること。</li> <li>私語やスマホの使用に注意し、自立した態度で授業に臨むこと。</li> <li>評価が50点に満たないものは、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められたものは、その評価を50点とする。</li> </ul>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	授業の概要や目的について理解する 自己紹介、英語を使ったウォームアップ	
		2週	Unit 5 仮定法 プロジェクト学習 1-1	当該文法事項について理解し、表現することができる。 プロジェクト学習 導入	
		3週	Unit 5 仮定法 プロジェクト学習 1-2	当該文法事項について理解し、表現することができる。 プロジェクト学習 準備	
		4週	Unit 5 仮定法 プロジェクト学習 1-3	当該文法事項について理解し、表現することができる。 プロジェクト学習 準備・練習	
		5週	Unit 9 前置詞 プロジェクト学習 1-4	当該文法事項について理解し、表現することができる。 プロジェクト学習 リハーサル	
		6週	プロジェクト学習 1-5	プロジェクト学習 発表	
		7週	Unit 9 前置詞 プロジェクト学習 1-6	当該文法事項について理解し、表現することができる。 プロジェクト学習 作文	
		8週	中間試験	成績評価・確認	
	2ndQ	9週	答案の返却 Unit 10 動詞の語法 1	解答と解説 当該文法事項について理解し、表現することができる。	
		10週	Unit 10 動詞の語法 1 プロジェクト学習 2-1	当該文法事項について理解し、表現することができる。 プロジェクト学習 導入	
		11週	Unit 11 疑問詞 プロジェクト学習 2-2	当該文法事項について理解し、表現することができる。 プロジェクト学習 準備	
		12週	Unit 11 疑問詞 プロジェクト学習 2-3	当該文法事項について理解し、表現することができる。 プロジェクト学習 リハーサル	
		13週	プロジェクト学習 2-4	プロジェクト学習 発表	

		14週	文法 まとめ プロジェクト学習 2-5	当該文法事項について理解し、表現することができる。 プロジェクト学習 作文
		15週	期末試験	成績評価・確認
		16週	答案の返却	解答と解説
後期	3rdQ	1週	Unit 13 接続詞	当該文法事項について理解し、基礎・応用問題を解くことができる。
		2週	Unit 13 接続詞 プロジェクト学習3-1	当該文法事項について理解し、基礎・応用問題を解くことができる。 プロジェクト学習 導入
		3週	Unit 14 比較 プロジェクト学習3-2	当該文法事項について理解し、表現することができる。 プロジェクト学習 準備
		4週	Unit 14 比較 プロジェクト学習3-3	当該文法事項について理解し、表現することができる。 プロジェクト学習 準備・練習
		5週	Unit 15 動詞の語法 2 プロジェクト学習3-4	当該文法事項について理解し、表現することができる。 プロジェクト学習 リハーサル
		6週	プロジェクト学習3-5	プロジェクト学習 発表
		7週	Unit 15 動詞の語法 2 プロジェクト学習3-6	当該文法事項について理解し、表現することができる。 プロジェクト学習 作文
		8週	中間試験	成績評価・確認
	4thQ	9週	答案の返却 文法 振り返り 1	解答と解説 当該文法事項について理解し、表現することができる。
		10週	文法 振り返り 2 プロジェクト学習4-1	当該文法事項について理解し、表現することができる。 プロジェクト学習 導入
		11週	文法 振り返り 3 プロジェクト学習4-2	当該文法事項について理解し、表現することができる。 プロジェクト学習 準備
		12週	文法 振り返り 4 プロジェクト学習4-3	当該文法事項について理解し、表現することができる。 プロジェクト学習 リハーサル
		13週	プロジェクト学習4-4	プロジェクト学習 発表
		14週	文法 振り返り 5 プロジェクト学習4-5	当該文法事項について理解し、表現することができる。 プロジェクト学習 作文
		15週	学年末試験	成績評価・確認
		16週	答案の返却	解答と解説

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	作文・発表 他	提出物	相互評価	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	環日本海諸国語ⅢA(中国語)
科目基礎情報					
科目番号	0050		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「中国語はじめの一歩」白水社				
担当教員	海老原 毅				
到達目標					
(1) 基礎的な文法を習得する。 (2) 初級レベルの中文和訳、和文中訳ができる力を習得する。 (3) 簡単な会話を聞き取れ、一言応対ができる能力を身につける。 (4) 聞いた単語を漢字とピンインで書ける能力を身につける。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	初級レベルの文法構造を理解し、正確に中文和訳と和文中訳ができる。		初級レベルの文法構造を殆ど理解し中文和訳と和文中訳がほぼできる。		初級レベルの文法構造が殆ど理解できなく、中文和訳と和文中訳ができない。
評価項目2	簡単な会話を聞き取れ、正確に一言応対ができる。		簡単な会話を聞き取れ、一言応対がほぼできる。		簡単な会話を聞き取れなく、一言応対がほぼできない。
評価項目3	聞いた単語を正確に漢字とピンインで書ける。		聞いた単語を漢字とピンインをほぼ書ける。		聞いた単語を漢字とピンインをほぼ書けない。
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	(1) 基礎的な文法を習得する。 (2) 初級レベルの中文和訳、和文中訳ができる力を習得する。 (3) 簡単な会話を聞き取れ、一言応対ができる能力を身につける。 (4) 聞いた単語を漢字とピンインで書ける能力を身につける。				
授業の進め方・方法	・予習、復習、課題を前提とし、講義を中心に進める。 ・学生の発音を確認しながら講義を進める。				
注意点	<追認試験の評価方法と評価基準> 評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を50点とする。 (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておくこと (授業外学習・事後) 授業内容の復習を行うこと				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス 第6課		・シラバスの説明, ・練習問題の答え合わせ
		2週	第6課 第7課		・「完了」及び場所の表現の簡単な会話を話せる。 ・「介詞」の表現と「反復疑問文」を理解できるようにする。
		3週	第7課		・小テスト ・練習問題の答え合わせ
		4週	第7課 第8課		・「介詞」と「反復疑問文」の表現の簡単な会話を話せる。 ・「時間量」と助動詞「得」の表現を理解できるようにする。
		5週	第8課		・小テスト ・練習問題の答え合わせ
		6週	第8課		「時間量」と助動詞の表現の簡単な会話を話せる。
		7週	口述試験		1回から6回までの講義内容について、口述試験を実施する。
		8週	中間試験		1回から6回までの講義内容について、筆記試験を実施する。
	2ndQ	9週	成績評価・確認		成績確認
		10週	第9課		「過去の経験」の表現の文を理解できるようにする。 「是・・・的」の文を理解できるようにする。
		11週	第9課		小テスト 練習問題の答え合わせ
		12週	第9課 第10課		「過去の経験」と「是・・・的」の表現の簡単な会話を話せる。 助動詞(3)の文を理解できるようにする。
		13週	第10課		「動作の状態」の表現の文を理解できるようにする。 練習問題の答え合わせ
		14週	口述試験		9回から14回までの講義内容について、口述試験を実施する。

		15週	期末試験	9回から14回までの講義内容について、筆記試験を実施する。			
		16週	成績評価・確認	期末試験の成績確認			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	口述試験	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	70	20	0	0	0	10	100
基礎的能力	70	20	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度(2024年度)		授業科目	環日本海諸国語ⅢA(韓国語)	
科目基礎情報							
科目番号	0051		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	①「GANADA KOREAN 初級1、2」、カナタ韓国語学院 ② 初級文法プリント						
担当教員	天坂 仁美						
到達目標							
GANADA KOREAN 初級1を終えて初級2を8課分終える。 韓国語能力試験2級(初級)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	初級レベルの語彙を習得して基本文章が正確に作成出来る。		初級レベルの語彙を習得して基本文章が殆ど作成出来る。		初級レベルの語彙を習得していないので基本文章を作成出来ない。		
評価項目2	語尾を利用した表現を授業で積極的に発表出来る。		語尾を利用した表現を授業で発表出来る。		語尾を利用した表現を授業で発表出来ない。		
評価項目3	不規則動詞・形容詞の応用が正確に出来る。		不規則動詞・形容詞の応用が殆ど出来る。		不規則動詞・形容詞の応用が出来ない。		
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 3							
教育方法等							
概要	韓国語能力試験は大韓民国教育部が認定する試験で、1級(初級)から6級までである。2級は、2000語程度の語彙を用いた文章を理解でき、使用できる程度						
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習、韓国のインターネットで韓国を紹介。 事前に行う準備学習: 前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。						
注意点	評価が50点に満たない者は、願出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を50点とする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 初級文法の整理		シラバスの説明 基本文、練習、聞き取り、読みの理解 連結語尾、終結語尾のまとめ		
		2週	第21, 22課 非格式的表現、提案の表現		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		3週	第23, 24課 予定・計画・希望の表現、動作の進行形		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		4週	第25, 26課 可能かを聞く表現、不可能な事情の説明		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		5週	第27, 28課 贈呈、交通手段		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		6週	第29, 30課 条件、仮定		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		7週	まとめ		復習と確認		
		8週	中間試験		前期1週～7週の講義内容を試験する		
	2ndQ	9週	第1課 安否を尋ねる		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		10週	第2課 理由・不可能の表現		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		11週	第3, 4課 勧誘形の疑問文、相手の意思を尋ねる		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		12週	第5, 6課 理由、動詞の連体形		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		13週	第7, 8課 動詞の持続、経験してみる		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		14週	まとめ		復習と確認		
		15週	期末試験		前期9週～14週の講義内容を試験する		
		16週	成績確認		(1) 期末試験の成績確認 (2) 授業評価アンケートの実施		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題・授業準備	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	70	10	0	0	0	20	100

基礎的能力	70	10	0	0	0	20	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	環日本海諸国語ⅢA(ロシア語)
科目基礎情報					
科目番号	0052	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科	対象学年	2		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	"ПОЕХАЛИ!" 1-1, 1-2				
担当教員	山本 有希				
到達目標					
(1)名詞等の格変化を習得する (2)動詞の完了体と不完了体の用法を習得する (3)単位認定には50点以上が必要である					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	名詞格変化、運動の動詞及び動詞の体について、8割以上理解できる。	名詞格変化、運動の動詞及び動詞の体について、6割以上理解できる。	名詞格変化、運動の動詞及び動詞の体における理解度が6割に達しない。		
評価項目2	上記文法事項を活用した作文及び文章読解がスムーズにできる。	上記文法事項を活用した作文及び文章読解ができる。	上記文法事項を活用した作文及び文章読解が満足にできない。		
評価項目3	ペアワークやグループワークにおいて、積極的に表現を考え、発表することが良くできる。	ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができる。	ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	1年時に学習した事項を確認しながら、引き続きロシア語学習を進める。				
授業の進め方・方法	教員単独による講義および演習 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習すること。				
注意点	<授業改善策> ・学生の理解度を質問等で確認しながら講義を行うよう努める。 ・評価が50点に満たない者は願い出により追認試験を受験することができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者には、その評価を50点とする。 <備考> 1)遅刻3回で欠課1時間とする 2)授業計画や評価項目及び評価割合は変更することがある 3)定期試験(中間試験及び期末試験)を70点、その他(発表、課題、小テストなど)を30点として評価する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	第29課	オリエンテーション 1年次の学習事項の確認 定動詞と不定動詞の用法を理解できる	
		2週	第29、30課	定動詞の表現「～へ行くとこらだ」を用いて移動の様子を表現できる	
		3週	第29、30課	不定動詞の表現「～へよく行く、～へ行ってきた」を用いて移動の様子を表現できる	
		4週	第31課	ся動詞の人称変化を理解し、表現を用いることができる	
		5週	第32課	生格の用法を理解し、所有表現及び否定生格表現を用いることができる。	
		6週	第33、37課	数と名詞生格の結合を理解し、数量をめぐる表現を持ちいることができる。	
		7週	第34課	生格を用いた所有表現を理解し、所有関係を表現できる。	
		8週	第35課	運動の動詞(飛ぶ、泳ぐ、走る)の変化形を覚え、移動の様子を表現できる。 生格を用いて、出所や起点を表現することができる。	
	2ndQ	9週	第37、38課	生格を用いた年月日の表現を理解し、年代表現ができるようになる。	
		10週	中間試験	既習事項を確認する	
		11週	試験返却及び解説 第39課	男性名詞における活動体と不活動体の概念を理解し、活動体を目的語とした表現ができる。	
		12週	第40課	形容詞比較級の作り方を理解し、比較表現ができる。	
		13週	第41課	動詞の体の概念を理解する。完了体と不完了体のペアを覚える。	
		14週	第41課	不完了体・完了体の不定形を用いた表現ができる。	
		15週	期末試験	既習事項の確認を行う	

		16週	成績確認	成績評価の確認を行う			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	環日本海諸国語IVA(中国語)
科目基礎情報					
科目番号	0053		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	郁文堂「中国語入門アタック25」				
担当教員	星野 朱美				
到達目標					
(1)初級レベルの中国語会話を話せるように目指す。 (2)簡単な会話を聞き取れ、一言応対ができる能力を身に付ける。 (3)聞いた単語を漢字とピンインを書ける能力を身に付ける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	会話を聞き取れ、正確に一言応対ができる。		会話を聞き取れ、一言応対がほぼできる。		会話を聞き取れなく、一言応対がほぼできない。
評価項目2	初級レベルの文法構造を理解し、正確に中文和訳と和文中訳ができる。		初級レベルの文法構造を殆ど理解し中文和訳と和文中訳がほぼできる。		初級レベルの文法構造が殆ど理解できなく、中文和訳と和文中訳ができない。
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	学習目標 (授業の狙い) (1)初級レベル会話を習得する。 (2)簡単な会話を聞き取れ、一言応対ができる能力を身に付ける。 (3)聞いた単語を漢字とピンインを書ける能力を身に付ける。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習、復習、課題を前提とし、講義を中心に進める。</li> <li>・ 学生の会話の完成度を確認しながら講義を進める。</li> <li>・ 会話の練習、小テストや発表を実施する。</li> </ul> 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。				
注意点	<追認試験の評価方法と評価基準> 評価が50点に満たさない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を50点とする。評価方法および評価基準は本試験と同じとする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	①ガイダンス ②第1課の単語、文法と会話文の学習	①シラバスの説明 ②中国語の基本的な語順と判断文等の文法要点を理解できる ③会話練習により簡単な自己紹介を話せる	
		2週	①第2課の単語、文法と会話文の学習 ②補充会話「我要一个5号套餐」の学習	①形容詞述語文等の文法要点を理解できる②中国のお金の言い方と聞き方を分かる ③会話練習により簡単な買い物会話を話せる	
		3週	①第3課の単語、文法と会話文の学習 ②補充会話「一緒に街行きませんか」の学習	①動詞述語文等の文法要点を理解できる ②所有、存在と前置詞“在”の表現ができる ③会話練習により家族の紹介ができる	
		4週	①小テスト「我的黄金周」の発表 ②スキット ③第4課の単語、文法と会話文の学習	①スキット発表により習った文法を使い、長い休み中の出来事を中国語で表現できる②主述述語文等の文法要点を理解できる	
		5週	①第4課の復習とドリルの確認 1「你哪儿不舒服？」の学習 ②補充会話 2「你最近忙不忙？」の学習 ③補充会話2「你最近忙不忙？」の学習	①反復疑問文と疑問詞疑問文を理解できる②スキット「你最近怎么样？」の発表により最近体、勉強と部活の様子を表現できる	
		6週	①第5課の単語、文法と会話文の学習 ②第6課単語、文法と会話文の学習	①北京気候の特徴を覚える上、富山の四季の特徴と各季節の中樂しめることを会話表現できる。②時点と時量を正しく使える。	
		7週	口述試験 (スキット)	1回から6回までの講義内容について、口述試験 (スキット) を実施する。	
		8週	中間試験 (筆記試験)	1回から6回までの講義内容について、中間試験を実施する。	
	2ndQ	9週	成績評価・確認	成績確認	
		10週	①第7課の単語、文法と会話文の学習 ②補充会話 ③補充会話 ④補充会話 ⑤補充会話 ⑥補充会話 ⑦補充会話 ⑧補充会話 ⑨補充会話 ⑩補充会話 ⑪補充会話 ⑫補充会話	①“了”の用法を正しく理解できる。 ②会話練習により継続的な状態を示す出来事を正しく会話表現できる	
		11週	①第8課の単語、文法と会話文の学習 ②補充会話 ③補充会話 ④補充会話 ⑤補充会話 ⑥補充会話 ⑦補充会話 ⑧補充会話 ⑨補充会話 ⑩補充会話 ⑪補充会話 ⑫補充会話	①様態と結果補語などを正しく理解できる②会話練習により身近な出来事を様態補語と結果補語で正しく表現できる。	
		12週	①小テスト ②第9課の ③スキット発表	①可能を表す助動詞と可能補語を正しく理解できる。②自分の趣味と部活について習った文法を使い、正しく会話表現できる	



富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	歴史 I
科目基礎情報					
科目番号	0054		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	主教材 『歴史総合 近代から現代へ』 山川出版社 (検定教科書) 副教材 『詳説 世界史図録 第4版』 山川出版社 『詳説 日本史図録 第9版』 山川出版社				
担当教員	市嶋 聡之				
到達目標					
地理的知識を再確認しつつ、近代史 (近代化過程) を学び、異文化理解を深める。各地域・各時代の政治支配構造、社会経済構造、宗教などを理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	各地域の地理的諸条件 (地域固有の事情) を理解した上で、自分なりに社会的事象を考察し、論ずることができる。		各地域の地理的諸条件 (地域固有の事情) を理解した上で、自分なりに社会的事象を考察することができる。		各地域の地理的諸条件 (地域固有の事情) を理解できず、自分なりに社会的事象を考察することができない。
評価項目2	先史・古代の世界史的知識を獲得した上で、自分なりに社会的事象を考察し、論ずることができる。		先史・古代の世界史的知識を獲得した上で、自分なりに社会的事象を考察できる。		先史・古代の世界史的知識を獲得することができず、自分なりに社会的事象を考察することができない。
評価項目3	近現代の世界史・日本史に関する知識を獲得した上で、自分なりに社会的事象を考察し、論ずることができる。		近現代の世界史・日本史に関する知識を獲得した上で、自分なりに社会的事象を考察することができる。		近現代の世界史・日本史に関する知識を獲得できず、自分なりに社会的事象を考察することができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 目標 各時代の政治・経済・宗教・文化を学ぶことを通して、社会の有為な形成者として必要な歴史的教養 (歴史的な知識や物の見方・考え方) を身につける。今年度の中心課題は近代化を問うことである。地球史・人類史を概観した後、近代化過程を考察していく。 (2) 概要 本年次では、近代の世界史・日本史を考究することを中心課題とする。その前段階として、地理的知識や先史時代や古代文明期など前近代についても学んでいく。対象となる時期は、15世紀から19世紀初頭である。教科書の内容を均等に進めるのではなく、近代化過程という論点を深く掘り下げて考察していくこととする。				
授業の進め方・方法	授業担当教員単独で実施する講義中心の授業だが、そのために必要な地理的知識についても、必要に応じて講じていく。また、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教といった一神教や、仏教などの宗教に関する講義も折に触れて実施したい。				
注意点	年度末の評価が50点に満たない者は、願い出により、次年度に実施する追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を50点とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	はじめに 地球史概観	ガイダンス (年間日程とシラバスの説明) 歴史を学ぶ意義について 人類誕生より前の地球史	
		2週	人類史概観 I	人類の出現 農耕・牧畜の始まり 古代文明 (1) メソポタミア文明	
		3週	人類史概観 II	古代文明 (2) エジプト文明	
		4週	人類史概観 III	古代文明 (3) ギリシア文明	
		5週	人類史概観 IV	古代文明 (4) ローマ帝国	
		6週	アジア諸地域の繁栄と日本 I	西・南アジアのイスラーム帝国	
		7週	アジア諸地域の繁栄と日本 II	東南アジア	
		8週	アジア諸地域の繁栄と日本 III	東アジア (1)	
	2ndQ	9週	前期中間試験	これまでの学習内容の確認	
		10週	アジア諸地域の繁栄と日本 IV	東アジア (2)	
		11週	アジア諸地域の繁栄と日本 V	日本 (1) 封建制の成立、室町時代	
		12週	アジア諸地域の繁栄と日本 VI	日本 (2) 戦国時代	
		13週	アジア諸地域の繁栄と日本 VII	日本 (3) 江戸幕府の成立	
		14週	アジア諸地域の繁栄と日本 VIII	日本 (4) 幕藩体制下の政治	
		15週	アジア諸地域の繁栄と日本 IX	日本 (5) 幕藩体制下の経済と社会	
		16週	前期末試験	前期中間試験以降の学習内容の確認	
後期	3rdQ	1週	ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出 I	ルネサンス 主権国家体制の形成 (1)	
		2週	ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出 II	主権国家体制の形成 (2)	
		3週	ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出 III	宗教改革 (1)	

4thQ	4週	ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出Ⅳ	宗教改革（２）
	5週	ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出Ⅴ	大航海時代 ヨーロッパ人の海外進出（１）
	6週	ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出Ⅵ	大航海時代 ヨーロッパ人の海外進出（２）
	7週	ヨーロッパ経済の動向と産業革命Ⅰ	ヨーロッパ経済の動向
	8週	ヨーロッパ経済の動向と産業革命Ⅱ	産業革命
	9週	後期中間試験	後期のこれまでの学習内容の確認、
	10週	アメリカ独立革命とフランス革命Ⅰ	アメリカ独立革命（１）
	11週	アメリカ独立革命とフランス革命Ⅱ	アメリカ独立革命（２）
	12週	アメリカ独立革命とフランス革命Ⅲ	フランス革命（１）
	13週	アメリカ独立革命とフランス革命Ⅳ	フランス革命（２）
	14週	19世紀のヨーロッパⅠ	ヨーロッパ諸国の近代化（１）
	15週	19世紀のヨーロッパⅡ 19世紀のアメリカ大陸	ヨーロッパ諸国の近代化（２） アメリカ合衆国の拡大
	16週	学年末試験	後期中間試験以降の学習の確認・成績確認

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	40
専門的能力	30	0	0	0	0	30
分野横断的能力	30	0	0	0	0	30

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	環日本海諸国語IVB(ロシア語)
科目基礎情報					
科目番号	0055	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科	対象学年	2		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	"ПОЕХАЛИ!" 1-1, 1-2				
担当教員	山本 有希				
到達目標					
(1)名詞等の格変化を習得する (2)動詞の完了体と不完了体の用法を習得する (3)単位認定には50点以上が必要である					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	名詞格変化、運動の動詞及び動詞の体について、8割以上理解できる。	名詞格変化、運動の動詞及び動詞の体について、6割以上理解できる。	名詞格変化、運動の動詞及び動詞の体における理解度が6割に達しない。		
評価項目2	上記文法事項を活用した作文及び文章読解がスムーズにできる。	上記文法事項を活用した作文及び文章読解ができる。	上記文法事項を活用した作文及び文章読解が満足にできない。		
評価項目3	ペアワークやグループワークにおいて、積極的に表現を考え、発表することが良くできる。	ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができる。	ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1年時に学習した事項を確認しながら、引き続きロシア語学習を進める。				
授業の進め方・方法	教員単独による講義および演習 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習すること。				
注意点	<授業改善策> ・学生の理解度を質問等で確認しながら講義を行うよう努める。 ・評価が50点に満たない者は願い出により追認試験を受験することができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を50点とする <備考> 1)遅刻3回で欠課1時間とする 2)授業計画や評価項目及び評価割合は変更することがある 3)定期試験(中間試験及び期末試験)を70点、その他(発表、課題、小テストなど)を30点として評価する				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	第42課	体による用法の違いを学び、過去におけるプロセスや結果を表現できる。	
		2週	第42課	体による用法の違いを学び、過去におけるプロセスや結果を表現できる。	
		3週	第43課	体による用法の違いを学び、未来におけるプロセスや結果を表現できる。	
		4週	第43課	体による用法の違いを学び、未来におけるプロセスや結果を表現できる。	
		5週	第44、45課	名詞の与格を覚え、宛先、年齢、主体を表現できる。	
		6週	第46課	名詞の与格を用いて、無人称文の主体を表現できる。	
		7週	中間試験	既習事項を確認する	
		8週	第47、49課	名詞の与格を覚え、「誰々の所へ行く」という表現ができる	
	4thQ	9週	第50課	名詞の造格変化を覚え、道具、同伴、具材を表現できる	
		10週	第50課	造格を用いて、身分や立場を表現できる。	
		11週	第51課	造格を要求する動詞や前置詞を覚え、表現することができる	
		12週	第52課	派生動詞の形成について学習し、派生動詞を用いて、出発を表現できる	
		13週	第53課	その他の派生動詞を用いて、到着、立ち寄り、立ち去り等を表現できる	
		14週	第54課	疑問詞と格変化のまとめを行う	
		15週	期末試験	既習事項の確認を行う	
		16週	成績確認	成績評価の確認を行う	
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	環日本海諸国語IVB(中国語)
科目基礎情報					
科目番号	0056		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	郁文堂「中国語入門アタック25」				
担当教員	星野 朱美				
到達目標					
(1)初級レベル会話を習得する。 (2)簡単な会話を聞き取れ、一言応対ができる能力を身に付ける。 (3)聞いた単語を漢字とピンインを書ける能力を身に付ける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	会話を聞き取れ、正確に一言応対ができる。		会話を聞き取れ、一言応対がほぼできる。		会話を聞き取れ、一言応対がほぼできない。
評価項目2	初級レベルの文法構造を理解し、正確に中文和訳と和文中訳ができる。		初級レベルの文法構造を殆ど理解し中文和訳と和文中訳がほぼできる。		初級レベルの文法構造が殆ど理解できず、中文和訳と和文中訳ができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	学習目標 (授業の狙い) (1)初級レベル会話を習得する。 (2)簡単な会話を聞き取れ、一言応対ができる能力を身に付ける。 (3)聞いた単語を漢字とピンインを書ける能力を身に付ける。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習、復習、課題を前提とし、講義を中心に進める。</li> <li>・ 学生の会話の完成度を確認しながら講義を進める。</li> <li>・ 会話の練習、小テストや発表を実施する。</li> </ul> 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。				
注意点	<追認試験の評価方法と評価基準> 評価が60点に満たさない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を50点とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 第1 1 課	・ シラバスの説明 方向補語ができるようになる。	
		2週	第1 1 課	・ 答え合わせ ・ 小テスト	
		3週	第1 1 課 第1 2 課	・ スキット 進行形ができるようになる	
		4週	第1 2 課	・ 会話の練習 ・ 答え合わせ	
		5週	第1 2 課	・ スキット ・ 小テスト	
		6週	第1 3 課	・ 時間表現ができるようになる ・ 答え合わせ	
		7週	口述試験 (スキット)	1回から6回までの講義内容について、口述試験 (スキット) を実施する	
		8週	中間試験	1回から6回までの講義内容について、筆記試験を実施する。	
	4thQ	9週	成績評価・確認	成績確認	
		10週	第1 4 課	・ 会話の練習 ・ 受け身の文が理解できるようにする。	
		11週	第1 4 課	・ スキット・小テスト	
		12週	第1 5 課	・ 比較形の文が理解できるようにする。 ・ 会話の練習	
		13週	第1 5 課	・ 答え合わせ ・ 会話の練習	
		14週	口述試験 (スキット)	10回から13回までの講義内容について口述試験を実施する。	
		15週	期末試験	10回から13回までの講義内容について、筆記試験試験を実施する。	
		16週	成績評価・確認	期末試験の成績確認 試験の答え合わせ	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	70	20	0	0	0	10	100
基礎的能力	70	20	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	環日本海諸国語ⅢB(ロシア語)	
科目基礎情報					
科目番号	0057	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科	対象学年	2		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	"ПОЕХАЛИ!" 1-1, 1-2				
担当教員	山本 有希				
到達目標					
(1)名詞等の格変化を習得する (2)動詞の完了体と不完了体の用法を習得する (3)単位認定には50点以上が必要である					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	名詞格変化、運動の動詞及び動詞の体について、8割以上理解できる。	名詞格変化、運動の動詞及び動詞の体について、6割以上理解できる。	名詞格変化、運動の動詞及び動詞の体における理解度が6割に達しない。		
評価項目2	上記文法事項を活用した作文及び文章読解がスムーズにできる。	上記文法事項を活用した作文及び文章読解ができる。	上記文法事項を活用した作文及び文章読解が満足にできない。		
評価項目3	ペアワークやグループワークにおいて、積極的に表現を考え、発表することが良くできる。	ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができる。	ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1年時に学習した事項を確認しながら、引き続きロシア語学習を進める。				
授業の進め方・方法	教員単独による講義および演習 事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後：授業内容を復習すること。				
注意点	<授業改善策> ・学生の理解度を質問等で確認しながら講義を行うよう努める。 ・評価が50点に満たない者は願い出により追認試験を受験することができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を50点とする <備考> 1)遅刻3回で欠課1時間とする 2)授業計画や評価項目及び評価割合は変更することがある 3)定期試験(中間試験及び期末試験)を70点、その他(発表、課題、小テストなど)を30点として評価する				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	1週	1)ガイダンス 2)第41課 動詞の体(1) 不定形の用法①	1)不完了体と完了体ペアを学習し、書いたり話したりできるようになる。 2)体による表現の違いを理解することができる。		
	2週	第41、47課 動詞の体(1) 不定形の用法②	1)否定詞neと結合する述語副詞を学習し、書いたり読んだりできるようになる。 2)不完了体と結合する述語副詞の用法を理解し、書いたり話したりできるようになる。		
	3週	第48課 命令形と体 第49課 勧誘表現	1)命令形における、体の区別を理解し、書いたり、話したりできるようになる。 2)勧誘表現における、体の区別を理解し、書いたり話したりできるようになる。		
	4週	第42課 動詞の体 過去形 1)反復する行為と1回の行為 2)開始・終了・継続	1)反復行為を示す不完了体と、一回の行為を示す完了体の用法を理解することができる。 2)開始や終了を示す動詞と用いる不完了体の用法を理解することができる。		
	5週	第42課 動詞の体 過去形 1)経験を示す不完了体 2)никогда неの用法	1)経験を示す不完了体の用法を理解し、書いたり話したりできるようになる。 2)никогда неの用法を学習し、書いたり話したりできるようになる。		
	6週	第43課 動詞の体 未来形 1)不完了体未来 2)現在形が示す近未来	1)不完了体の未来形を学習し、書いたり話したりできるようになる。 2)確実な近未来は現在形で示すことを学習し、書いたり話したりできるようになる。		
	7週	第43課 動詞の体 未来形 完了体未来	完了体未来の用法を学習し、書いたり話したりできるようになる。		
	8週	動詞の体 まとめ	動詞の体についての学習事項を整理し、理解度を確認する。自分で足りない点に気が付くことができる。		
	4thQ	9週	中間試験	既習事項の理解度を確認する。	
		10週	中間試験の答案返却及び解答説明	試験問題の解答を示し、解説を行う。	
		11週	第46課 体調表現 1)痛み・感覚の表現 2)病気の表現	痛みや感覚の表現を学習し、書いたり話したりできるようになる。	

	12週	第52課 運動の動詞の派生動詞① идти / пойти, ехать / поехать 出発	1)運動の動詞の派生動詞が形成される規則を学習し、理解することができる。 2)「出発」を示す動詞を学習し、書いたり話したりできるようになる。
	13週	1)派生動詞のKP 2)第52課 運動の動詞の派生動詞② идти / пойти, ехать / поехать 一往復、順路	一往復、行程を示す表現を学習し、書いたり話したりできるようになる。
	14週	第53課 運動の動詞の派生動詞③ 1)接頭辞：в-, вы-, у-, за-, пере-, при-… 2)体のペアの形成	идти/ехатьの代表的な派生動詞を学習し、書いたり話したりできるようになる。
	15週	期末試験	既習事項の理解度を確認する。
	16週	期末試験の答案返却及び解答説明	1)試験問題の解答を示し、解説を行う。 2)春休みの宿題を配布する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	環日本海諸国語ⅢB(中国語)
科目基礎情報					
科目番号	0058		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「中国語さらなる一歩」白水社, 「中国語はじめの一歩」白水社				
担当教員	海老原 毅				
到達目標					
(1) 基礎的な文法を習得する。 (2) 初級レベルの中文和訳, 和文中訳ができる力を習得する。 (3) 簡単な会話を聞き取れ, 一言応対ができる能力を身に付ける。 (4) 聞いた単語を漢字とピンインで書ける能力を身につける。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	初級レベルの文法構造を理解し, 正確に中文和訳と和文中訳ができる。		初級レベルの文法構造を殆ど理解し中文和訳と和文中訳がほぼできる。		初級レベルの文法構造が殆ど理解できなく, 中文和訳と和文中訳ができない。
評価項目2	簡単な会話を聞き取れ, 正確に一言応対ができる。		簡単な会話を聞き取れ, 一言応対がほぼできる。		簡単な会話を聞き取れなく, 一言応対がほぼできない。
評価項目3	聞いた単語を正確に漢字とピンインで書ける。		聞いた単語を漢字とピンインをほぼ書ける。		聞いた単語を漢字とピンインをほぼ書けない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 基礎的な文法を習得する。 (2) 初級レベルの中文和訳, 和文中訳ができる力を習得する。 (3) 簡単な会話を聞き取れ, 一言応対ができる能力を身に付ける。 (4) 聞いた単語を漢字とピンインで書ける能力を身につける。				
授業の進め方・方法	・ 予習, 復習, 課題を前提とし, 講義を中心に進める。 ・ 学生の発音を確認しながら講義を進める。				
注意点	<追認試験の評価方法と評価基準> 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果, 単位の修得が認められた者にとっては, その評価を50点とする。評価方法および評価基準は本試験と同じとする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	第11課	動詞の進行形の文を理解できるようにする。	
		2週	第11課	選択疑問文理解をできるようにする。 練習問題の答え合わせ	
		3週	第11課 第12課	小テスト 比較の文理解をできるようにする。	
		4週	第12課	二つの目的語文を理解できるようにする。 練習問題の答え合わせ	
		5週	第1課	小テスト 助動詞の文を理解できるようにする。	
		6週	第1課	単語, 本文, 文法の学習 練習問題の答え合わせ	
		7週	口述試験	1回から6回までの講義内容について, 口述試験を実施する	
		8週	中間試験	1回から6回までの講義内容について, 筆記試験を実施する。	
	4thQ	9週	成績評価・確認	成績確認	
		10週	第2課	・ 会話の練習 ・ 答え合わせ	
		11週	第2課	小テスト	
		12週	第3課	単語, 本文, 文法の学習	
		13週	第3課	・ 会話の練習 ・ 答え合わせ	
		14週	口述試験	9回から13回までの講義内容について口述試験を実施する。	
		15週	期末試験	9回から13回までの講義内容について, 筆記試験試験を実施する。	
		16週	成績評価・確認	(1) 期末試験の成績確認 (2) 授業評価アンケート	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	口述試験	相互評価	態度	ポートフォリオ
					小テスト
					合計

総合評価割合	70	20	0	0	0	10	100
基礎的能力	70	20	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	総合国語ⅡB
科目基礎情報					
科目番号	0059		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「言語文化」(大修館書店)「論理国語」(数研出版)「文学国語」(数研出版)				
担当教員	久保 陽子				
到達目標					
義務教育レベルの国語力の復習と定着を目指すとともに、論理的文章および文学的文章を根拠に基づき論理的に理解する能力を育てる。古典・漢文を読み理解することで、日本人としての基礎的教養と多様なものの見方を身につける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	古文や漢文をすらすら音読できると同時に、内容についても理解できる。	古文や漢文を音読できると同時に、内容についてもある程度、理解できる。	古文や漢文を音読することができず、内容についても理解できない。		
評価項目2	評論文や文学作品に対する考察が十分にでき、それを自分の言葉できちんと言表できる。	評論文や文学作品に対する考察ができ、それを自分の言葉で表現できる。	評論文や文学作品に対する考察ができず、自分の言葉で表現できない。		
評価項目3	漢字や語句、文学史などの基礎的な知識を身につけている。	漢字や語句、文学史などの基礎的な知識をある程度、身につけている。	漢字や語句、文学史などの基礎的な知識を身につけていない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	論理的文章、文学的文章(現代文・古文・漢文)を扱いながら、より発展的な国語の総合力を養っていく。作品の読解を通して自分の生きる社会や文化について考えを深める。自分の考えを文章にしたり、発表できるようにする。				
授業の進め方・方法	義務教育レベルの漢字については、毎時、小テストを実施し、読み・書きの定着を図る。教科書の内容については基本的には講義形式だが、調べ学習や発表等、受講生から積極的な参加を促したい。 (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。				
注意点	受け身ではなく、積極的に授業に参加してほしい。授業内容については、状況に応じて受講生と相談のうえ変更する可能性もある。 本科目では、50点以上の評価で単位を認定する。評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者には、その評価を50点とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	文学を学ぶ意義について自分の言葉で説明できる。	
		2週	小論文の基礎	適切な文法や語句を用いて文章がかけられる。	
		3週	小論文の構成	基本的な小論文の構成を理解し、それにのっとりて文章を組み立てることができる。	
		4週	小論文の実践1	根拠や具体的な例を挙げながら、自分の考えを書くことができる。	
		5週	小論文の実践2	段落分け、表現、構成を理解し、適切な小論文の形式で文章を書くことができる。	
		6週	小論文模試	これまでの知識の定着を図る。	
		7週	古文を読む1-1 -自然へのまなざし	作品の成立背景や作者について説明できる。全文を音読することができる。	
		8週	古文を読む1-2 -自然へのまなざし	古文の文法や表現を理解し、作品の内容理解を深め、自分の考えをまとめ発表することができる。	
	4thQ	9週	文学を読む1-1 -昭和の文学を読む	作品の成立背景や作者について説明できる。全文を音読することができる。	
		10週	文学を読む1-2 -昭和の文学を読む	構成や表現に注意しながら、作品の前半部の内容を整理し、自分の考えを書いたり発表することができる。	
		11週	文学を読む1-3 -昭和の文学を読む	構成や表現に注意しながら、作品の後半部の内容を整理し、自分の考えを書いたり発表することができる。	
		12週	論理的文章を読む1-1 -言葉・文化・思考	作品の成立背景や作者について説明できる。全文を音読することができる。	
		13週	論理的文章を読む1-2 -言葉・文化・思考	構成や表現に注意しながら、作品の前半部の内容を整理し、要旨を説明できる。	
		14週	論理的文章を読む1-3 -言葉・文化・思考	構成や表現に注意しながら、作品の後半部の内容を整理し、要旨を説明できる。	
		15週	前期期末試験	これまでの知識の定着を図る。	
		16週	答案返却	これまでの復習と定着を図る。自身の学習到達度を知る。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ
				その他	合計

総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	30	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	環日本海諸国語IVB(韓国語)		
科目基礎情報							
科目番号	0060		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	①「GANADA KOREAN 初級2」、カナタ韓国語学院 ② 初級文法プリント						
担当教員	天坂 仁美						
到達目標							
GANADA KOREAN 初級2を終える。 韓国語能力試験2級(初級)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	初級レベルの語彙を習得して基本文章が正確に作成出来る。		初級レベルの語彙を習得して基本文章が殆ど作成出来る。		初級レベルの語彙を習得していないので基本文章を作成出来ない。		
評価項目2	語尾を利用した表現を授業で積極的に発表出来る。		語尾を利用した表現を授業で発表出来る。		語尾を利用した表現を授業で発表出来ない。		
評価項目3	韓国語能力検定試験2級程度である。		韓国語能力検定試験1級程度である。		韓国語能力検定試験1級程度でない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	韓国語能力試験は大韓民国教育部が認定する試験で、1級(初級)から6級までである。2級は、2000語程度の語彙を用いた文章を理解でき、使用できる程度						
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習、韓国のインターネットで韓国を紹介。 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。						
注意点	評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を50点とする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	第9, 10課 過去経験の有無		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		2週	第11, 12課 数量の推測。感嘆する語尾表現		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		3週	第13, 14課 確認を求める		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		4週	第15, 16課 動詞の期間表現		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		5週	第17, 18課 義務		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		6週	第19, 20課 多いと感じる助詞表現。状態・程度の変化		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		7週	まとめ		復習と確認		
		8週	中間試験		前期1週～7週の講義内容を試験する		
	4thQ	9週	第21, 22課 推量、状態の変化。形容詞の副詞化		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		10週	第23, 24課 不規則動詞。動作の途中である表現		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		11週	第25, 26課 能力。許可		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		12週	第27, 28課 心配。お別れの言葉		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		13週	第29, 30課 理由の説明、時間や費用の表現		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		14週	まとめ		復習と確認		
		15週	期末試験		前期9週～14週の講義内容を試験する		
		16週	成績確認		(1)期末試験の成績確認 (2)授業評価アンケートの実施		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題・授業準備	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	70	10	0	0	0	20	100
基礎的能力	70	10	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	環日本海諸国語ⅢB(韓国語)			
科目基礎情報								
科目番号	0061		科目区分	一般/選択				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2				
開設期	後期		週時間数	2				
教科書/教材	①「GANADA KOREAN 初級2」、カナタ韓国語学院 ② 初級文法プリント							
担当教員	天坂 仁美							
到達目標								
GANADA KOREAN 初級2を終える。 韓国語能力試験2級(初級)								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	初級レベルの語彙を習得して基本文章が正確に作成出来る。		初級レベルの語彙を習得して基本文章が殆ど作成出来る。		初級レベルの語彙を習得していないので基本文章を作成出来ない。			
評価項目2	語尾を利用した表現を授業で積極的に発表出来る。		語尾を利用した表現を授業で発表出来る。		語尾を利用した表現を授業で発表出来ない。			
評価項目3	不規則動詞・形容詞の応用が正確に出来る。		不規則動詞・形容詞の応用が殆ど出来る。		不規則動詞・形容詞の応用が出来ない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	韓国語能力試験は大韓民国教育部が認定する試験で、1級(初級)から6級までである。2級は、2000語程度の語彙を用いた文章を理解でき、使用できる程度							
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習、韓国のインターネットで韓国を紹介。 事前に行う準備学習: 前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。							
注意点	評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を50点とする。							
授業の属性・履修上の区分								
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	第9, 10課 過去経験の有無			基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		2週	第11, 12課 数量の推測。感嘆する語尾表現			基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		3週	第13, 14課 確認を求める			基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		4週	第15, 16課 動詞の期間表現			基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		5週	第17, 18課 義務			基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		6週	第19, 20課 多いと感じる助詞表現。状態・程度の変化			基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		7週	まとめ			復習と確認		
	8週	中間試験			前期1週～7週の講義内容を試験する			
	4thQ	9週	第21, 22課 推量、状態の変化。形容詞の副詞化			基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		10週	第23, 24課 不規則動詞。動作の途中である表現			基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		11週	第25, 26課 能力。許可			基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		12週	第27, 28課 心配。お別れの言葉			基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		13週	第29, 30課 理由の説明、時間や費用の表現			基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		14週	まとめ			復習と確認		
		15週	期末試験			前期9週～14週の講義内容を試験する		
16週		成績確認			(1)期末試験の成績確認 (2)授業評価アンケートの実施			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
評価割合								
	試験	課題・授業準備	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計	
総合評価割合	70	10	0	0	0	20	100	
基礎的能力	70	10	0	0	0	20	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	環日本海諸国語IVA(ロシア語)
科目基礎情報					
科目番号	0064	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科	対象学年	2		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	"ПОЕХАЛИ!" 1-1, 1-2				
担当教員	山本 有希				
到達目標					
(1)名詞等の格変化を習得する (2)動詞の完了体と不完了体の用法を習得する (3)単位認定には50点以上が必要である					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	名詞格変化、運動の動詞及び動詞の体について、8割以上理解できる。	名詞格変化、運動の動詞及び動詞の体について、6割以上理解できる。	名詞格変化、運動の動詞及び動詞の体における理解度が6割に達しない。		
評価項目2	上記文法事項を活用した口頭表現・聴解がスムーズにできる。	上記文法事項を活用した口頭表現・聴解ができる。	上記文法事項を活用した口頭表現・聴解が満足にできない。		
評価項目3	ペアワークやグループワークにおいて、積極的に表現を考え、発表することが良くできる。	ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができる。	ペアワークやグループワークで協力して表現を考え、発表することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	1年時に学習した事項を確認しながら、引き続きロシア語学習を進める。				
授業の進め方・方法	<p>教員単独による講義および演習          事前に行う準備学習：講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。          授業外学習・事前：授業内容を予習しておくこと。          授業外学習・事後：授業内容を復習すること。</p>				
注意点	<p>&lt;授業改善策&gt;          ・学生の理解度を質問等で確認しながら講義を行うよう努める。          ・評価が50点に満たない者は願い出により追認試験を受験することができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者には、その評価を50点とする。</p> <p>&lt;備考&gt;          1)授業計画や評価項目及び評価割合は変更することがある          2)定期試験(中間試験及び期末試験)を70点、その他(発表、課題、小テストなど)を30点として評価する。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1)オリエンテーション 2)第31課	1)オリエンテーション 2)1年次の学習事項の確認 3)CЯ動詞を学習し、話したり書いたりできるようになる	
		2週	第31課	CЯ動詞の人称変化を理解し、表現を用いることができる	
		3週	第32課	生格の用法を理解し、所有表現及び否定生格表現を用いることができる。	
		4週	第33、37課	数と名詞生格の結合を理解し、数量をめぐる表現を持ちいることができる。	
		5週	第34課	生格を用いた所有表現を理解し、所有関係を表現できる。	
		6週	第35課	運動の動詞(飛ぶ、泳ぐ、走る)の変化形を覚え、移動の様子を表現できる。 生格を用いて、出所や起点を表現することができる。	
		7週	第39課	男性名詞における活動体と不活動体の概念を理解し、活動体を目的語とした表現ができる。	
		8週	第37、38課	生格を用いた年月日の表現を理解し、年代表現ができるようになる。	
	2ndQ	9週	中間試験	既習事項を確認する	
		10週	1)試験返却及び解説 2)第40課①	男性名詞における活動体と不活動体の概念を理解し、活動体を目的語とした表現ができる。	
		11週	第40課②	形容詞比較級の作り方を理解し、比較表現ができる。	
		12週	第40課	形容詞比較級の作り方を理解し、比較表現ができる。	
		13週	第41課	動詞の体の概念を理解する。完了体と不完了体のペアを覚える。	
		14週	第41課	不完了体・完了体の不定形を用いた表現ができる。	
		15週	期末試験	既習事項の確認を行う	

		16週	成績確認	成績評価の確認を行う			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	環日本海諸国語IVA(韓国語)		
科目基礎情報							
科目番号	0065		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	①「GANADA KOREAN 初級1、2」、カナタ韓国語学院 ② 初級文法プリント						
担当教員	天坂 仁美						
到達目標							
GANADA KOREAN 初級1を終えて初級2を8課分終える。 韓国語能力試験2級(初級)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	初級レベルの語彙を習得して基本文章が正確に作成出来る。		初級レベルの語彙を習得して基本文章が殆ど作成出来る。		初級レベルの語彙を習得していないので基本文章を作成出来ない。		
評価項目2	語尾を利用した表現を授業で積極的に発表出来る。		語尾を利用した表現を授業で発表出来る。		語尾を利用した表現を授業で発表出来ない。		
評価項目3	韓国語能力検定試験2級程度である。		韓国語能力検定試験1級程度である。		韓国語能力検定試験1級程度でない。		
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 3							
教育方法等							
概要	韓国語能力試験は大韓民国教育部が認定する試験で、1級(初級)から6級までである。2級は、2000語程度の語彙を用いた文章を理解でき、使用できる程度						
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習、韓国のインターネットで韓国を紹介。 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。						
注意点	評価が50点に満たない者は、願出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を50点とする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 初級文法の整理		シラバスの説明 基本文、練習、聞き取り、読みの理解 連結語尾、終結語尾のまとめ		
		2週	第21, 22課 非格式的表現、提案の表現		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		3週	第23, 24課 予定・計画・希望の表現、動作の進行形		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		4週	第25, 26課 可能かを聞く表現、不可能な事情の説明		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		5週	第27, 28課 贈呈、交通手段		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		6週	第29, 30課 条件、仮定		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		7週	まとめ		復習と確認		
		8週	中間試験		前期1週～7週の講義内容を試験する		
	2ndQ	9週	第1課 安否を尋ねる		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		10週	第2課 理由・不可能の表現		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		11週	第3, 4課 勧誘形の疑問文、相手の意思を尋ねる		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		12週	第5, 6課 理由、動詞の連体形		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		13週	第7, 8課 動詞の持続、経験してみる		基本文、練習、聞き取り、読みの理解		
		14週	まとめ		復習と確認		
		15週	期末試験		前期9週～14週の講義内容を試験する		
		16週	成績確認		(1) 期末試験の成績確認 (2) 授業評価アンケートの実施		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題・授業準備	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	70	10	0	0	0	20	100

基礎的能力	70	10	0	0	0	20	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	理科ⅡA
科目基礎情報					
科目番号	0066		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	科学と人間生活(実教出版), アクセスノート 科学と人間生活(実教出版)				
担当教員	寺崎 由紀子				
到達目標					
1. 自然と人間生活との関わりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解する。 2. 身近な現象・事象に冠する観察・実験などを通して、科学技術の発展と人間生活との関わりについて理解を深める。 3. 科学の基本的な概念や原理・法則を学び、科学的な見方や考え方を養う。 4. 科学に対する興味・関心を高める。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
食品と衣類	食品に含まれる栄養素について、はたらきや性質を理解し、説明することができる。また、繊維を分類し、それらの性質と用途を関連付けて説明することができる。		食品に含まれる栄養素について、はたらきや性質を理解している。また、さまざまな繊維をあげることができ、それらの性質理解している。		食品に含まれる栄養素についてあげることができる。また、さまざまな繊維をあげることができる。
材料とその再利用	金属、プラスチック、セラミックスについて、身の回りのどこで利用されているかを把握し、それぞれの性質や特徴を説明することができる。また、それらのリサイクル、リユースについて資源やエネルギーの観点から説明することができる。		金属、プラスチック、セラミックスについて、身の回りのどこで利用されているかを把握し、それぞれの性質や特徴を理解している。リサイクル・リユースについて身近な例と関連付けて理解している。		金属、プラスチック、セラミックスについて、身の回りのどこで利用されているかをあげることができる。性質や特徴を挙げることができる。リサイクル・リユースについての知識が曖昧である。
太陽と地球	太陽と太陽系を構成する天体について、それぞれの特徴を説明することができる。また、太陽や月が地球に及ぼす影響について具体例をあげて説明することができる。		太陽と太陽系を構成する天体の特徴を理解している。また、地球と太陽や月との関わりについて理解している。		太陽系を構成する天体についての知識が曖昧である。また、地球・太陽・月の関わりについての理解が不十分である。
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
授業の進め方・方法	教員単独による講義、演習、実験を行う。 学生の理解度により、授業計画を変更することがある。 授業外学習・事前： 授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後： 復習を兼ねて課題に取り組むこと。				
注意点	評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を50点とする。 内容の定着のため、小テスト、課題プリント(宿題)などを課す。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
必履修					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 科学と技術の発展		シラバスに基づき、授業の方針や計画等について説明をする。 日常生活においていろいろなところで科学が果たしている役割を理解できる。
		2週	食品の科学		生きていく上で必要な主な栄養素の種類とはたらきを理解する。また、酵素について、そのはたらきを知る。
		3週	衣類の科学		さまざまな繊維を分類することができる。また、それぞれの繊維の構成や性質を理解する。
		4週	金属 プラスチック		金属・プラスチックの性質や特徴、日常生活での主な用途を理解する。また、金属の腐食のしくみと防止する方法について理解する。
		5週	セラミックス リサイクル・リユース		セラミックスの性質や特徴、日常生活での用途を理解する。また、金属やプラスチック、ガラスのリサイクルやリユースの意義について理解し、実際の生活にどのように生かされているかを知る。
		6週	太陽		太陽の構造を説明できる。また、太陽から放出される光や電磁波が地球に及ぼす影響を理解する。太陽と月の動きについて説明できる。
		7週	太陽系		太陽系の構造と太陽系に属する天体の特徴を理解する。
		8週	中間試験		食品、繊維、材料について基本的な性質や特徴を理解しているかどうかを確認する。
	2ndQ	9週	試験の解答・解説 太陽放射		太陽から放出されるエネルギーについて説明できる。

	10週	地球のエネルギーの収支 大気と海洋の循環	太陽から地球が受け取る熱と放出する熱の収支について理解する。また、太陽からの熱が風に影響を与え、大気の循環や海水の循環につながっていくことを理解する。
	11週	気象・気候	大気と海洋の循環による気象現象、気候について説明できる
	12週	地球の構造	地球の構造について説明できる。また、プレートテクトニクスについて説明できる。
	13週	火山	火山活動のしくみ、火山の形・噴火の様子の違いについて説明できる。
	14週	地震	地震活動のしくみ、地震の規模について説明できる。地震によって起こる津波について説明できる。また、地震による災害について理解を深める。
	15週	期末試験	太陽と太陽系について構造と特徴を理解しているか確認する。また、地球で起こっている現象を理解しているか確認する。
	16週	成績評価・確認	期末試験の成績確認 授業評価アンケート

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

### 評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	理科ⅡB
科目基礎情報				
科目番号	0068	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科	対象学年	2	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	科学と人間生活(実教出版), アクセスノート 科学と人間生活(実教出版)			
担当教員	寺崎 由紀子			

### 到達目標

1. 自然と人間生活との関わりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解する。
2. 身近な現象・事象に冠する観察・実験などを通して、科学技術の発展と人間生活との関わりについて理解を深める。
3. 科学の基本的な概念や原理・法則を学び、科学的な見方や考え方を養う。
4. 科学に対する興味・関心を高める。

### ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
火山, 地震	火山の噴火, 地震が起こるしくみについて説明することができる。また, それらによって生じる災害について, 防災・減災の視点を含めて理解している。	火山の噴火, 地震が起こるしくみについて理解している。また, それらによって生じる災害について, 防災・減災の視点を含めて知っている。	火山の噴火, 地震が起こるしくみについて聞いたことがある。また, それらによって生じる災害について知ってはいるが, 防災・減災の視点は無い。
自然景観と自然災害	地球上で見られるさまざまな自然景観の成り立ちや自然現象を説明することができる。また, 多くの自然災害, 防災・減災への取り組みを具体例を挙げて説明できる。	自然景観の成り立ちや自然現象を理解している。また, さまざまな自然災害の具体例をあげることができる。防災・減災についてどのように取り組んでいるかを知っている。	自然景観の成り立ちや自然現象に興味・関心がない。また, 自然災害と人間生活との関わりについて考えることがない。
熱	熱の移動, 種々のエネルギーと熱の関係, エネルギーの変換について説明することができる。	熱の移動, 種々のエネルギーと熱の関係, エネルギーの変換について理解している。	暮らしの中で利用する熱についてあまり知らない。エネルギーの利用についてもあまり興味を持っていない。
微生物	身のまわりに存在するさまざまな微生物について理解している。また, 発酵と腐敗の違いや医療への微生物の応用などについて説明できる。生態系の中での微生物の役割について説明できる。	身のまわりにはさまざまな微生物が存在していることを理解している。また, 発酵と腐敗の現象を理解し, 医療の分野でも利用されていることを理解している。生態系の中での微生物の役割について理解している。	身のまわりにはさまざまな微生物が存在し, 人間生活にいろいろと関わっていることをあまり知らない。生態系の中に微生物がいることは知っているが, そのほたらきは知らない。

### 学科の到達目標項目との関係

#### 教育方法等

概要	自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め, 理科の見方・考え方を働かせ, 科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め, 科学的な自然観を育成する。
授業の進め方・方法	教員単独による講義, 演習を行う。 学生の理解度により, 授業計画を変更することがある。 授業外学習・事前: 授業内容を予習しておくこと。 授業外学習・事後: 復習を兼ねて課題に取り組むこと。
注意点	内容の定着のため, 小テスト, 課題(宿題)などを課す。これらは提出物点として評価する。 実験や視聴覚教材を取り入れることがある。 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認試験を受けることができる。 追認試験を受けるにあたって課題を課すことがある。 課題への取り組みが教員の求める水準に到達していない場合は追認試験の受験を認めない。 追認試験の結果, 単位の修得が認められた者には, その評価を50点とする。

#### 授業の属性・履修上の区分

<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用	<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
必履修			

#### 授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
後期 3rdQ	1週	火山	火山活動のしくみ, 火山の形・噴火の様子の違いについて説明できる。また, 火山の噴火による災害について理解を深める。
	2週	地震	地震活動のしくみ, 地震の規模について説明できる。地震によって起こる津波について説明できる。また, 地震による災害について理解を深める。
	3週	自然景観	身の回りの景観がどのように形成されたかを知る。
	4週	自然災害と防災・減災	地震, 火山, 気象災害が生じるしくみを理解する。また, 防災・減災にどのように取り組んでいるかを知る。
	5週	微生物 1	身のまわりにはいる無数の微生物について, 発見の歴史や, 構造の違いなどを理解する。
	6週	微生物 2	生態系における微生物のほたらきを知る。また, 人間生活における微生物の関わりを知る。
	7週	微生物 3	普段食べている食品において, さまざまな微生物を利用していることを知る。また, 医療の分野でも微生物が活躍していることを学習する。
	8週	中間試験	地球上で怒っているいろいろな自然現象, 多くの自然災害についての理解と防災・減災についての知識を確認する。

4thQ	9週	中間試験の解答	中間試験の答案を返却し、解答・解説することで、今までの復習と理解できていなかったことを確認する。
	10週	熱 1	粒子の熱運動について学習する。その後、熱と温度について学ぶ。熱が関係するいろいろな現象について理解を深める。
	11週	熱 2	熱量・熱容量・比熱および熱量保存の法則について学び、生活との関連をつけて理解を深める。
	12週	熱 3	熱エネルギーと他のエネルギーとの間の変換について理解する。
	13週	これからの科学と人間生活1	私たちの日常生活が科学技術の恩恵を受けていることを知り、あふれる情報の中から正しい情報を得るためには、科学的リテラシーが大事なることを理解する。
	14週	これからの科学と人間生活2	環境問題などの具体例を挙げて、科学技術と人間生活の関わりを説明できる。
	15週	期末試験	微生物の特徴、身の回りへの利用についての理解を確認する。熱についての基本的事項を確認する。
	16週	成績評価・確認	期末試験の成績確認 授業評価アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	数学ⅡA
科目基礎情報					
科目番号	0069		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	新基礎数学 改訂版 大日本図書, 新基礎数学 問題集 改訂版 大日本図書, 新課程 練習ドリル 数学Ⅰ 標準編 数研出版, 新課程 練習ドリル 数学Ⅱ 標準編 数研出版				
担当教員	櫻井 秀人, 新夕 義典				
到達目標					
初等関数 (分数関数, 無理関数, 指数関数, 対数関数) の概念を理解し, それぞれの性質を用いて基本的な問題を解くことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	指数関数の性質を理解し, 基本的な指数方程式・不等式を解くことができる。	指数法則を用いて計算することができる。指数関数のグラフを書くことができる。	指数法則を用いた計算ができない。		
評価項目2	対数関数の性質を理解し, 基本的な対数方程式・不等式を解くことができる。	対数の法則を用いて計算することができる。対数関数のグラフを書くことができる。	対数の法則を用いた計算ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 3					
教育方法等					
概要	まず, 関数のグラフの移動について講義する。それを踏まえ, 1次分数関数, 基本的な無理関数, 指数関数, 対数関数について講義する。				
授業の進め方・方法	教員単独による講義と演習 事前に行う準備学習: 前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題を解く。				
注意点	本科目では, 50点以上の評価で単位を認定する。 評価が50点に満たない者は, 願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果, 単位の修得が認められた者には, その評価を50点とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス べき関数	べき関数のグラフの特徴について学ぶ。偶関数, 奇関数について学ぶ。グラフの平行移動について復習する。	
		2週	分数関数	分母, 分子が1次式である基本的な分数関数のグラフを学ぶ。グラフの漸近線について学ぶ。関連する基本的な問題を解くことができる。	
		3週	無理関数	無理関数のグラフの特徴について学ぶ。グラフの対称移動について学ぶ。関連する基本的な問題を解くことができる。	
		4週	逆関数	逆関数について学ぶ。	
		5週	累乗根	べき関数のグラフを用いて累乗根の定義, 存在, 性質について学習する。関連する基本的な問題を解くことができる。	
		6週	指数の拡張	指数を整数および有理数の場合に拡張し, その計算法 (指数法則) を学ぶ。関連する基本的な問題を解くことができる。	
		7週	指数関数	指数関数のグラフを学び, 指数関数の性質・特徴を理解する。関連する基本的な問題を解くことができる。	
		8週	中間試験	1週から7週までの講義内容について, 中間試験を実施する。	
	2ndQ	9週	指数関数と方程式・不等式	指数関数の性質を理解し, 指数を用いた方程式・不等式の解法を学ぶ。基本的な問題を解くことができる。	
		10週	対数	対数を定義し, 真数, 対数の性質について学習する。関連する基本的な問題を解くことができる。	
		11週	底の変換公式 対数関数	底の変換公式について学び, 関連する基本的な問題を解くことができる。 対数関数について学ぶ。	
		12週	対数関数	対数関数のグラフを学び, 対数関数の性質・特徴を理解する。関連する基本的な問題を解くことができる。	
		13週	対数を用いた方程式・不等式	対数 (関数) の性質を理解し, 対数を用いた方程式・不等式の解法を学ぶ。基本的な問題を解くことができる。	
		14週	常用対数	常用対数とその応用について学ぶ。関連する基本的な問題を解くことができる。	
		15週	期末試験	9週から15週までの講義内容について, 期末試験を実施する。	

		16週	まとめ 成績評価・確認	14回までに学んだ様々な関数について復習する。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	物流概論Ⅱ Ⅱ			
科目基礎情報								
科目番号	0038		科目区分	専門 / 必修				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2				
開設期	後期		週時間数	2				
教科書/教材								
担当教員	村山 雅子							
到達目標								
物流が注目された背景や現状、問題点を学習する。 現代社会における物流の役割、機能と今後の課題について理解する。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	物流システムについて事例を挙げて説明できる。		物流システムの事例を挙げ、概略について説明できる。		物流システムの事例を挙げるができない。			
評価項目2	物流システムの問題点について事例を挙げて説明できる。		物流システムの問題点について事例を挙げるができる。		物流システムの問題点について事例を挙げるができない。			
評価項目3	物流システムの今後の課題について事例を挙げて説明できる。		物流システムの今後の課題について事例を挙げるができる。		物流システムの今後の課題について事例を挙げるができない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	講義形式で行う							
授業の進め方・方法	当科目では、ノート作成の際に、板書に加えて講義中に説明した内容を学生が各自記述することにより、理解をすすめていくことを促す。 事前に行う準備学習：前回の講義の復習を行ってから授業に臨むこと							
注意点	評価が50点に満たないものは、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者には、その評価を50点とする。評価方法及び評価基準は、本試験と同じとする。							
授業の属性・履修上の区分								
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
		週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	海上輸送の機能と役割	海上貨物輸送の機能と役割について説明できる。				
		2週	海上輸送の機能と役割②	港湾の機能と役割について説明できる。				
		3週	海上輸送の機能と役割③	港湾施設と設備について説明できる。				
		4週	航空輸送	空港の機能と役割について説明できる。				
		5週	航空輸送②	航空貨物輸送の形態としくみについて説明できる。				
		6週	航空輸送③	航空貨物輸送の経済性について説明できる。				
		7週	倉庫の役割	倉庫の役割と機能について説明できる。				
		8週	倉庫の役割②	倉庫の役割と機能について説明できる。				
	4thQ	9週	中間試験	16回から23回の既習範囲について試験を行う				
		10週	物流センターの役割	物流センターの仕組みと活動について説明できる。				
		11週	倉庫内業務	物流センターにおける業務 倉庫内業務と課題について説明できる。				
		12週	企業物流	企業における物流の役割について説明できる。				
		13週	SCM (サプライチェーンマネジメント)	SCMの特徴について説明できる。				
		14週	物流とマーケティングの関わり	物流・ロジスティクス・SCM・マーケティングの関わりについて説明できる。				
		15週	期末試験	既習範囲について試験を行う。				
		16週	成績確認	期末試験の成績を確認する				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100	
基礎的能力	30	0	0	0	0	5	35	
専門的能力	40	0	0	0	0	10	50	
分野横断的能力	10	0	0	0	0	5	15	

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	会計学概論 I
科目基礎情報					
科目番号	0039		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	<p>滝澤ななみ著『スッキリわかる日商簿記3級』TAC出版。 ほか、教員が配布する資料等。</p> <p>なお、家庭学習用に指示する可能性のある「【スタディサプリ】講座選択&gt;資格対策講座&gt;簿記対策講座&gt;日商簿記3級対策講座」を参照できる環境を整えておくこと (BYOD)。 スタサブ講座のテキスト資料は各動画の下の方からDLできます。</p>				
担当教員	塩見 浩介				
到達目標					
1. 会計史について、十分に理解できる。 2. 会計史に関連した企業やお金の歴史について、十分に理解できる。 3. 日商簿記3級の前半部分の内容について、十分に理解ができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	会計史について、十分に理解できる。	会計史について、理解できる。	会計史について、理解が不十分である。		
評価項目2	会計史に関連した企業やお金の歴史について、十分に理解できる。	会計史に関連した企業やお金の歴史について、理解できる。	会計史に関連した企業やお金の歴史について、理解が不十分である。		
評価項目3	日商簿記3級の前半部分の内容について、十分に理解できる。	日商簿記3級の前半部分の内容について、理解できる。	日商簿記3級の前半部分の内容について、理解が不十分である。		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー 1					
教育方法等					
概要	本講義では、会計を価値の流れ(動き)と捉え、価値の移動の歴史などについて学習する。 価値の動きは国外にも及ぶため、日本と海外、双方の価値の歴史についても学ぶ。 また、現代の実務的な会計処理システムの資格として、初歩的なものとなる日商簿記3級についても学習する。				
授業の進め方・方法	授業時間の前半は会計や価値・お金の歴史等に関する講義を行う。 後半は日商簿記3級のテキストの説明・演習を行う(スタサブ併用予定)。 事前に行う準備学習: 前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 (授業外学習・事前) 授業内容を予習(進む予定の箇所のテキストを読み、理解しにくい点を明らかにしておく)。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題(ワークによる演習やレポート作成による振り返り)。				
注意点	評価が50点に満たないものは、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を50点とする。評価方法及び評価基準は、本試験と同じとする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	オリエンテーション	シラバス、授業内容、評価方法等についての説明を行う。	
		2週	会計・価値・お金の歴史と基本的機能 I	価値をもとにしたお金の歴史とその機能について学習する。	
		3週	会計・価値・お金の歴史と基本的機能 II	価値をもとにしたお金の歴史とその機能について学習する。	
		4週	会計・価値・お金の歴史と基本的機能 III	価値をもとにしたお金の歴史とその機能について学習する。	
		5週	会計・価値・お金の歴史と基本的機能 IV	価値をもとにしたお金の歴史とその機能について学習する。	
		6週	会計・価値・お金の歴史と基本的機能 V	価値をもとにしたお金の歴史とその機能について学習する。	
		7週	政府と中央銀行 I	通貨発行権とお金の動きについて学習する。	
	8週	中間試験	中間試験は実施しません。		
	2ndQ	9週	政府と中央銀行 II	通貨発行権とお金の動きについて学習する。	
		10週	政府と中央銀行 III	通貨発行権とお金の動きについて学習する。	
		11週	政府と中央銀行 IV	通貨発行権とお金の動きについて学習する。	
		12週	政府と中央銀行 V	通貨発行権とお金の動きについて学習する。	
		13週	政府と中央銀行 VI	通貨発行権とお金の動きについて学習する。	
		14週	まとめ	これまでの授業のまとめを行う。	
		15週	期末試験	期末試験を実施する。	
16週		期末試験結果の返却	期末試験の結果を返却する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	75	0	0	0	0	25	100
基礎的能力	75	0	0	0	0	25	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	会計学概論 II		
科目基礎情報							
科目番号	0040	科目区分	専門 / 必修				
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	国際ビジネス学科	対象学年	2				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	滝澤ななみ著『スッキリわかる日商簿記3級』TAC出版。 ほか、教員が配布する資料等。 会計学概論 I と同様に、家庭学習用に指示する可能性のある「【スタディサプリ】講座選択> 資格対策講座> 簿記対策講座> 日商簿記3級対策講座」を参照できる環境を整えておくこと (BYOD)。 スタサブ講座のテキスト資料は各動画の下の方からDLできます。						
担当教員	塩見 浩介						
到達目標							
1. 経営資源と資源戦略について、十分に理解できる。 2. M&Aとその関連する内容について、十分に理解できる。 3. 日商簿記3級の後半部分の内容について、十分に理解ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	経営資源と資源戦略について、十分に理解できる。	経営資源と資源戦略について、理解できる。	経営資源と資源戦略について、理解できない。				
評価項目2	M&Aとその関連する内容について、十分に理解できる。	M&Aとその関連する内容について、理解できる。	M&Aとその関連する内容について、理解できない。				
評価項目3	日商簿記3級の後半部分の内容について、十分に理解できる。	日商簿記3級の後半部分の内容について、理解できる。	日商簿記3級の後半部分の内容について、理解できない。				
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 1							
教育方法等							
概要	本講義では、会計学概論 I で学習したことを背景に、経営資源・企業価値の理解、資源戦略、M&A戦略など、発展的な内容について学習を行う。						
授業の進め方・方法	授業時間の前半は経営資源や企業価値、資源戦略やM&Aなどに関する講義を行う。 後半は日商簿記3級のテキストの説明・演習を行う (スタサブ併用予定)。 事前に行う準備学習: 前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 (授業外学習・事前) 授業内容を予習 (進む予定の箇所のテキストを読み、理解しにくい点を明らかにしておく)。 (授業外学習・事後) 授業内容に関する課題(ワークによる演習とレポート作成による振り返り)。						
注意点	評価が50点に満たないものは、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を50点とする。評価方法及び評価基準は、本試験と同じとする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	シラバス、授業内容、評価方法等についての説明を行う。			
		2週	経営資源と企業 I	株式会社というシステムの成立とこれまでの歴史について学習する。			
		3週	経営資源と企業 II	株式会社の設立方法 (登記) や株式の取り扱いについて学習する。			
		4週	経営資源と企業 III	企業における経営資源について学習する。			
		5週	M&Aへの導き~資源戦略とPPM~①	経営資源の特性・特徴について学習する。			
		6週	M&Aへの導き~資源戦略とPPM~②	経営資源の蓄積と獲得について学習する。			
		7週	M&Aへの導き~資源戦略とPPM~③	経営資源の資源展開戦略について学習する。			
		8週	中間試験	中間試験は実施しません。			
	4thQ	9週	M&Aの基本概念 I	M&Aの基本概念について学習する。			
		10週	M&Aの基本概念 II	M&Aの基本概念について学習する。			
		11週	M&A戦略と企業価値 I	株式の売買等における基本的なルールと企業買収について学習する。			
		12週	M&A戦略と企業価値 II	企業買収方法等について、実際の事例を用いて学習する。			
		13週	M&A戦略と企業価値 III	企業買収防衛方法等について、実際の事例を用いて学習する。			
		14週	まとめ	これまでの授業のまとめを行う。			
		15週	期末試験	期末試験			
		16週	期末試験結果の返却	期末試験の結果を返却する。			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	75	0	0	0	0	25	100

基礎的能力	75	0	0	0	0	25	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	経済学概論 I Ⅱ		
科目基礎情報							
科目番号	0041		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	授業でプリントを配布する。【教科書】特になし / 【関連図書】ミクロ経済学に関する入門レベルのテキスト						
担当教員	邢 雪歌						
到達目標							
①経済学における基本原理や基礎知識を学ぶ。 ②経済及び産業について理論的に見る目を養う。 ③経済社会について分析能力を身に付ける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
経済学の考え方や経済学に関する基礎知識を学ぶ	経済主体の動きを理解するための基本的な経済指標、基本原理について理解する		経済主体の動きと関連した経済理論と統計情報などについて理解できる		基礎的経済変数の意味が理解できない		
経済及び産業について理論的に見る目を養う。	国民経済及び産業の関連指標・制度の変化に伴う経済状態の変化について理解できる		国民経済仕組みと経済変数間の相互作用について理解できる		基本的な経済変数間の関係が理解できない		
経済社会について分析能力を身に付ける。	経済変数の変化が経済全体にどのような変化をもたらすかについて、様々なモデルを通して分析できる		様々なモデルを理解し、それを通じて経済社会の様々な繋がりを知る		基本的な経済変数間の繋がりとその意味が理解できない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	学習目標(授業の狙い) 個々の経済主体の行動に関するミクロ経済学の基礎理論を学び、現実の経済・産業の現象を理解するための基礎知識を習得する。						
授業の進め方・方法	講義 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容を復習し、重要事項をノート等にまとめる。						
注意点	授業計画は、学生の理解度に応じて変更する場合がある。 本科目では50点以上の評価で単位を認定する。評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。また、未履修の場合には追認試験をうけることができない。追認試験の結果、単位の修得が認められた者に対してはその評価を50点とする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	経済学の基本原理	経済学の考え方・分析方法について説明			
		2週	経済体制 1	市場と政府の役割などについて説明			
		3週	経済体制2	市場と政府の役割などについて説明			
		4週	市場と競争	市場形態・市場競争など説明			
		5週	消費者理論1	消費者行動の理論的説明			
		6週	消費者理論2	消費者行動の理論的説明			
		7週	生産者理論1	生産者行動の理論的説明			
		8週	生産者理論2	生産者行動の理論的説明			
	2ndQ	9週	中間試験				
		10週	市場理論	市場価格がどのように決まるかを説明			
		11週	弾力性分析1	需要・供給弾力性の概念及びその応用について説明			
		12週	弾力性分析2	需要・供給弾力性の概念及びその応用について説明			
		13週	消費者・生産者余剰	消費者・生産者余剰の求め方及び経済問題への応用について説明			
		14週	消費者・生産者余剰	消費者・生産者余剰の求め方及び経済問題への応用について説明			
		15週	復習とまとめ				
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	経済学概論Ⅱ Ⅱ		
科目基礎情報							
科目番号	0042		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	授業中にプリントを配布する。【教科書】特になし / 【関連図書】マクロ経済学に関する入門レベルのテキスト						
担当教員	邢 雪歌						
到達目標							
①経済の動きを理論的に見る目を養う ②経済の動きについて理論的に考える力を養う ③経済社会は様々な繋がりによって成り立っていることを知る							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
経済の動きを理論的に見る目を養う	モデルを使って現実の問題に対処する方法を知る		経済理論モデルを理解し、その経済の意味を知る		基礎的経済変数の意味が理解できない		
経済の動きについて理論的に考える力を養う	経済変数の変化に伴う経済状態の変化をモデル分析できる		経済モデルの意味を理解する		基本的な経済変数間の関係が理解できない		
経済社会は様々な繋がりにより成り立っていることを知る	経済変数の変化が経済全体にどのような変化をもたらすかについて、様々なモデルを通して分析できる		様々な経済モデルを理解し、それを通して経済社会の様々な繋がりを知る		基本的な経済変数間の繋がりが理解できない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	学習目標(授業の狙い) 一国経済全体の動きに関するマクロ経済学の基礎理論を学び、現実の経済現象を理解するための基礎知識を習得する。						
授業の進め方・方法	講義 事前に行う準備学習：前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておく。 (授業外学習・事後) 授業内容を復習し、重要事項をノート等にまとめる。						
注意点	授業計画は、学生の理解度に応じて変更する場合がある。 本科目では50点以上の評価で単位を認定する。評価が50点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。また、未履修の場合には追認試験を受けることができない。追認試験の結果、単位の修得が認められた者に対してはその評価を50点とする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	マクロ経済学とは	マクロ経済学とはどのような学問かを説明			
		2週	国民経済計算 その1	GDP(国内総生産)、消費、投資などの説明			
		3週	国民経済計算 その2	GDP(国内総生産)、消費、投資などの説明			
		4週	国民経済計算 その3	GDP(国内総生産)、消費、投資などの説明			
		5週	消費と貯蓄 1	消費と貯蓄はどのように決まるかを説明			
		6週	消費と貯蓄 2	消費と貯蓄はどのように決まるかを説明			
		7週	需要誘導型モデル 1	GDPはどのように決まるかを説明			
		8週	需要誘導型モデル 2	GDPはどのように決まるかを説明			
	4thQ	9週	中間試験				
		10週	生計費の測定 1	消費者物価指数はどのように計算されるのかについて説明			
		11週	生計費の測定 2	インフレーションとその影響について説明			
		12週	貨幣需要 1	貨幣の役割とその需給の説明			
		13週	貨幣需要 2	貨幣の役割とその需給の説明			
		14週	開放マクロ経済学 1	開放マクロ経済学における基礎知識について説明			
		15週	開放マクロ経済学 2	国際取引における為替レートの影響について説明			
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	情報基礎Ⅲ		
科目基礎情報							
科目番号	0043		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	ITパスポート 合格教本						
担当教員	萩原 信吾						
到達目標							
1) 情報システムの基本的な用語を説明できる。 2) 情報システムの基本的な仕組みを説明できる。 3) 情報社会における基本的な知識を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	専門的な情報用語について説明できる。	基本的な情報用語について説明できる。	基本的な情報用語を説明できない。				
評価項目2	専門的な情報システムについて説明できる。	基本的な情報システムについて説明できる。	基本的な情報システムを説明できない。				
評価項目3	情報社会において必要な知識を活用することができる。	情報社会において基本的に必要となる知識を説明できる。	情報社会において基本的に必要となる知識を説明できない。				
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 1							
教育方法等							
概要	エンドユーザーとしてコンピュータを活用する知識を身につけることを目標とする。本講義は、情報基礎I・情報基礎IIで修得した基礎知識を活用する。また講義内容は、文部省後援の公的資格である「情報処理活用能力試験情報処理活用1級」に対応する。						
授業の進め方・方法	講義による説明と演習による形式で行う。 なお事前に行う準備学習として、以下の前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておくこと (授業外学習・事後) 授業内容の復習を行うこと						
注意点	評価が50点に満たない者は、願い出により追認のための課題を受けることができる。追認課題の結果、単位の修得が認められた者には、その評価を50点とする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス	シラバスの概説			
		2週	コンピューターの種類及び動作原理	コンピューターの種類と動作原理 周辺機器の種類と役割 パソコンの利用環境、及び環境設定			
		3週	コンピューターの種類及び動作原理	演習			
		4週	オペレーティングシステム	オペレーティングシステムの役割 ファイルシステムの基礎知識			
		5週	オペレーティングシステム	演習			
		6週	パソコン関連機器とインターフェース	パソコン関連機器の種類と役割 ヒューマンインターフェース			
		7週	パソコン関連機器とインターフェース	主記憶装置と補助記憶装置			
		8週	パソコン関連機器とインターフェース	演習			
	2ndQ	9週	インターネットの基礎	インターネットのサービス インターネットへの接続			
		10週	インターネットの基礎	プロトコルとOSI基本参照モデル IPアドレス			
		11週	インターネットの基礎	演習			
		12週	インターネットの基礎	インターネット技術の応用 WWWの利用			
		13週	インターネットの基礎	WWWコンテンツの作成とWeb技術			
		14週	インターネットの基礎	演習			
		15週	期末試験	学習内容の確認を行う。			
		16週	成績評価・確認	講義のまとめと成績の確認を行う。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	40	0	0	0	0	80
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	情報基礎IV		
科目基礎情報							
科目番号	0044	科目区分	専門 / 選択				
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	国際ビジネス学科	対象学年	2				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	ITパスポート 合格教本						
担当教員	萩原 信吾						
到達目標							
1) 情報システムの基本的な用語を説明できる。 2) 情報システムの基本的な仕組みを説明できる。 3) 情報社会における基本的な知識を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	専門的な情報用語について説明できる。	基本的な情報用語について説明できる。	基本的な情報用語を説明できない。				
評価項目2	専門的な情報システムについて説明できる。	基本的な情報システムについて説明できる。	基本的な情報システムを説明できない。				
評価項目3	情報社会において必要な知識を活用することができる。	情報社会において基本的に必要となる知識を説明できる。	情報社会において基本的に必要となる知識を説明できない。				
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 1							
教育方法等							
概要	エンドユーザーとしてコンピュータを活用する知識を身につけることを目標とする。本講義は、情報基礎I・情報基礎IIで修得した基礎知識を活用する。また講義内容は、文部省後援の公的資格である「情報処理活用能力試験情報処理活用1級」に対応する。						
授業の進め方・方法	講義による説明と演習による形式で行う。 なお事前に行う準備学習として、以下の前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨むこと。 (授業外学習・事前) 授業内容を予習しておくこと (授業外学習・事後) 授業内容の復習を行うこと						
注意点	評価が50点に満たない者は、願い出により追認のための課題を受けることができる。追認課題の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を50点とする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	シラバスの概説			
		2週	ネットワークの利用	ネットワークの概要			
		3週	ネットワークの利用	LANの基礎知識			
		4週	ネットワークの利用	無線LANの構築とネットワークセキュリティ			
		5週	ネットワークの利用	演習			
		6週	アプリケーションソフトの基礎知識	ソフトウェアの種類と利用法			
		7週	情報モラルとネットワークセキュリティ	コンピューターウイルス			
		8週	情報モラルとネットワークセキュリティ	暗号化技術			
	4thQ	9週	情報モラルとネットワークセキュリティ	電子認証と電子署名			
		10週	情報モラルとネットワークセキュリティ	演習			
		11週	コンピューターセキュリティ	情報モラルと法制度			
		12週	コンピューターセキュリティ	生活と情報セキュリティ			
		13週	コンピューターセキュリティ	セキュリティポリシー			
		14週	コンピューターセキュリティ	演習			
		15週	期末試験	学習内容の確認を行う。			
		16週	成績評価・確認	講義のまとめと成績の確認を行う。			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	20	0	0	0	0	70
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	英語圏異文化実習
科目基礎情報					
科目番号	0062		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材					
担当教員	松原 義弘				
到達目標					
<p>1. 英語圏での生活体験を通して、英語を正確にかつ積極的に使うことの重要性を認識するとともに、その達成に努力することができる。</p> <p>2. 英語圏での生活体験を通して、英語の背景にある欧米文化、とくに主語と動詞を明確にする因果関係のコミュニケーションスタイルに気づき、これを新たに構築しようと努力することができる。</p> <p>3. 本研修にかかる全ての準備、実施、事後報告の活動を通じて、規則、約束、期限を遵守でき、言語的コミュニケーションを軸にして主体的に生活できるようになること。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
英語力	英語を正確にかつ積極的に使うことの重要性を認識するとともに、その達成に努力することができる。		英語を正確に使うことの重要性を認識し努力することができる。		英語を正確かつ積極的に使うための努力をしない。
異文化コミュニケーション	英語の背景にある欧米文化、とくに主語と動詞を明確にする因果関係のコミュニケーションスタイルに気づき、これを新たに構築しようと努力することができる。		英語の背景にある欧米文化の主語と動詞を明確にするコミュニケーションスタイルの構築することができる。		主語と動詞を明確にするコミュニケーションスタイルを学ぼうとしない。
言語的コミュニケーション	規則、約束、期限を遵守でき、言語的コミュニケーションを軸にして主体的に生活できるようになること。		規則、約束、期限を遵守でき、主体的に生活できるように努力をすること。		言語による主体的な生活を作ろうとしない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英語圏異文化実習は英語圏の国において毎夏実施している3週間の異文化体験実習である。この研修への参加者は、出発前の事前ガイダンスに参加することが義務付けられている。物心両面における周到な準備を経て研修を迎えることにしている。現地では、午前中は語学の授業、午後は現地の自然や設備を使った様々な活動やフィールドトリップに参加する。生活の基盤はホームステイであり、英語圏の国の日常生活全体を通して異文化理解体験の場を提供する。帰国後は、所定のレポートと現地での学業成績や出席状況を提出して単位が付与される。				
授業の進め方・方法	事前ガイダンス、現地研修参加、及び、事後報告書と成績、出席証明の提出に基づいて、「認」、「不認」で評価される。 講義形式：実習 (授業外学習・事前) 事前ガイダンスに参加し実習の準備を進める。実習先の国について歴史や文化の概略を調べる。 (授業外学習・事後) 実習で得たことを事後報告書にまとめ提出する。				
注意点	この研修への参加条件として、学内で学生処分の経歴を有する者は参加することができないので注意のこと（詳細は研修担当者まで）。 引率者は出発から冒頭の1週間学生に随行して、諸問題の解決を支援する。 世界情勢や感染症等によって、中止や、オンラインあるいは国内の施設における実習の場合がある。 評価が50点に満たない者に対する追認試験は行わない。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	出発前ガイダンス (1)	参加者の自己紹介、抱負の共有、リーダー・副リーダー決定、プログラム登録書類・ホームステイ関係書類の作成指導	
		2週	出発前ガイダンス (2)	携行品、ホームステイ上の注意、旅行保険の加入等	
		3週	出発前ガイダンス (3)	保護者同伴ガイダンス、費用の納入、携行品の確認	
		4週	出発前ガイダンス (4)	ホームステイ情報の提供	
		5週	出発前ガイダンス (5)	緊急連絡体制の確認、出発時間・場所の確認	
		6週	現地第1週目	午前：語学の授業、午後：アクティビティー、放課後：ホームステイ	
		7週	現地第2週目	週末 (土・日) は、ホームステイ先のホストファミリーと過ごす。	
		8週	現地第3週目		
	2ndQ	9週	帰国後ガイダンス	研修中に遭遇した問題点の反省、単位認定に必要なものの確認	
		10週	レポート作成、成績証明書、出席証明書	必要書類の期限内提出	
		11週	単位認定		
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			

		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
		4thQ	9週	
	10週			
	11週			
	12週			
	13週			
	14週			
	15週			
	16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	レポート・発表	出席・態度	相互評価	合計
総合評価割合	60	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	30	20	0	50
分野横断的能力	30	20	0	50

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	物流概論 I Ⅱ		
科目基礎情報							
科目番号	0063		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年	2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	齊藤実・矢野裕児・林克彦 著『物流論』中央経済社						
担当教員	村山 雅子						
到達目標							
今日のビジネスを考えるにあたり、「物流」は大変重要なプロセスである。本講義では、物流の基礎概念を学ぶと共に、物流をはじめとして国際ビジネスを取り巻く現状を捉え、物流やビジネスに関する問題意識を醸成する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	物流における基本的なモノの流れについて説明できる。		物流における基本的なモノの流れについて不十分ながらも説明できる。		物流における基本的なモノの流れについて説明できない。		
評価項目2	物流の要素である輸送・荷役・保管などの各活動と、その役割について説明できる。		物流の要素である輸送・荷役・保管などの各活動と、その役割について不十分ながらも説明できる。		物流の要素である輸送・荷役・保管などの各活動と、その役割について説明できない。		
評価項目3	輸送活動における輸送機関の基礎的な特徴について説明できる。		輸送活動における輸送機関の基礎的な特徴について不十分ながらも説明できる。		輸送活動における輸送機関の基礎的な特徴について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	講義形式で行う						
授業の進め方・方法	当科目では、ノート作成の際に、板書に加えて講義中に説明した内容を学生が各自記述することにより、理解をすすめていくことを促す。 事前に行う準備学習：前回の講義の復習を行ってから授業に臨むこと						
注意点	評価が50点に満たないものは、願出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を50点とする。評価方法及び評価基準は、本試験と同じとする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス	シラバスの説明			
		2週	物流と流通	物流と流通の役割について説明できる。			
		3週	物流の領域	物流の領域による分類について説明できる。			
		4週	物流サービスの概念と特徴	物流サービスの概念と特徴について説明できる。			
		5週	物流とロジスティクス	ロジスティクスの定義について説明できる。			
		6週	物流市場の変化	日本経済の動向と物流ニーズの変化について説明できる。			
		7週	輸送モード	輸送モードの種類と役割について説明できる。			
		8週	自動車輸送	自動車輸送の機能と役割について説明できる。			
	2ndQ	9週	中間試験	1回から8回の既習範囲について試験を行う。			
		10週	自動車輸送②	トラック運送事業の歴史と変化について説明できる。			
		11週	宅配便	宅配便の歴史と役割について説明できる。			
		12週	トラック運送事業の課題	トラック運送事業の課題について説明できる。			
		13週	鉄道輸送	鉄道貨物輸送の機能と役割について説明できる。			
		14週	鉄道輸送②	鉄道貨物駅の物流拠点としての機能と役割について説明できる。			
		15週	期末試験	前期の既習範囲について試験を行う。			
		16週	成績評価・確認	期末試験の成績を確認する			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	5	35
専門的能力	40	0	0	0	0	10	50
分野横断的能力	10	0	0	0	0	5	15